

これからの公共施設のあり方に関する市民アンケート 調査報告書

＼ なんだ かんた ＼



2025年10月

町 田 市

目 次

第1章 調査の概要	5
1. 調査名称	5
2. 調査目的	5
3. 調査項目	5
4. 調査設計	6
5. 回収結果	6
6. 地域区分	6
7. 報告書の見方	7
第2章 調査結果	8
1. 基本属性	8
(1) 性別	8
(2) 年齢	10
(3) 職業	12
(4) 居住地域	13
(5) 家族構成	14
(6) 最寄り駅（最もよく利用する駅）	15
(7) 公共施設の利用頻度	17
2. 公共施設の「より良いかたち」の実現に向けた課題等	20
(1) 安全性確保を最優先とした公共施設の管理の必要性	22
(2) 公共施設再編を進める必要性	24
(3) 公共施設のあり方の柔軟な見直しの必要性	26
(4) 身近な公共施設における地域拠点の役割維持の必要性	28
(5) 時代に適応した将来につながるかたちへの変化	30
3. 公共施設の再編に関する考え方	32
(1) 「複合化・多機能化」による維持管理費用の削減	34
(2) 駅や交通利便性の高い地域へのサービス集約	36
(3) 「長寿命化」による施設の長期維持	38
(4) 「官民連携」によるサービスの効果的・効率的な提供	40
(5) 市所有の土地・建物の効果的な利活用	42
4. 公共施設の“みらい”	44
(1) 公共施設の役割を考えるうえで重要だと思うキーワード	45
(2) 主要な駅周辺にあると良い公共施設	48
(3) 地域拠点にあると良い機能・サービス	51
(4) 優先的に維持していく必要がある公共施設の機能・サービス	54
(5) 町田市の公共施設についてのご意見（自由記述）	57
資 料 編	59

第1章 調査の概要

1. 調査名称

これからの公共施設のあり方に関する市民アンケート

2. 調査目的

町田市では、「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」及び「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」の改定に向けて、検討を行っています。

「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」は、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する方向性等を示している計画です。また、「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」は、「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」に基づく公共施設マネジメントの実行計画です。

本調査は、これらの計画の改定にあたり、これからの公共施設のあり方等に関するニーズを把握することを目的とします。

3. 調査項目

調査項目	調査内容
基本属性	性別、年齢、職業、居住地、家族構成、最寄り駅（最もよく利用する駅）、公共施設の利用頻度
公共施設の「より良いかたち」の実現に向けた課題等	(1)安全性確保を最優先とした公共施設の管理の必要性 (2)公共施設再編を進める必要性 (3)公共施設のあり方の柔軟な見直しの必要性 (4)身近な公共施設における地域拠点の役割維持の必要性 (5)時代に適応した将来につながるかたちへの変化
公共施設の再編に関する考え方	(1)「複合化・多機能化」による維持管理費用の削減 (2)駅や交通利便性の高い地域へのサービス集約 (3)「長寿命化」による施設の長期維持 (4)「官民連携」によるサービスの効果的・効率的な提供 (5)市所有の土地・建物の効果的な利活用
公共施設の“みらい”	(1)公共施設の役割を考えるうえでの重要なキーワード (2)主要な駅周辺にあると良い公共施設 (3)地域拠点にあると良い機能・サービス (4)優先的に維持していく必要がある公共施設の機能・サービス (5)町田市の公共施設についてのご意見(自由記述)

4. 調査設計

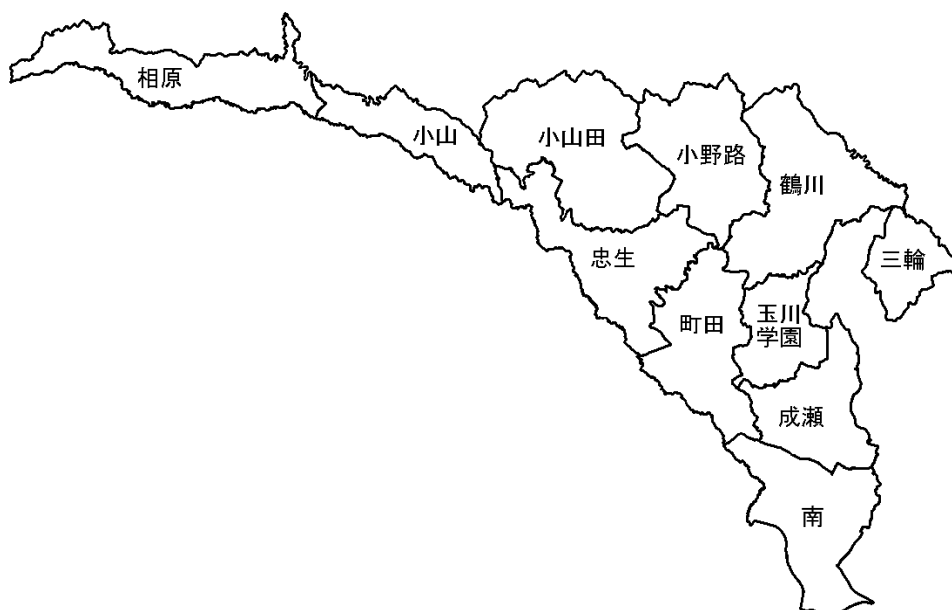
- (1) 調査地域 町田市全域
- (2) 調査対象 市内在住の15歳以上80歳未満の個人（2025年4月1日現在）
- (3) 対象者数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送による配布、郵送およびインターネットによる回収
- (6) 調査時期 2025年6月10日～6月30日

5. 回収結果

- (1) 調査件数 3,000件
- (2) 有効回収数 963件（郵送628件、インターネット335件）
- (3) 有効回収率 32.1%（郵送65.2%、インターネット34.8%）

6. 地域区分

居住地域別のデータは、以下の地域区分で集計、分析を行った。



地 区	町 名 (50音順)
相 原	相原町
小 山	小山町、小山ヶ丘
小 山 田	上小山田町、下小山田町、図師町
小 野 路	小野路町、野津田町
鶴 川	大蔵町、金井、金井ヶ丘、金井町、真光寺、真光寺町、鶴川、能ヶ谷、広袴、広袴町、薬師台
三 輪	三輪町、三輪緑山
忠 生	小山田桜台、木曽西、木曽東、木曽町、忠生、常盤町、根岸、根岸町、矢部町、山崎、山崎町
町 田	旭町、中町、原町田、本町田、藤の台、森野
玉 川 学 園	玉川学園、東玉川学園、南大谷
成 瀬	高ヶ坂、成瀬、成瀬が丘、成瀬台、西成瀬、南成瀬
南	小川、金森、金森東、つくし野、鶴間、南つくし野、南町田

7. 報告書の見方

- ① 表、グラフのnまたは（ ）内の数字は回答者数を示しており、設問の回答はすべてnを基数とした百分率（％）で表している。
- ② 回答の比率（％）は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100％にならない場合がある。
- ③ 回答を複数選択する設問では、数値の合計が100％を超える場合がある。
- ④ 本文や図表中の選択肢・凡例の表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑤ n（回答者数）が30未満の場合は、回答（選択肢）ごとの比率に差が生じやすく、また標本誤差が大きくなるため、回答の分析で触れていない。

○標本誤差について

標本を無作為に抽出した世論調査の統計数値には誤差があり、次の公式によって算出される。

<標本誤差の計算式>

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団の大きさ
n = 回答数
P = 回答の比率

<標本誤差早見表>

今回の調査対象となった15～79歳の町田市民の人口は336,416人（※2025年4月1日現在）であったので、それぞれの数値を公式に代入すると、次の誤差が算出される。

(N=336,416)

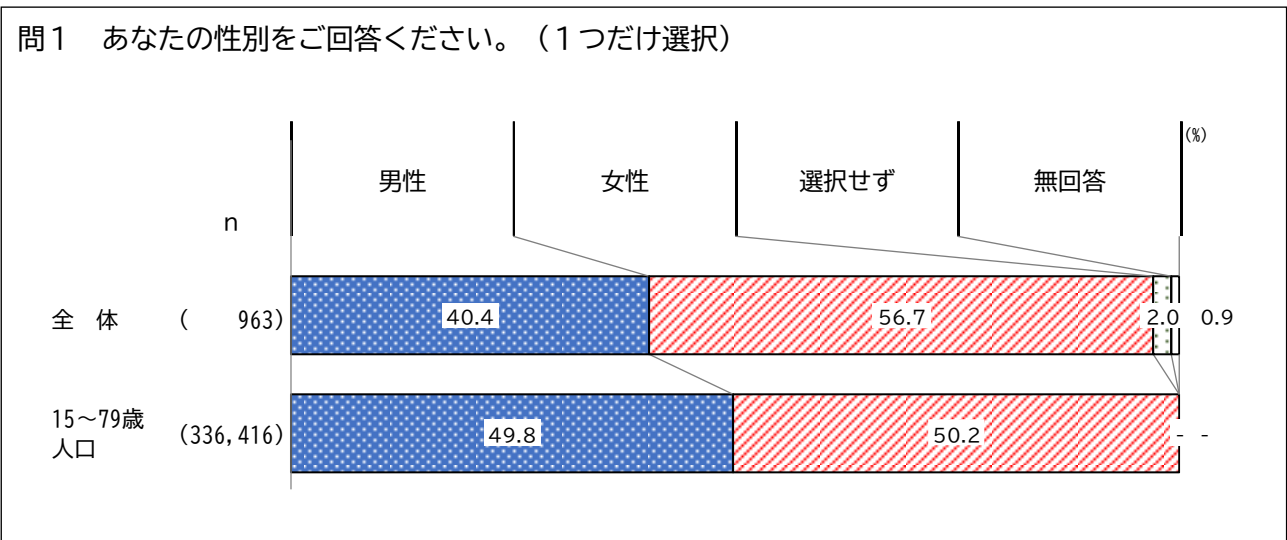
回答比率 (P) 回答数 (n)	10% または90%	20% または80%	30% または70%	40% または60%	50%
963	± 1.9%	± 2.6%	± 2.9%	± 3.2%	± 3.2%
800	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
600	± 2.4%	± 3.3%	± 3.7%	± 4.0%	± 4.1%
400	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
200	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
100	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
50	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

例えば、ある設問の回答が963人であり、その設問の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±3.2%である。

第2章 調査結果

1. 基本属性

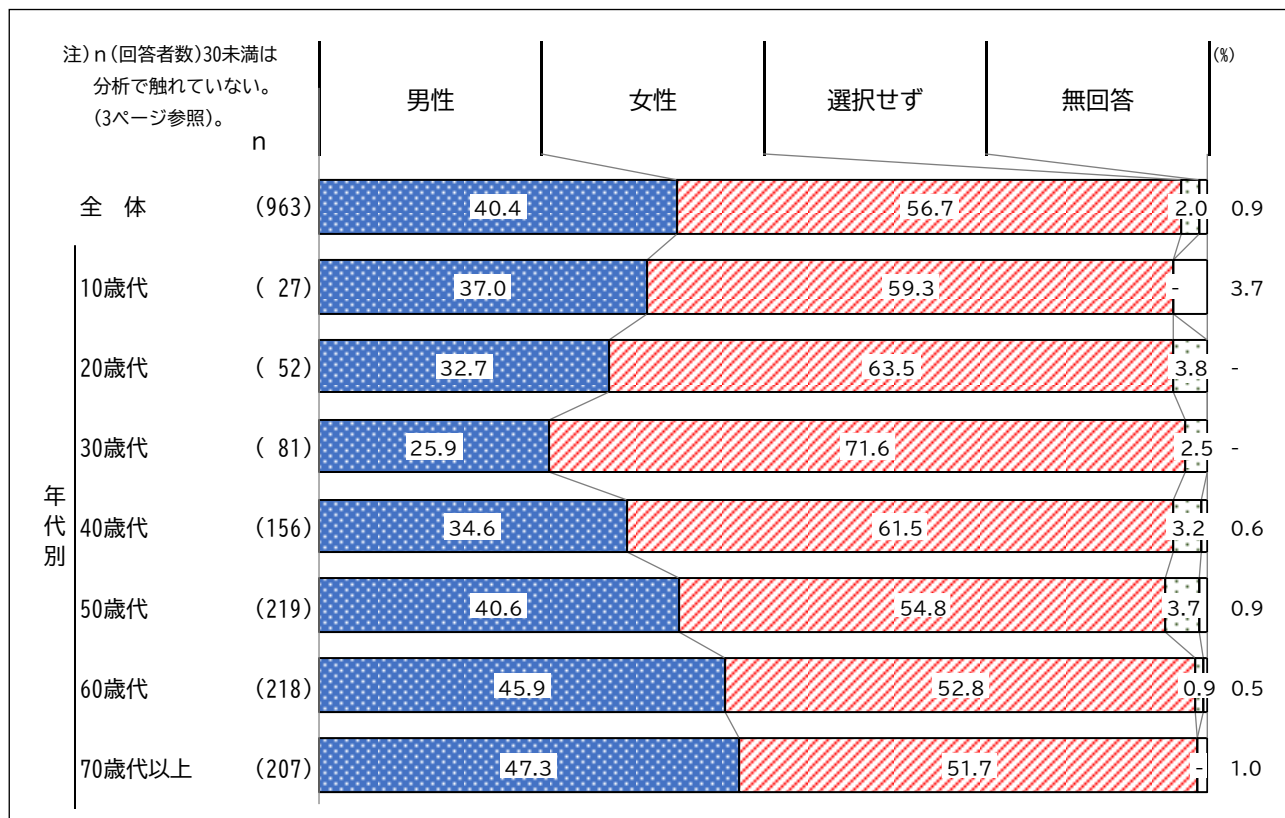
(1) 性別



- ・「男性」が40.4%、「女性」が56.7%、「選択せず」が2.0%となっている。
- ・町田市の15～79歳の人口（2025年4月1日現在）と比較すると、人口構成比より「男性」が9.4ポイント低く、「女性」が6.5ポイント高くなっている。

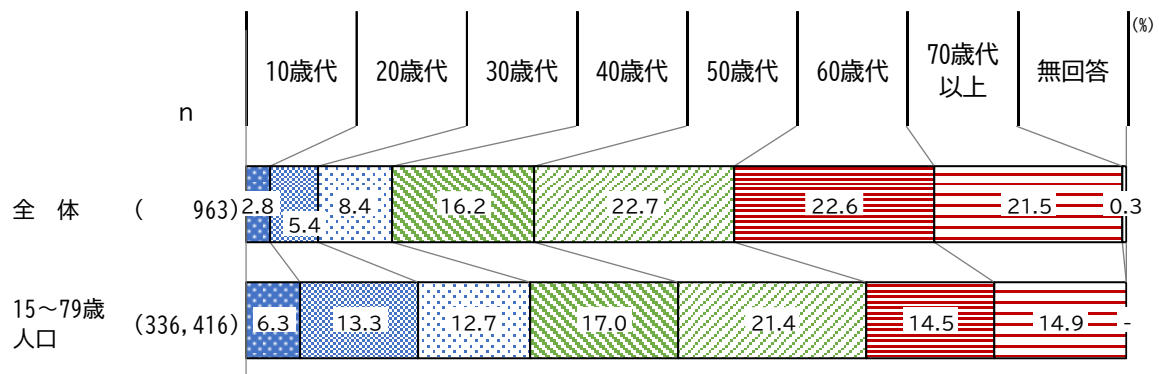
◆年代別

- ・年代別の回答割合について、すべての年代で「女性」の方が「男性」より高い。特に、30歳代は「女性」が71.6%を占めている。



(2) 年齢

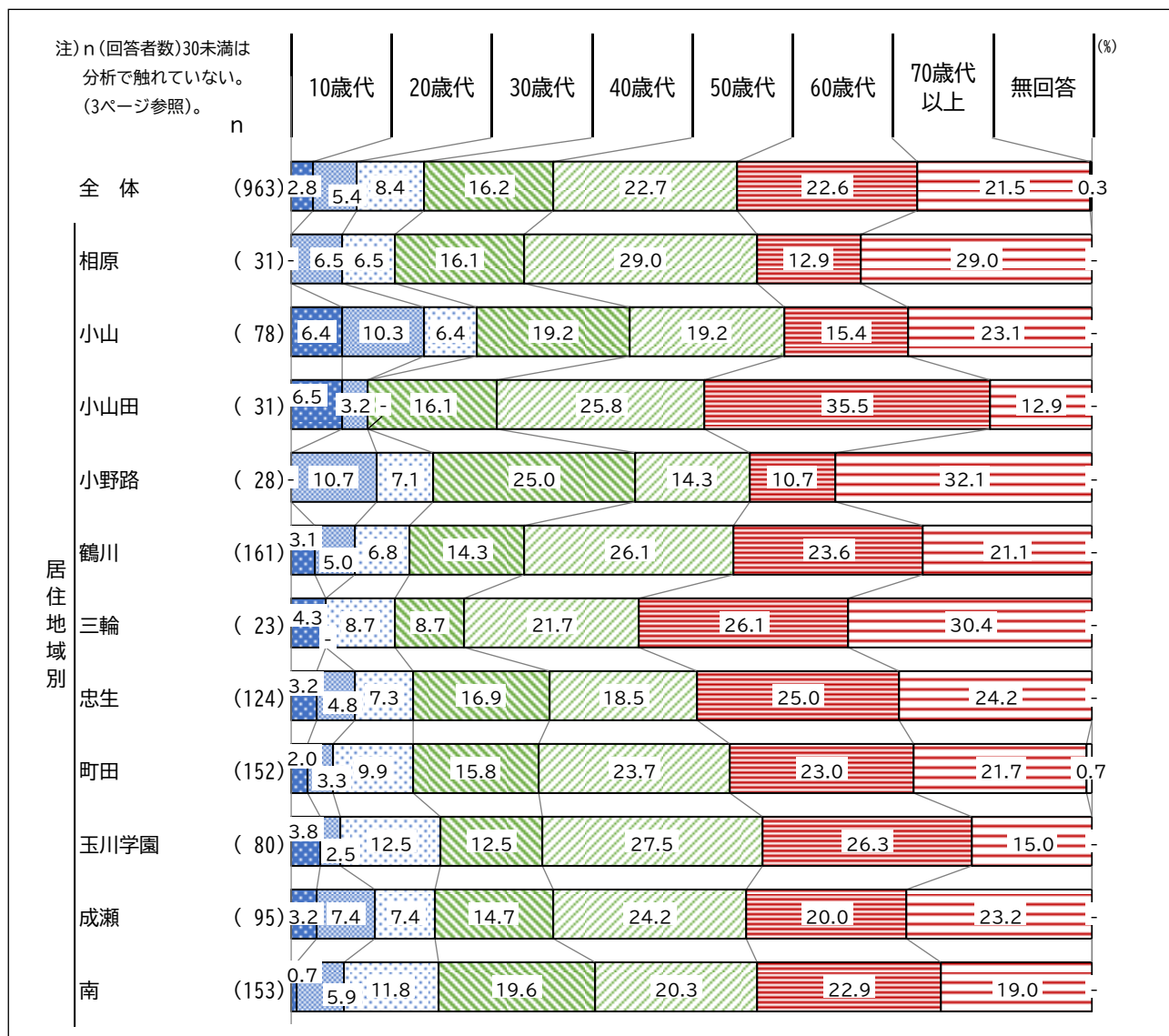
問2 あなたの年齢の年代をご回答ください。(1つだけ選択)



- ・「50歳代」(22.7%)、「60歳代」(22.6%)、「70歳代以上」(21.5%)が20%以上で高くなっている。アンケート回答者の約67%が50歳代以上の方からの回答となっている。
- ・町田市の15~79歳の人口と比較すると、「60歳代」は人口構成比より8.1ポイント高く、「70歳代以上」は6.6ポイント高い。一方、「20歳代」は人口構成比より7.9ポイント低くなっている。

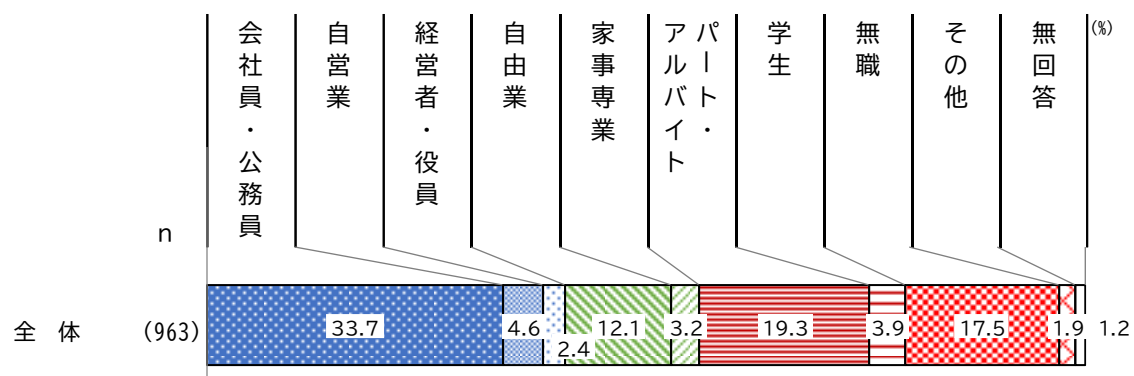
◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、10歳代は小山田地区（6.5%）と小山地区（6.4%）が6%台。
- ・20歳代は小山地区が10.3%。
- ・30歳代は玉川学園地区（12.5%）と南地区（11.8%）が11%以上。
- ・40歳代は南地区（19.6%）と小山地区（19.2%）が19%台。
- ・50歳代は相原地区が29.0%。
- ・60歳代は小山田地区が35.5%。
- ・70歳代以上は相原地区が29.0%。



(3) 職業

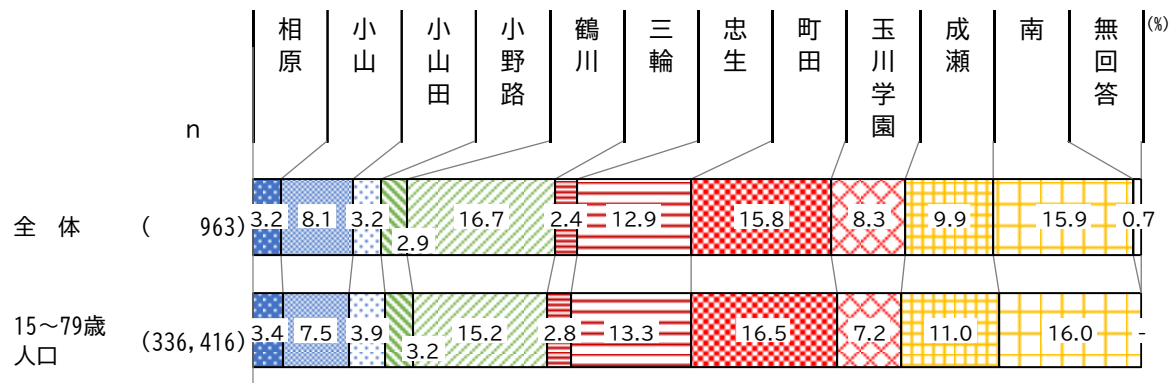
問3 あなたの職業をご回答ください。(1つだけ選択)



- ・「会社員・公務員」(33.7%)が最も高く、次いで「パート・アルバイト」(19.3%)、「無職」(17.5%)が高くなっている。

(4) 居住地域

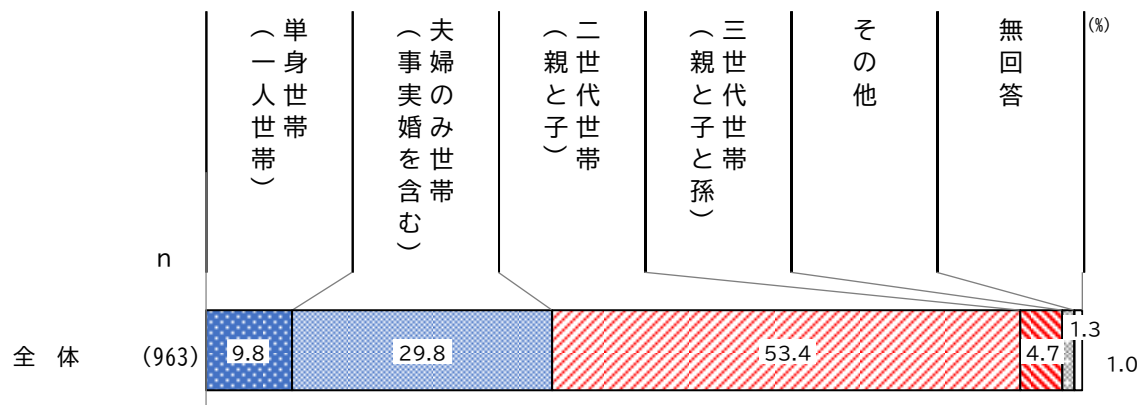
問4 あなたのお住まい（町名）をご回答ください。（50音順）（1つだけ選択）



- ・「鶴川」（16.7%）が最も高く、次いで「南」（15.9%）、「町田」（15.8%）が高くなっている。
- ・町田市の15～79歳の人口と比較すると、傾向に大きな差はみられない。

(5) 家族構成

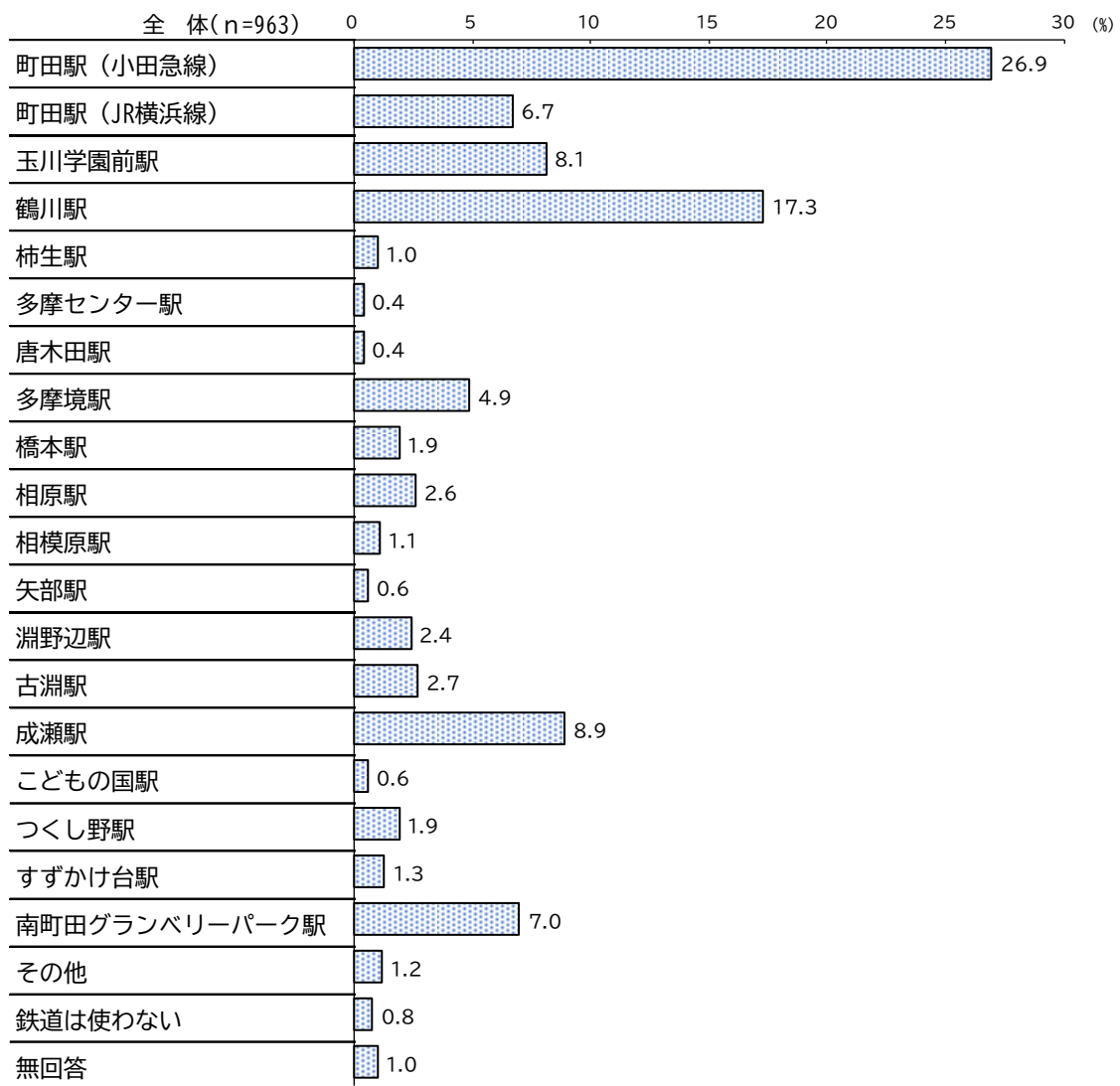
問5 あなたの同居家族の構成は、次のどれにあたりますか。（1つだけ選択）



- ・「二世代世帯（親と子）」（53.4%）が最も高く、次いで「夫婦のみ世帯（事実婚を含む）」（29.8%）が高くなっている。「単身世帯（一人世帯）」も9.8%となっている。

(6) 最寄り駅（最もよく利用する駅）

問4 あなたのご自宅の最寄り駅をご回答ください。最寄り駅と電車に乗る際によく利用する駅が異なる場合は、最もよく利用する駅をご回答ください。（1つだけ選択）



- ・「町田駅 (小田急線)」(26.9%) が最も高い。以下、「鶴川駅」(17.3%)、「成瀬駅」(8.9%)、「玉川学園前駅」(8.1%)、「南町田グランベリーパーク駅」(7.0%) などと続く。

◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、相原地区は「相原駅」（77.4％）が最も高い。
- ・小山地区は「多摩境駅」（60.3％）が最も高い。
- ・小山田地区は「町田駅（小田急線）」（41.9％）が最も高く、次いで「淵野辺駅」（22.6％）が高い。
- ・鶴川地区は「鶴川駅」（84.5％）が最も高い。
- ・忠生地区、町田地区は「町田駅（小田急線）」（忠生58.1％、町田76.3％）が最も高い。
- ・玉川学園地区は「玉川学園前駅」（75.0％）が最も高い。
- ・成瀬地区は「成瀬駅」（64.2％）が最も高い
- ・南地区は「南町田グランベリーパーク駅」（43.8％）が最も高く、次いで「成瀬駅」（15.7％）が高くなっている。

(%)

	n	町田駅 (小田急線)	町田駅 (横浜線)	玉川学園前駅	鶴川駅	柿生駅	多摩センター駅	唐木田駅	多摩境駅	橋本駅	相原駅	相模原駅
全 体	963	26.9	6.7	8.1	17.3	1.0	0.4	0.4	4.9	1.9	2.6	1.1
地区	相原	31	-	-	-	-	-	-	-	22.6	77.4	-
	小山	78	1.3	-	-	-	1.3	-	60.3	14.1	-	14.1
	小山田	31	41.9	6.5	-	-	3.2	12.9	-	-	-	-
	小野路	28	25.0	7.1	-	64.3	3.6	-	-	-	-	-
	鶴川	161	4.3	-	5.0	84.5	1.9	0.6	-	-	-	-
	三輪	23	-	-	-	56.5	30.4	-	-	-	-	-
	忠生	124	58.1	7.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	町田	152	76.3	15.1	3.3	-	-	-	-	-	-	-
	玉川学園	80	16.3	3.8	75.0	-	-	-	-	-	-	-
	成瀬	95	12.6	7.4	5.3	-	-	-	-	-	-	-
	南	153	9.8	12.4	-	-	-	-	-	-	-	-

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。

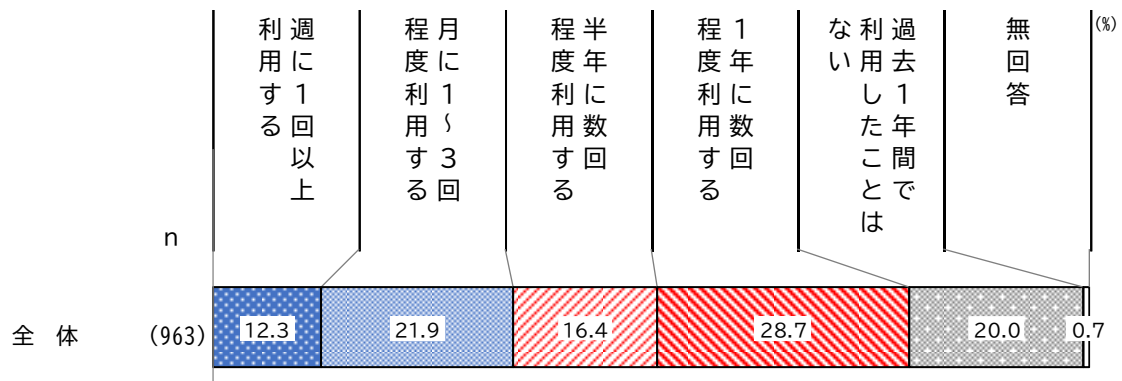
(%)

	n	矢部駅	淵野辺駅	古淵駅	成瀬駅	こどもの国駅	つくし野駅	すずかけ台駅	南町田グランベリーパーク駅	その他	鉄道は使わない	無回答
全 体	963	0.6	2.4	2.7	8.9	0.6	1.9	1.3	7.0	1.2	0.8	1.0
地区	相原	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小山	78	5.1	-	-	-	-	-	-	2.6	1.3	-
	小山田	31	3.2	22.6	-	-	-	-	-	3.2	6.5	-
	小野路	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鶴川	161	-	-	-	0.6	-	-	-	3.1	-	-
	三輪	23	-	-	-	4.3	-	-	-	-	4.3	4.3
	忠生	124	0.8	12.9	18.5	-	-	-	-	-	0.8	1.6
	町田	152	-	-	2.0	-	-	-	-	-	0.7	2.6
	玉川学園	80	-	-	-	1.3	1.3	-	-	-	2.5	-
	成瀬	95	-	-	-	64.2	3.2	4.2	-	3.2	-	-
	南	153	-	-	-	15.7	-	9.2	8.5	43.8	-	0.7

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。

(7) 公共施設の利用頻度

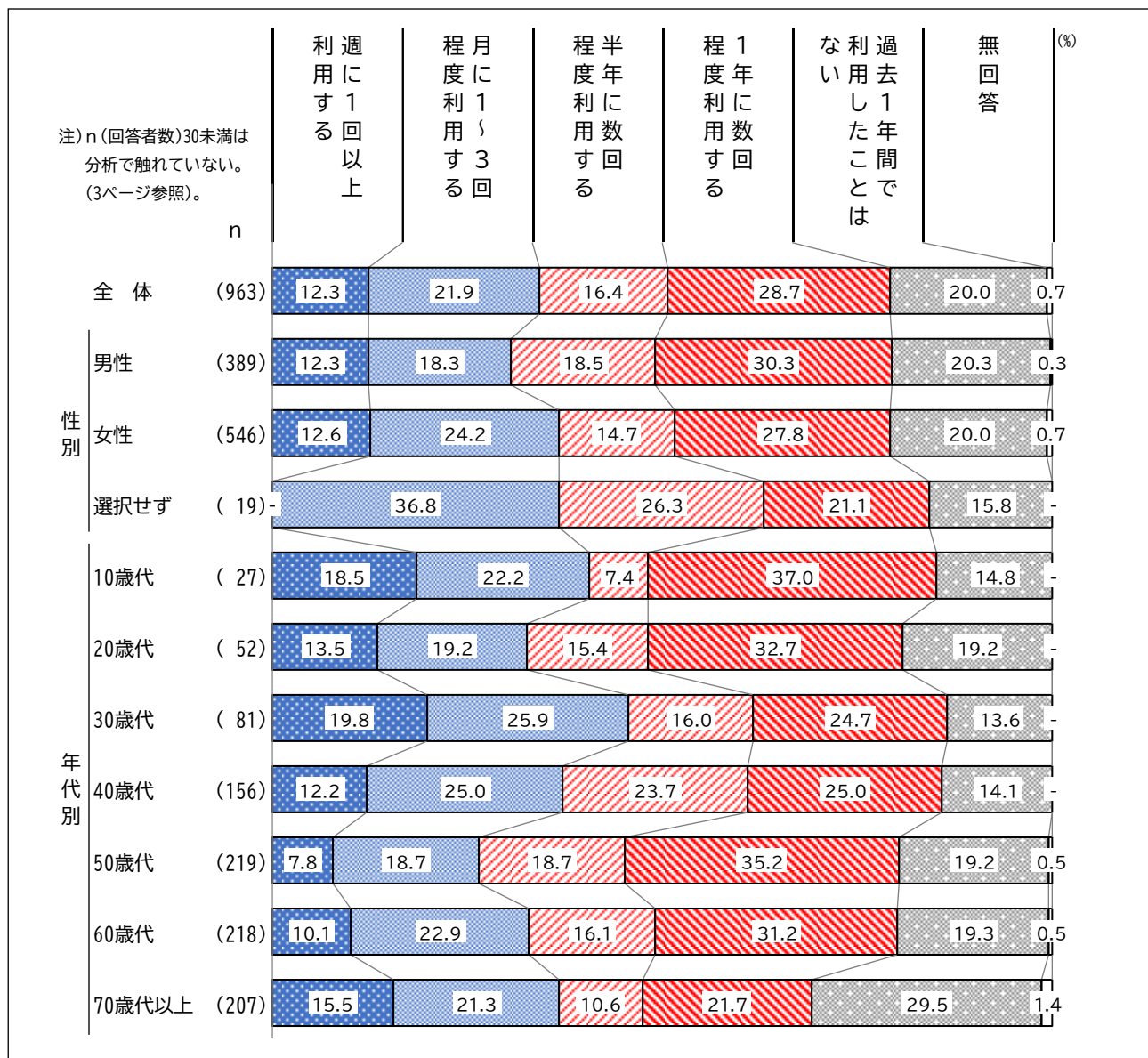
問7 あなたは町田市の公共施設をどの程度利用していますか。概ね最近1年間程度の状況でご回答ください。(1つだけ選択)



- ・「1年に数回程度利用する」が28.7%で最も高い。次いで「月に1～3回程度利用する」(21.9%)、「過去1年間で利用したことはない」(20.0%)が20%以上で続いている。
- ・「週に1回以上利用する」(12.3%)と「月に1～3回程度利用する」(21.9%)を合算すると、《月に1回以上利用する》(以下、「《月に1回以上利用する》」という)が34.2%となる。

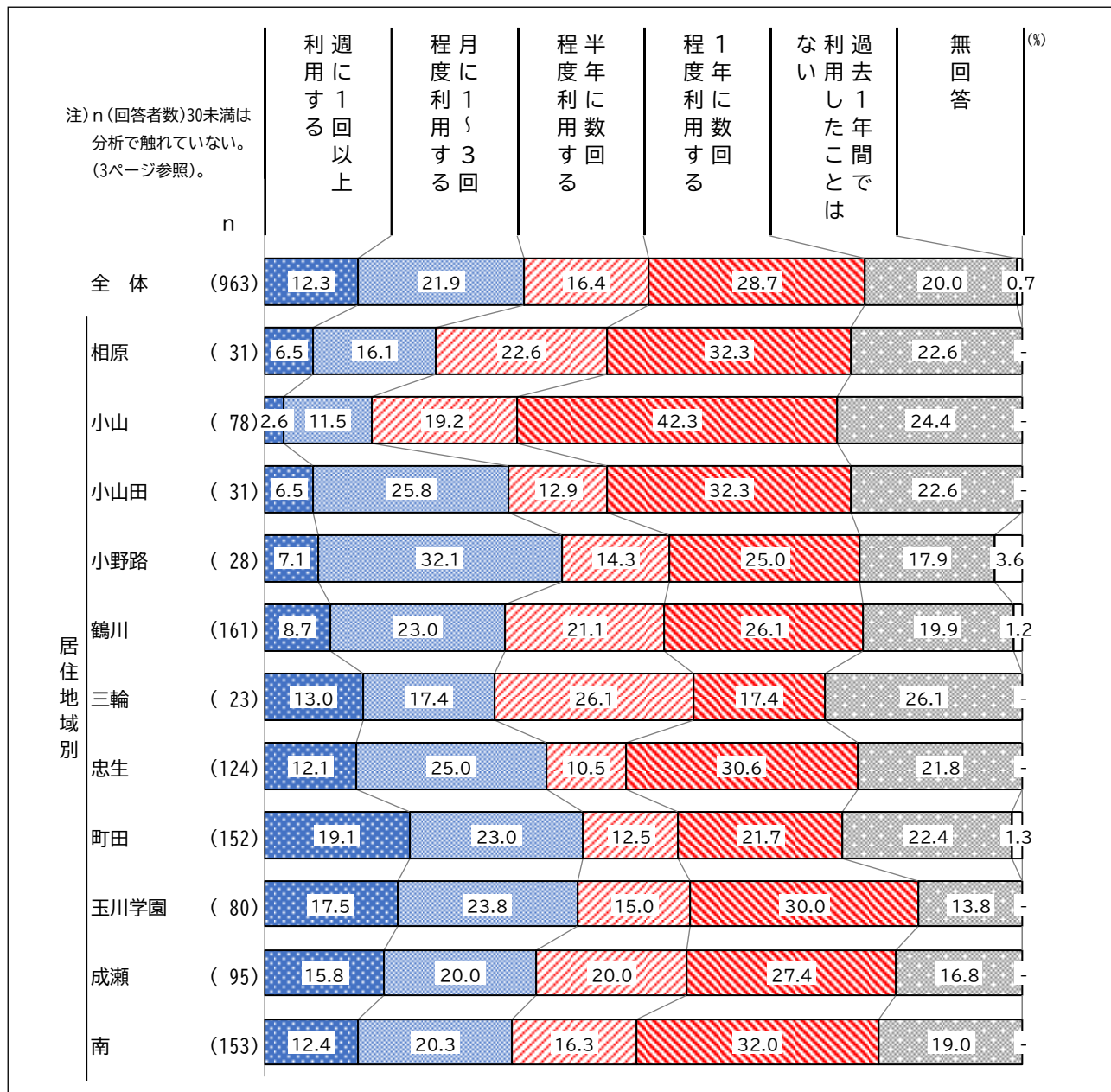
◆性別、年代別

- ・性別でみると、「週に1回以上利用する」と「過去1年間で利用したことはない」は男女間で大差はない。しかし、「月に1～3回程度利用する」は女性（24.2%）の方が男性（18.3%）より5.9ポイント高く、女性の方が若干利用頻度は高い。
- ・年代別でみると、「過去1年間で利用したことはない」は30歳代以降は年代が上がるにつれ高くなっており、最も高いのは70歳代以上（29.5%）で、最も低い30歳代（13.6%）より15.9ポイント高くなっている。
- ・他の年代と比べ、30歳代は「週に1回以上利用する」（19.8%）と「月に1～3回程度利用する」（25.9%）が高く、《月に1回以上利用する》が45.7%となる。



◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「週に1回以上利用する」は町田地区が19.1%で最も高くなっている。次いで玉川学園地区が17.5%となっている。この2地区は、「月に1～3回程度利用する」も各23%台（町田地区23.0%、玉川学園地区23.8%）と比較的高く、《月に1回以上利用する》が40%台（町田地区42.1%、玉川学園地区41.3%）となっている。
- ・小山地区は「1年に数回程度利用する」が42.3%で最も高くなっている。



2. 公共施設の「より良いかたち」の実現に向けた課題等

以下の説明をご覧ください、公共施設・公共空間の「より良いかたち」の実現に向けた課題認識や方向性に関するご質問へご回答いただきました。

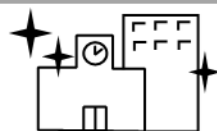
公共施設の「より良いかたち」の実現に向けて

▶ 進む 公共施設の老朽化

1970
年代
前後

高度経済成長期 中、
急激な 人口増加 ↗

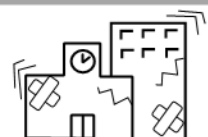
学校をはじめとした
多くの公共施設を整備



これ
から

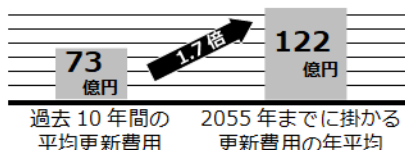
厳しい財政状況 中、
人口減少 局面へ ↘

多くの公共施設の 老朽化
が進み 更新時期 が到来



▶ 維持管理・更新に掛かる 費用不足

公共施設の
維持管理・更新費用
が 増大



今ある 全ての公共施設
をそのまま 維持 して
いくことは できない



▶ 技術進歩 や多様な 官民連携 の進展

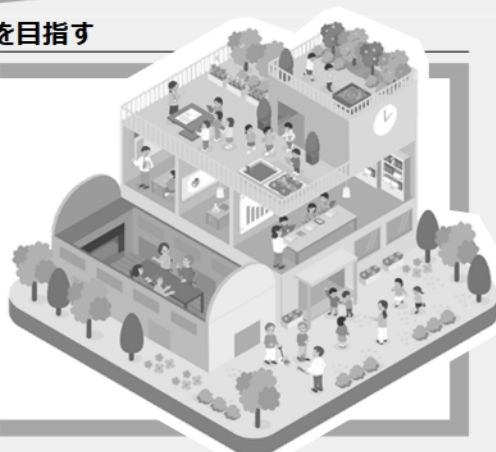
AI、ICT、ロボットなど
目覚ましい テクノロジーの進化
民間事業者、NPO、地域団体など、
多様な主体との連携 が進展

手続きのデジタル化、民間ノウハウの活用などにより
より 便利 で 質の高い サービス、
より 効率的 なサービスの
提供が実現可能に



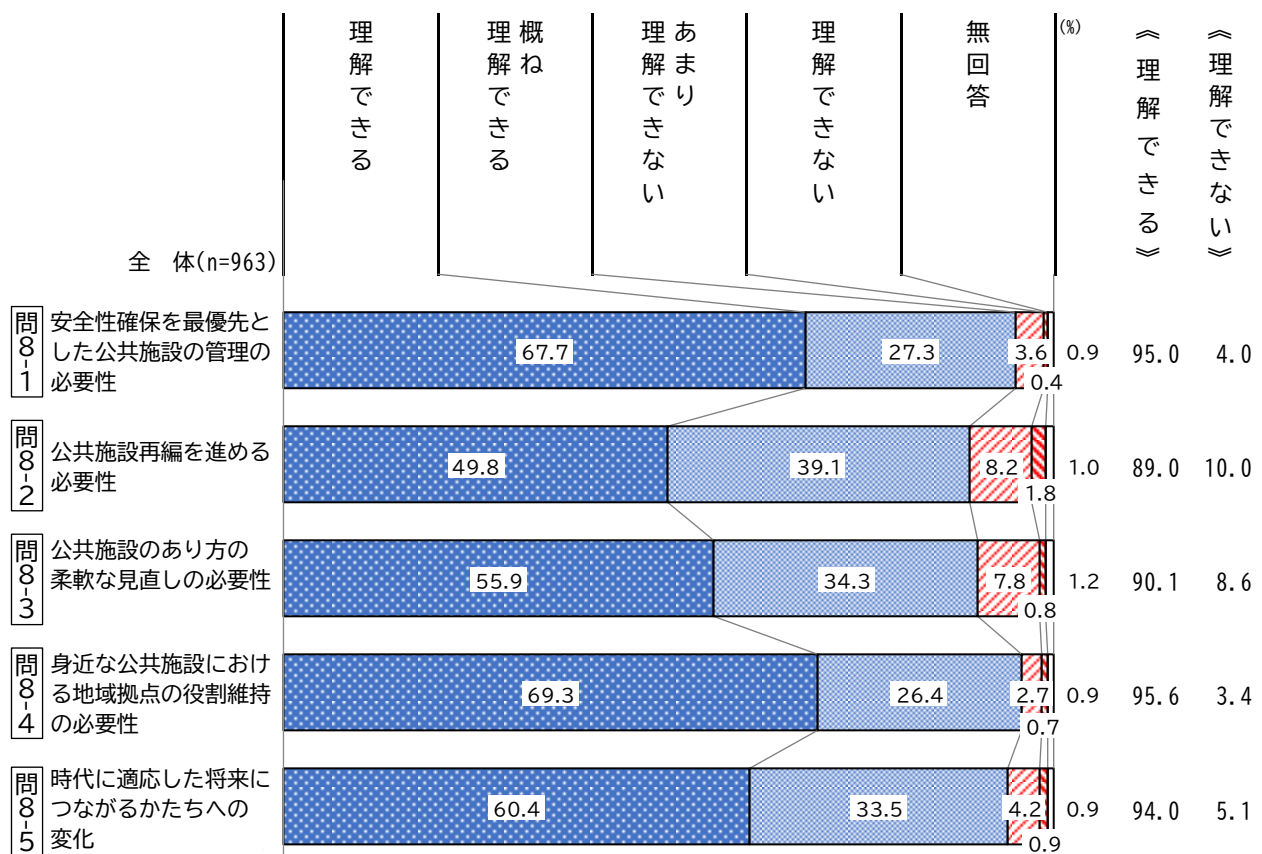
▶ 「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現を目指す

町田市では、公共施設の更新時期にあわせた再編を
新たな価値創出 の チャンス と捉え、
単に施設を減らし コストダウン を図るだけではなく、
これまでの 価値 や 資源、想い を継承しながらも、
時代に適応 した将来につながるかたちへ
変えていきます。



問8 「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現に向けた以下の課題認識や方向性について、どう思いますか。問8-1から問8-5について、あなたの考えに最も近い選択肢をそれぞれお選びください。（それぞれ1つずつ選択）

問8-1	誰もが安心して公共施設を利用できるよう、重大事故の未然防止など、安全性の確保を最優先として、公共施設を管理する必要がある。
問8-2	公共施設を多く整備した高度経済成長期の頃とは大きく異なり、かつてのように莫大な更新費用を捻出することが困難な中でも、安全性を確保し、公共施設を健全に管理するため、再編を進める必要がある。
問8-3	公共施設の再編にあたっては、AI、ロボットなどのテクノロジーの進化や、コロナ禍を契機としたライフスタイル等の変化などを踏まえ、公共施設のあり方を柔軟に見直していく必要がある。
問8-4	災害に強いまちづくりや、豊かな地域社会の実現のため、小・中学校といった身近な公共施設における地域拠点としての役割は、維持していく必要がある。
問8-5	単に施設を減らしコストダウンを図るだけではなく、これまでの価値や資源、想いを継承しながらも、時代に適応した将来につながるかたちへ変えていく。

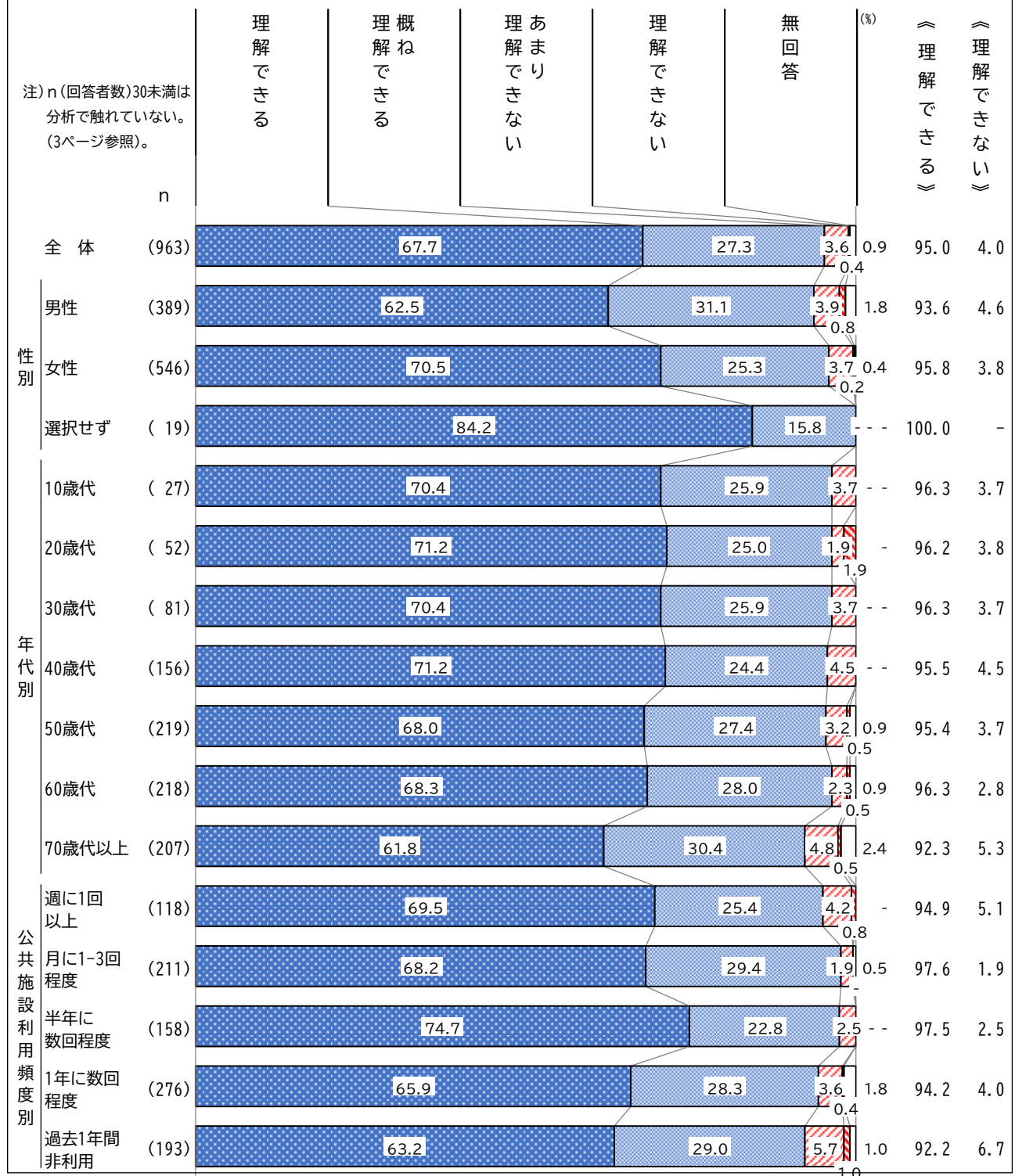


- ・「理解できる」と「概ね理解できる」を合算した《理解できる》（以下、「《理解できる》」という）をみると、問8-1～5の5問全てが9割前後と高い割合となっている。
- ・中でも、「地域拠点の役割維持の必要性」（95.6%）、「安全性確保での管理の必要性」（95.0%）は、95%以上と特に高くなっている。この2項目は「理解できる」が60%台後半であり、且つ、「あまり理解できない」と「理解できない」を合算した《理解できない》（以下、「《理解できない》」という）が3～4%台である。

(1)安全性確保を最優先とした公共施設の管理の必要性

問 8-1 以下の課題認識について、どう思いますか。（1つだけ選択）

誰もが安心して公共施設を利用できるよう、重大事故の未然防止など、安全性の確保を最優先として、公共施設を管理する必要がある。

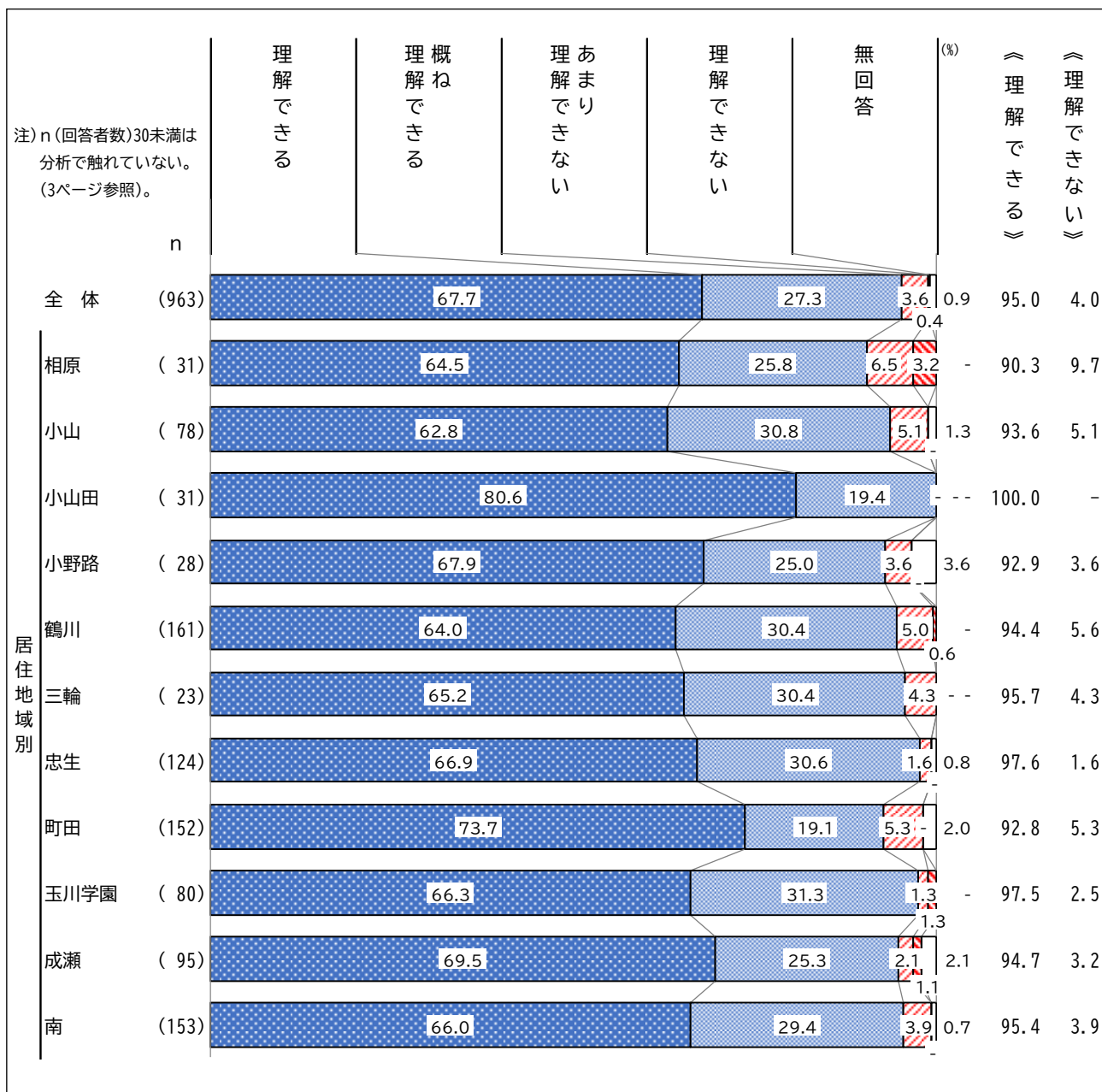


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「理解できる」は男性が93.6%、女性が95.8%となっている。
- ・年代別でみると、「理解できる」は60歳代以下が95～96%で推移しているのに対し、70歳代以上は92.3%となっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、「理解できる」は月に1～3回程度（97.6%）と半年に数回程度（97.5%）が他層より高くなっている。
- ・性別、年代別、公共施設利用頻度別でみても、「理解できる」が大勢を占めている。

◆居住地域別

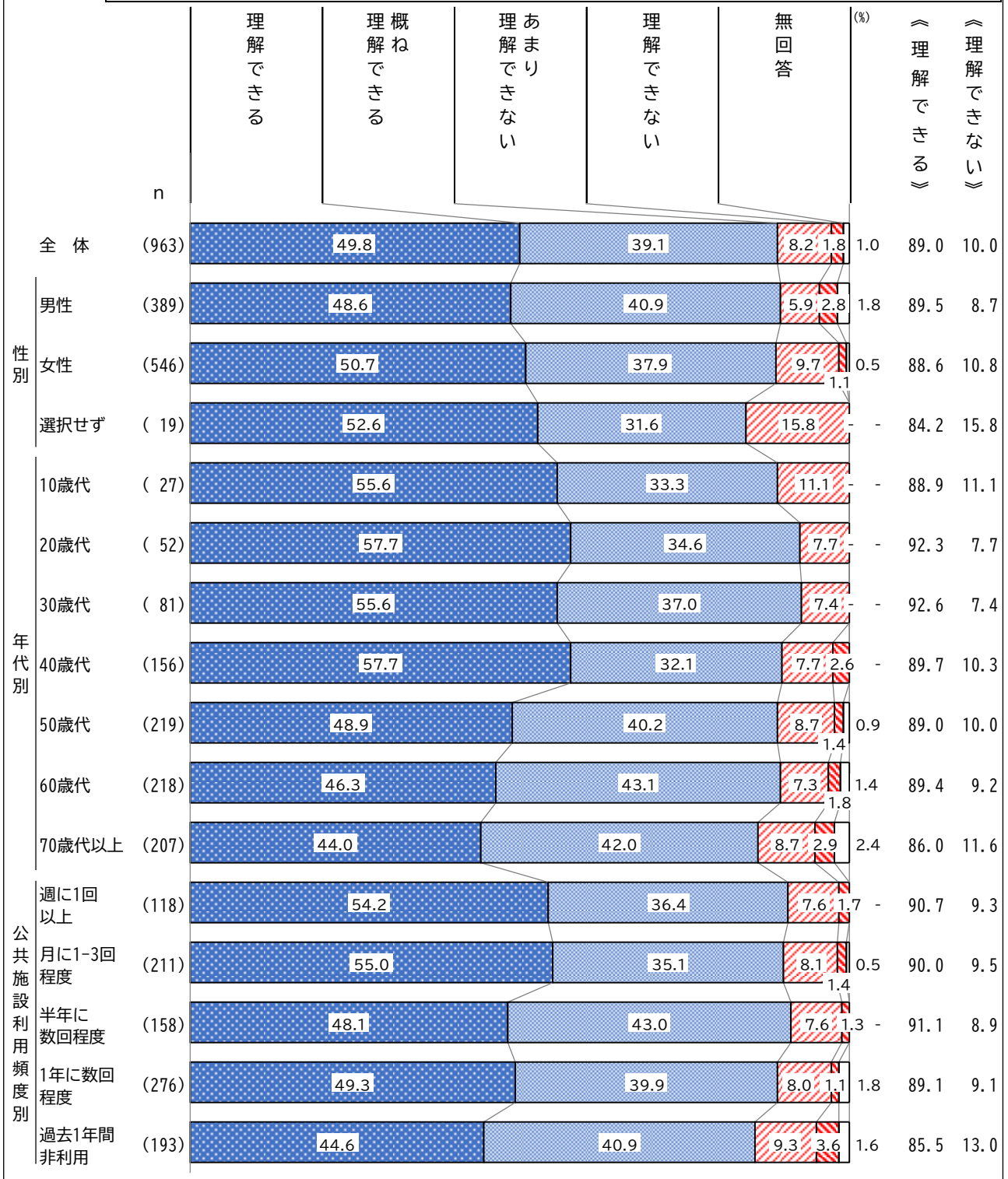
- ・居住地域別でみると、小山田地区は「理解できる」が80.6%で最も高く、《理解できる》は100.0%となっている。
- ・相原地区は《理解できない》が9.7%で最も高くなっている。



(2) 公共施設再編を進める必要性

問8-2 以下の課題認識について、どう思いますか。(1つだけ選択)

公共施設を多く整備した高度経済成長期の頃とは大きく異なり、かつてのように莫大な更新費用を捻出することが困難な中でも、安全性を確保し、公共施設を健全に管理するため、再編を進める必要がある。

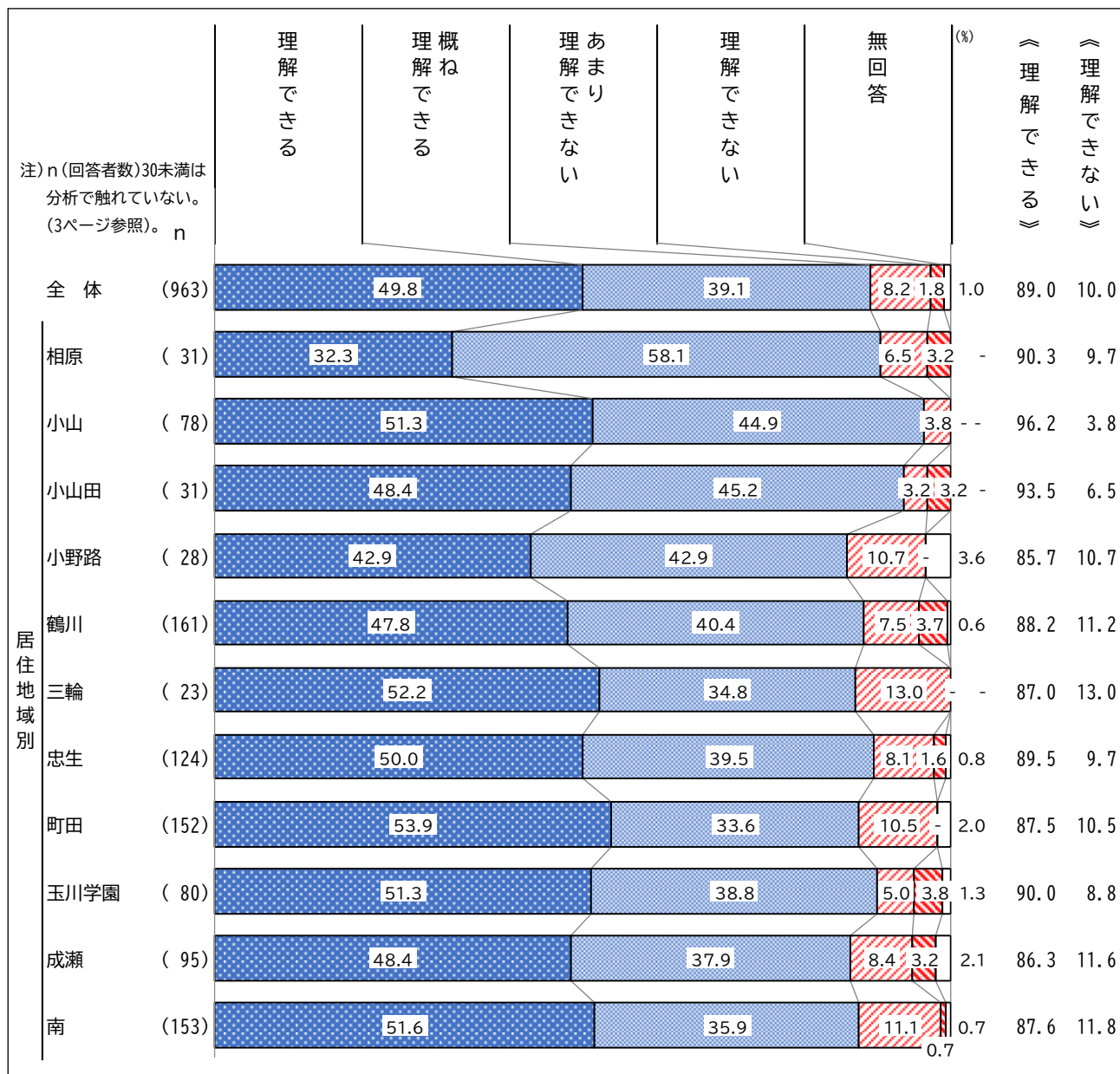


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、《理解できる》は男性が89.5%、女性が88.6%となっている。
- ・年代別でみると、《理解できる》は20歳代(92.3%)、30歳代(92.6%)が92%台となっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、過去1年間非利用は《理解できる》が85.5%で最も低く、《理解できない》が13.0%で最も高い。

◆居住地域別

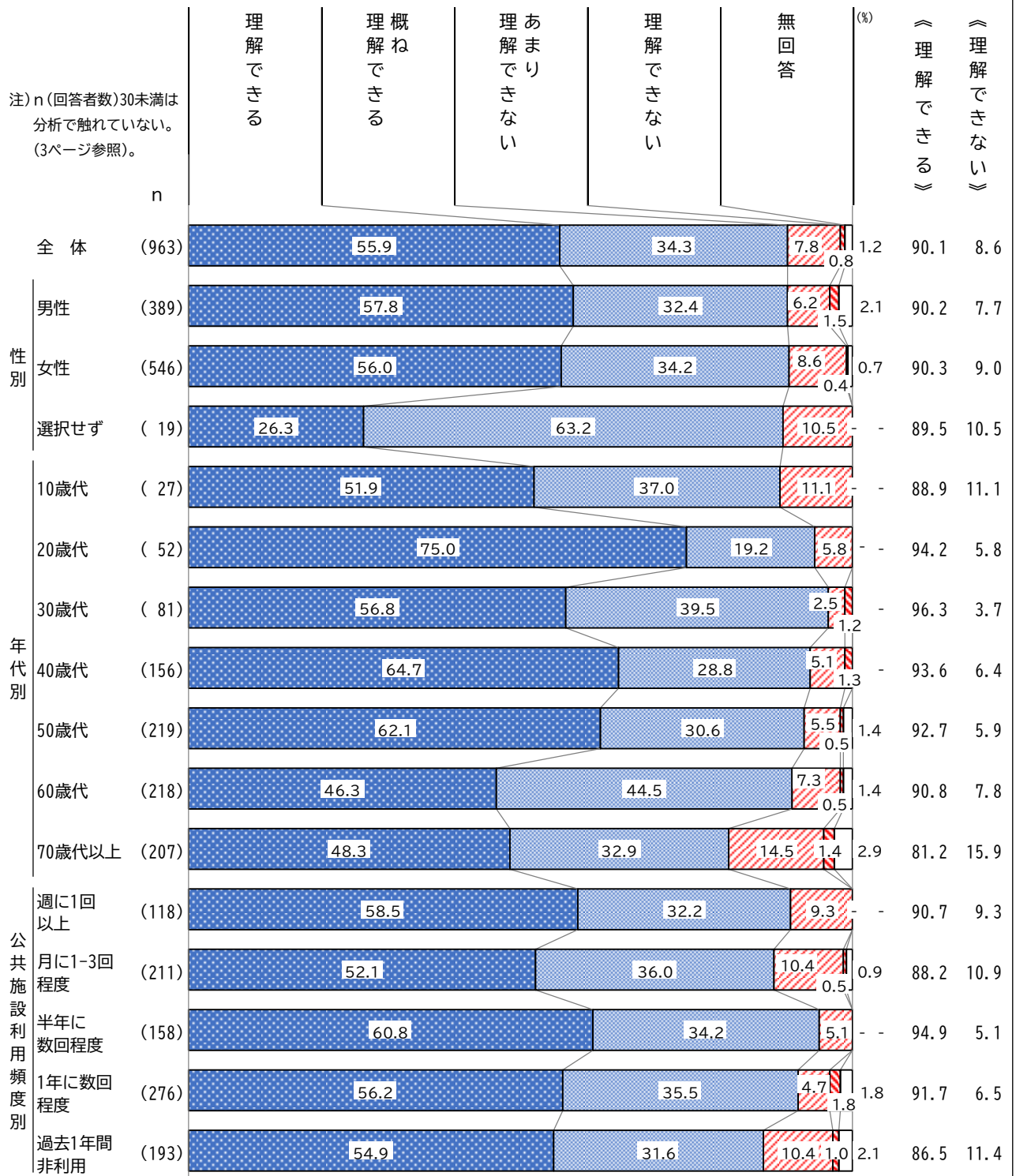
- ・居住地域別でみると、小山地区は《理解できる》が96.2%で最も高く、最も低い小野路地区（85.7%）より10.5ポイント高くなっている。
- ・南地区は《理解できない》が11.8%で最も高く、最も低い小山地区（3.8%）より8.0ポイント高くなっている。



(3) 公共施設のあり方の柔軟な見直しの必要性

問8-3 以下の課題認識について、どう思いますか。(1つだけ選択)

公共施設の再編にあたっては、A I、ロボットなどのテクノロジーの進化や、コロナ禍を契機としたライフスタイル等の変化などを踏まえ、公共施設のあり方を柔軟に見直していく必要がある。

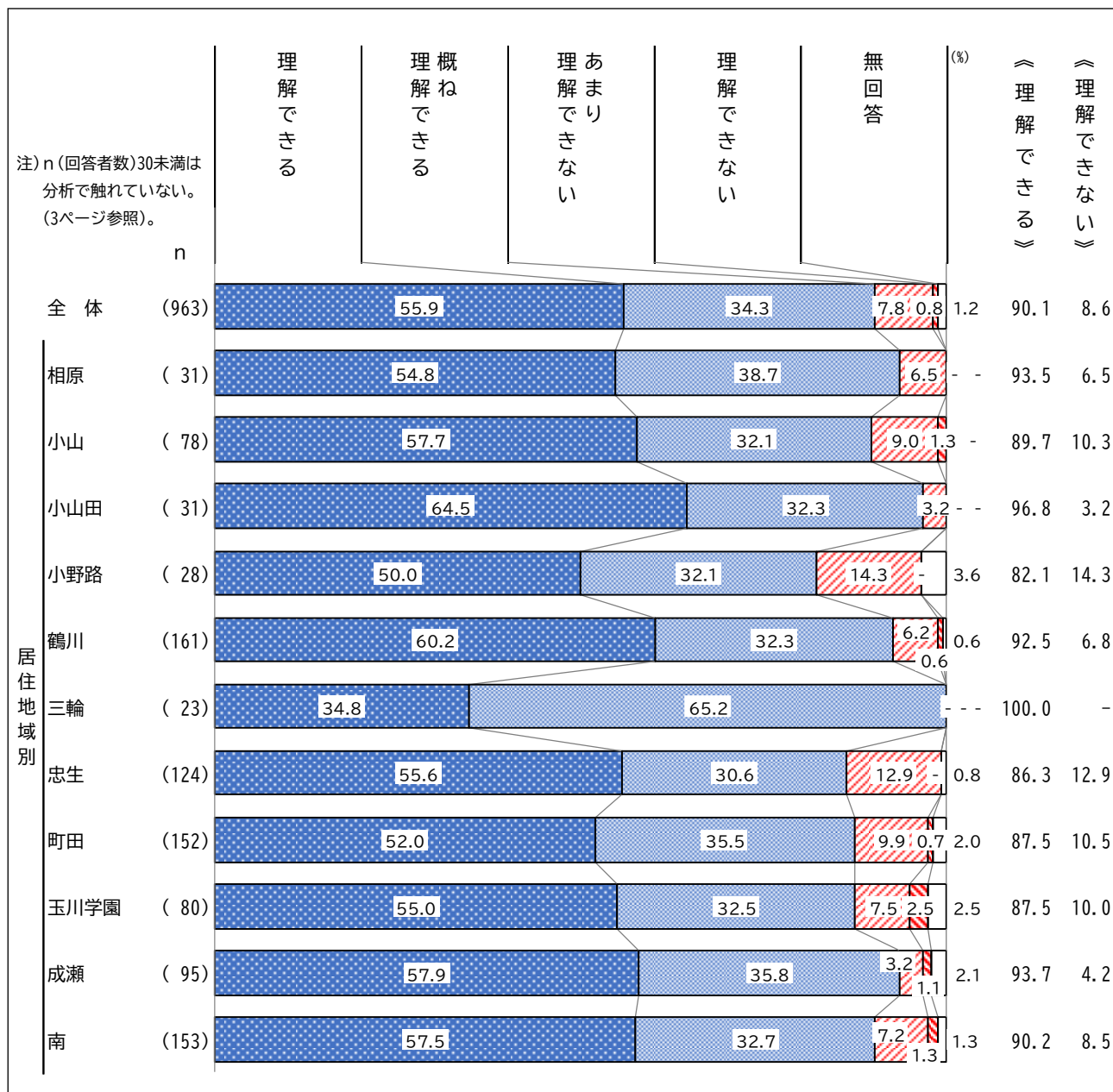


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、《理解できる》は男性が90.2%、女性が90.3%となっている。
- ・年代別でみると、《理解できる》は30歳代(96.3%)、20歳代(94.2%)が高い一方、70歳代以上は81.2%と最も低い。
- ・公共施設利用頻度別でみると、半年に数回程度は《理解できる》が94.9%で最も高く、《理解できない》が5.1%で最も低くなっている。

◆居住地域別

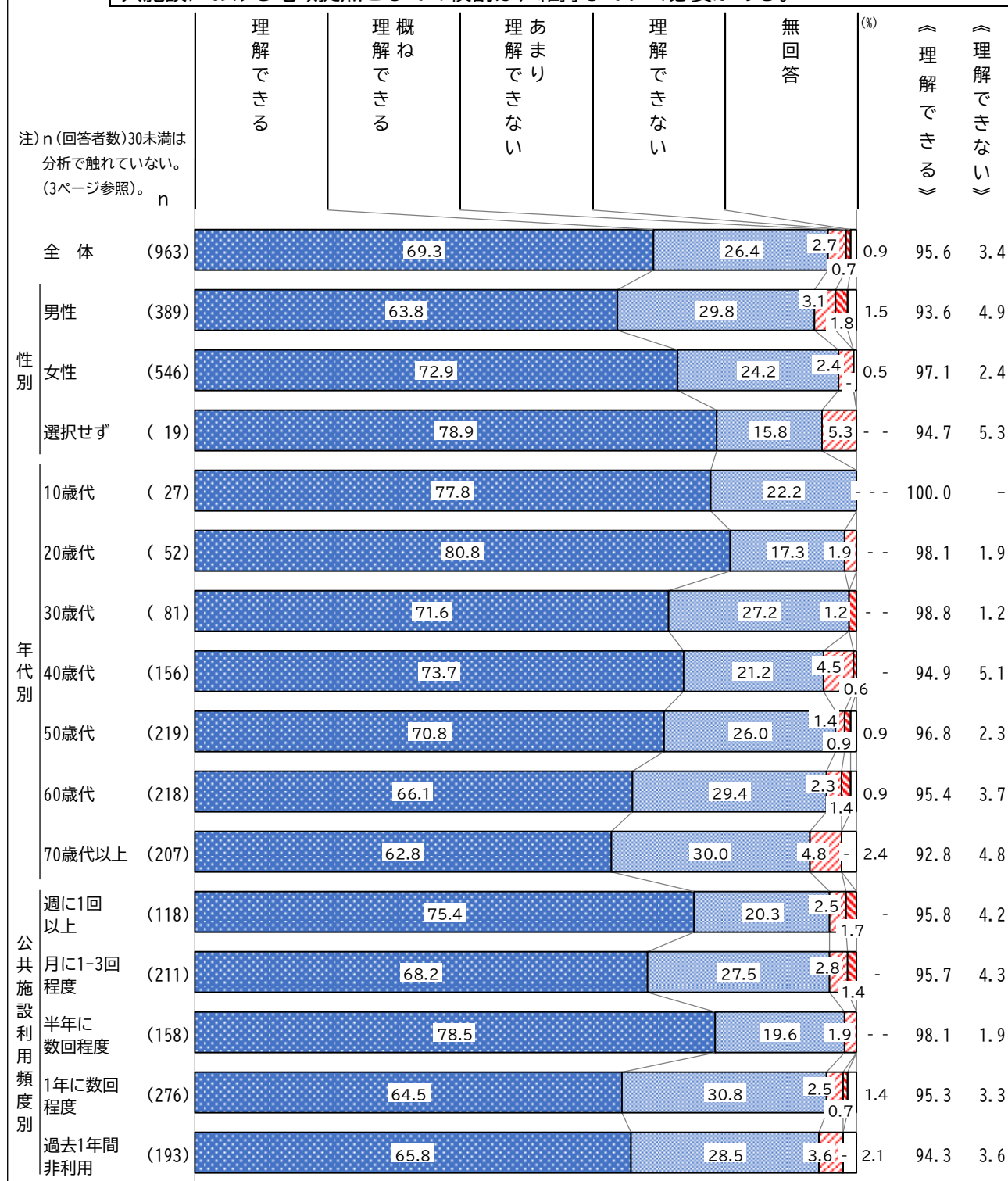
- ・居住地域別でみると、小山田地区は「理解できる」が64.5%で最も高くなっており、「理解できる」も96.8%で最も高い。「理解できない」は3.2%で最も低い。
- ・忠生地区は「理解できる」が86.3%で最も低く、「あまり理解できない」が12.9%で最も高くなっている。



(4) 身近な公共施設における地域拠点の役割維持の必要性

問8-4 以下の課題認識について、どう思いますか。(1つだけ選択)

災害に強いまちづくりや、豊かな地域社会の実現のため、小・中学校といった身近な公共施設における地域拠点としての役割は、維持していく必要がある。

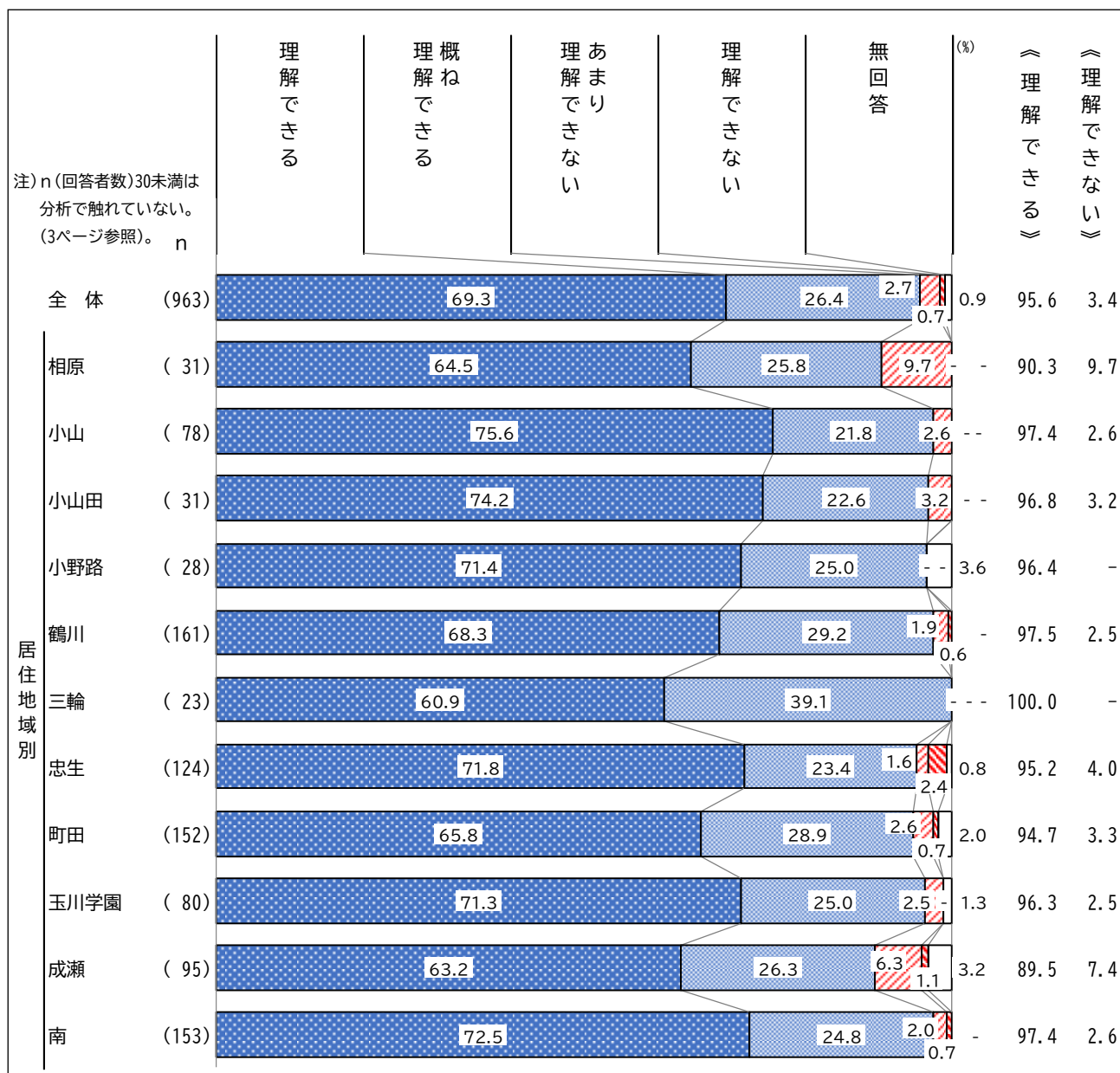


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「理解できる」は男性が93.6%、女性が97.1%となっている。
- ・年代別でみると、「理解できる」はすべての年代が95%前後。最も高いのは30歳代(98.8%)。
- ・公共施設利用頻度別でみると、半年に数回程度は「理解できる」が98.1%、「理解できない」が1.9%であり、他層より評価が高い。
- ・性別、年代別、公共施設利用頻度別でみても、「理解できる」が大勢を占めている。

◆居住地域別

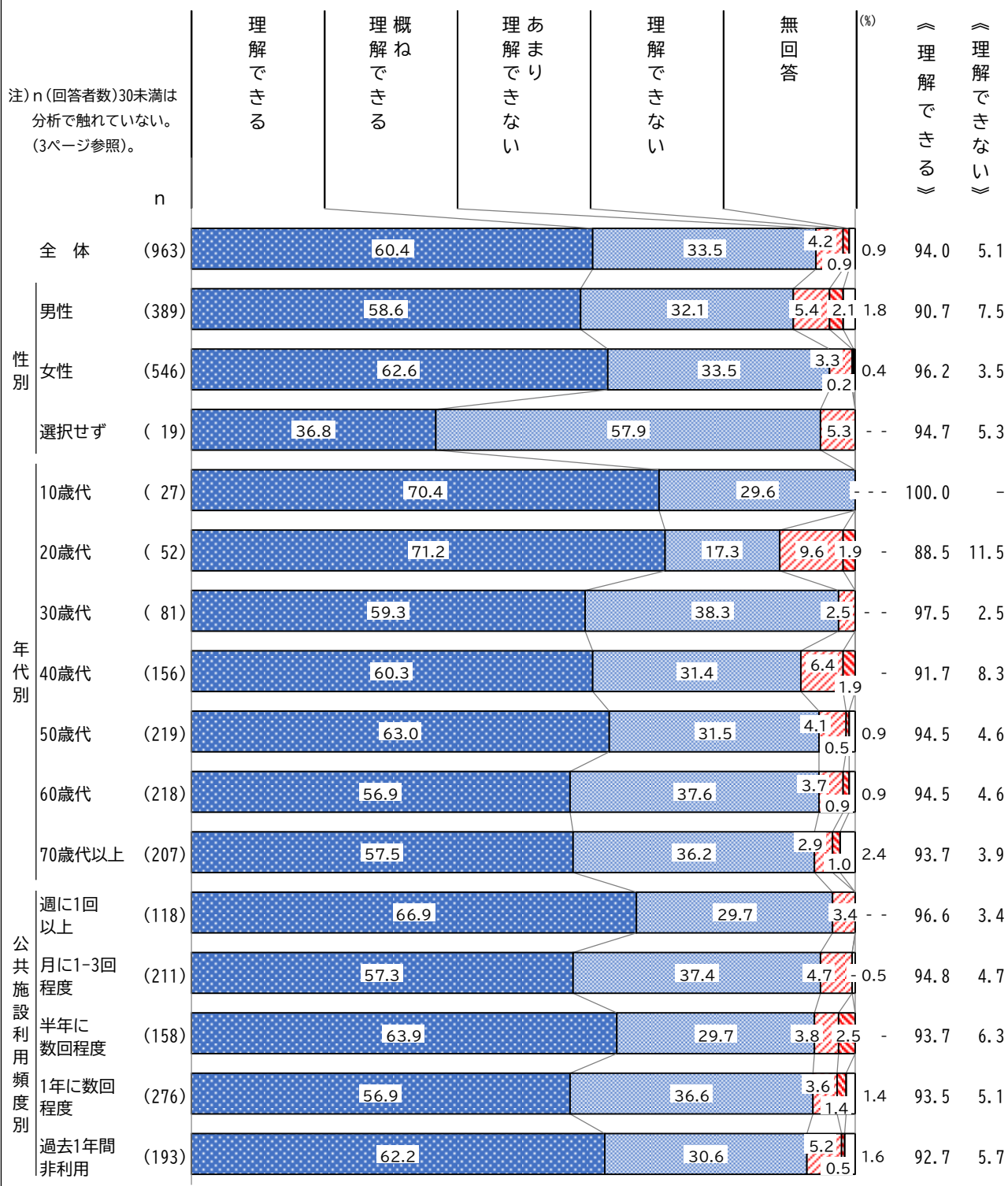
- ・居住地域別でみると、鶴川地区は《理解できる》が97.5%で最も高く、最も低い成瀬地区（89.5%）より8.0ポイント高くなっている。
- ・相原地区は《理解できない》が9.7%で最も高くなっている。



(5) 時代に適応した将来につながるかたちへの変化

問8-5 以下の方向性について、どう思いますか。(1つだけ選択)

単に施設を減らしコストダウンを図るだけではなく、これまでの価値や資源、想いを継承しながらも、時代に適応した将来につながるかたちへ変えていく。

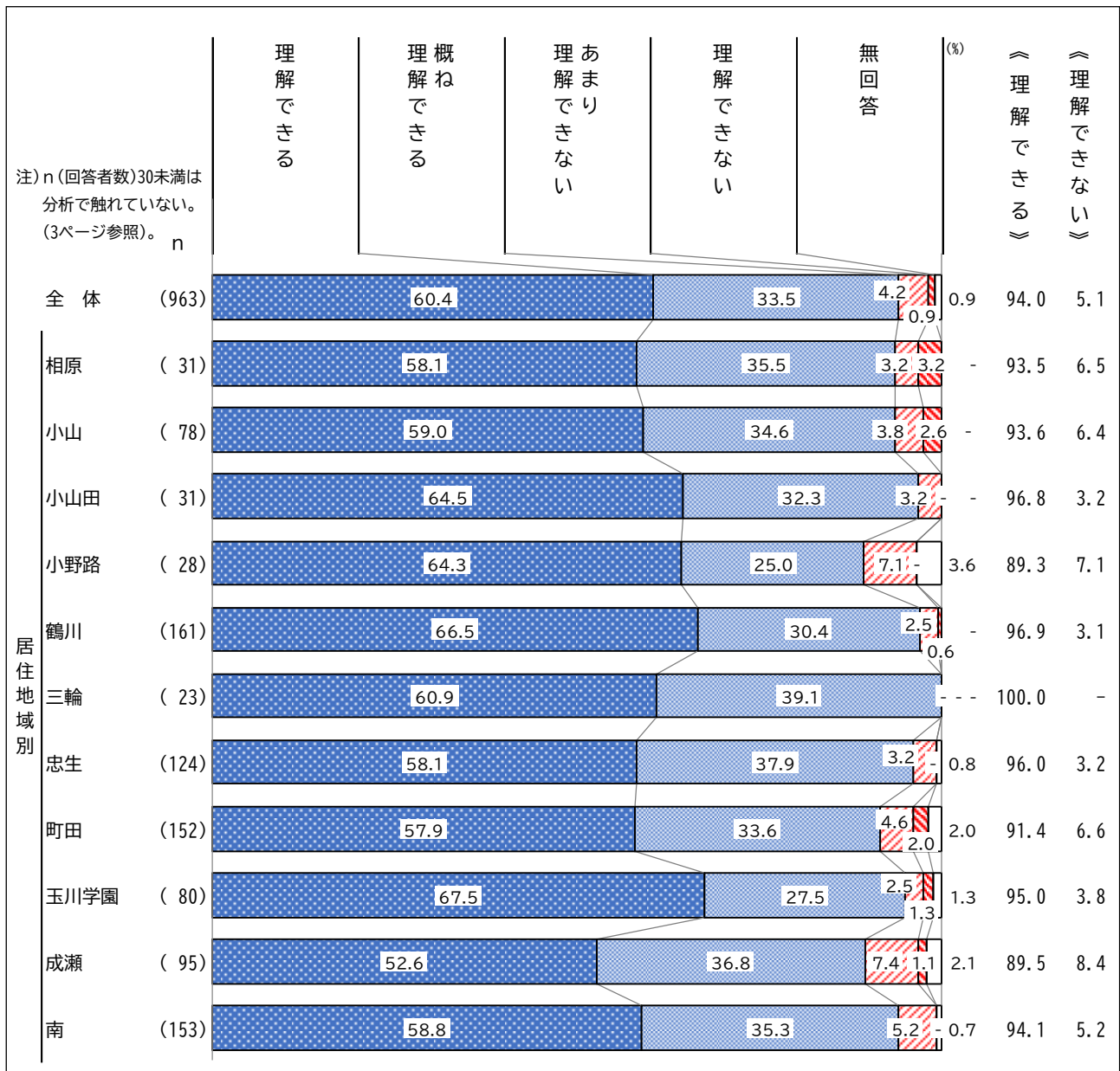


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、《理解できる》は男性(90.7%)より女性(96.2%)方が5.5ポイント高い。
- ・年代別でみると、20歳代は《理解できない》が11.5%で最も高く、《理解できる》は88.5%で最も低くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、利用頻度が低くなるにつれ《理解できる》が低下している。週に1回以上が96.6%に対し、過去1年間非利用は92.7%となっている。

◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、鶴川地区は《理解できる》が96.9%で最も高く、《理解できない》は成瀬地区が8.4%で最も高くなっている。



3. 公共施設の再編に関する考え方

以下の説明をご覧ください、公共施設の再編に関する考え方への認識について、ご回答いただきました。

公共施設再編の取り組みについて

▶ 公共施設の再編に関する 4 つの基本方針

以下の 4 つの基本方針に基づき、公共施設の再編など、公共施設の計画的な管理を進めています。

① 施設総量の圧縮

【具体的な取り組み】

- ・施設集約
- ・施設の複合化・多機能化

● 施設のあり方の見直しや効果的な施設の再配置を行うことで、安全・安心に施設を維持管理できる施設量（総延床面積）に減らします。

● 今後は原則、廃止を伴わない施設の新設は行わず、施設の建替えを行う場合は、施設の複合化・多機能化を進めていきます。

② ライフサイクル

コストの縮減

【具体的な取り組み】

- ・維持管理費用の削減
- ・施設の長寿命化

● 施設に関する一元化された情報や新公会計制度による財務情報を使うことにより、維持管理運営の見直しや必要なメンテナンス及び改修を着実に実行し、ライフサイクルコストと呼ばれる、施設の建設から施設の管理や運営、そして建替えまでのトータルの費用を減らします。

③ 官民連携による

サービス向上

【具体的な取り組み】

- ・市民・地域連携
- ・PPP/PFI の導入
- ・他自治体との連携

● 市民や民間事業者、他自治体などの多様な主体との連携により、ニーズの変化などに対応した柔軟で付加価値の高いサービス提供を行います。これまで以上の効率化や民間のノウハウや資金の活用などにより、行政だけでは提供できない、利用者目線に立ったより市民満足度の高いサービスの提供を目指します。

④ 既存資源の有効活用

【具体的な取り組み】

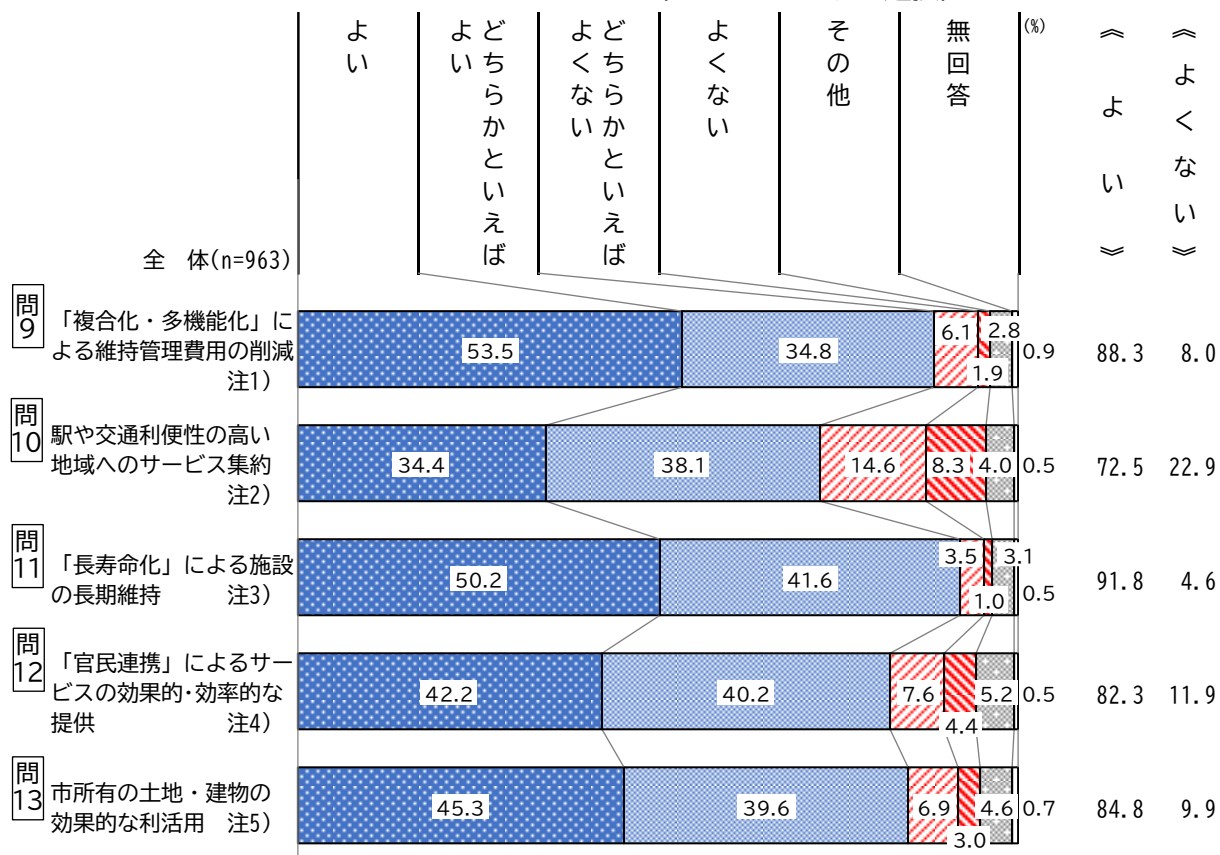
- ・市有財産の戦略的活用
- ・人の交流や公益的なサービスを創出する場づくりへの支援

● 施設の余っているスペースや未利用地といった土地を市民が交流するための場所やコミュニティの活力を発揮・創出する場所として有効活用します。

● 市民や民間事業者などによる民有施設や民有地を活用した人の交流や公益的サービスが創出される空間づくりを支援していきます。

問9～13 公共施設の再編に関する以下の考え方について、どうお考えですか。

(それぞれ1つずつ選択)



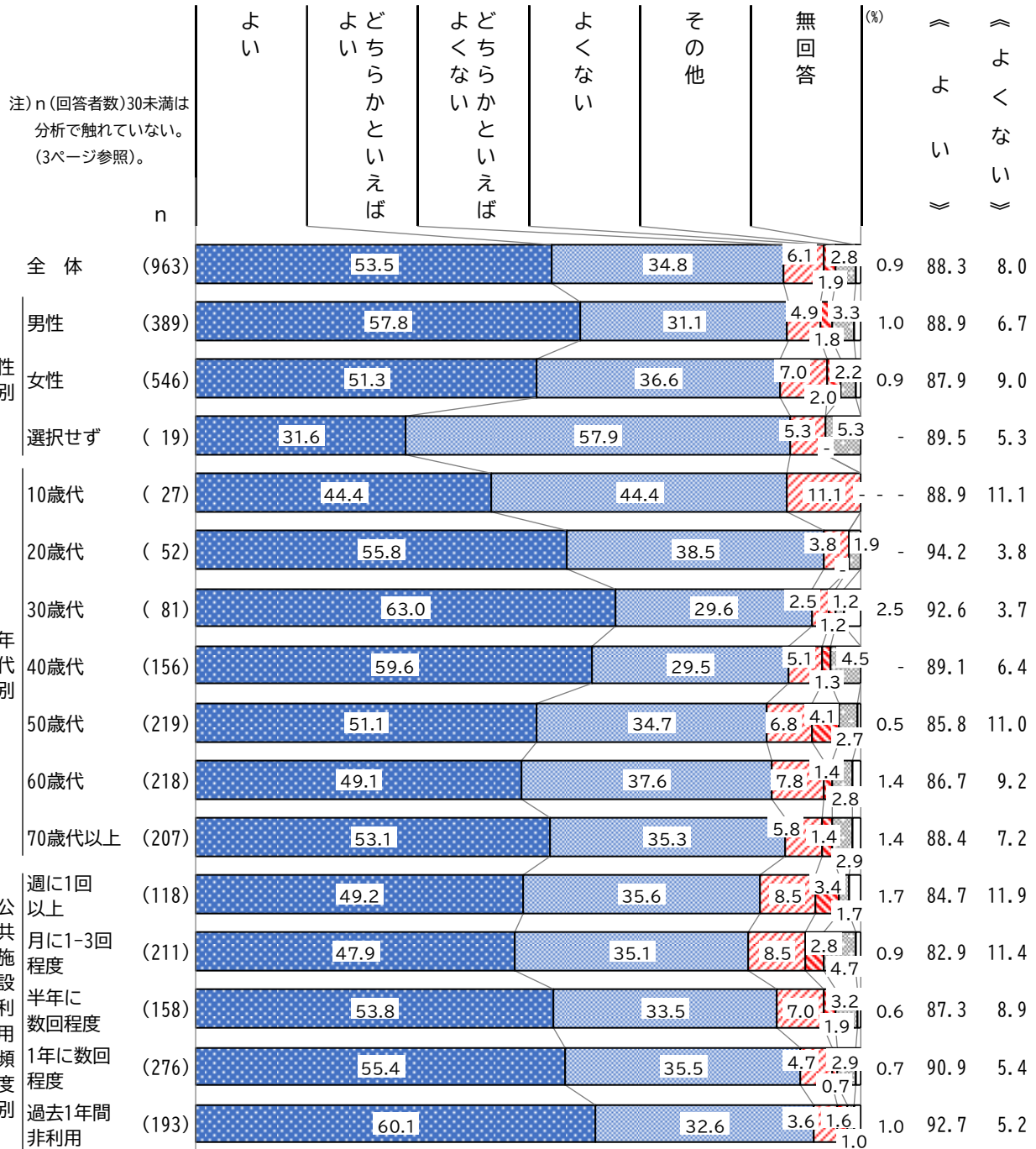
※考え方の詳細

- 注1) 公共施設にかかる維持管理費用を減らす方法として、今ある施設の余っているスペースを活用し、今までは一つのサービスしか行っていなかった施設で複数のサービスを提供できるようにする「複合化」・「多機能化」という考え方があります。この「複合化」・「多機能化」の考え方をうまく活用して、施設の総量を減らして施設に関する維持管理費用を減らしていくという考え方。
- 注2) 市民が日常的に利用するような身近にあることが望ましいサービスは、地域の拠点として地域に残す一方、地域住民だけでなく、多くの市民が利用するようなサービスは、町田駅周辺をはじめとした駅やバス網が充実している交通利便性の高い地域に集約していくという考え方があります。このような考え方で公共施設再編を進めていくという考え方。
- 注3) 施設の建替えや改修にかかる費用を減らしていく方法として、施設を長持ちさせるために改修等などの投資を事前にしっかりと行っていく「長寿命化」という考え方があります。この「長寿命化」という方法を活用して、今ある施設をできるだけ長く使っていくという考え方。
- 注4) 市が担っていた公共サービスの一部を民間事業者やNP0、地域住民等が担うことで、これまでほど税金を使わずにサービスを提供したり、これまで以上にっと身近な場所や便利な時間に公共サービスが受けられるようにしていく方法として、「官民連携」という考え方があります。この「官民連携」という方法を活用して、市民にとって必要なサービスをより効果的・効率的に提供するという考え方。
- 注5) 公共施設の再編によって空いた土地や施設などを、新たなサービスの創出や公共施設の維持管理に充てる資金調達という視点から、貸付・売却を積極的に行うという考え方があります。このような考え方で町田市が所有している土地や建物を効果的に利活用していくという考え方。

- ・「よい」と「どちらかといえばよい」を合算した《よい》（以下、「《よい》」という）をみると、「『長寿命化』による施設の長期維持」が91.8%で最も高くなっている。「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合算した《よくない》（以下、「《よくない》」という）も4.6%で最も低くなっている。
- ・「駅や交通利便性の高い地域へのサービス集約」は、《よい》が72.5%で最も低く、《よくない》は22.9%で最も高くなっている。

(1) 「複合化・多機能化」による維持管理費用の削減

問9 公共施設にかかる維持管理費用を減らす方法として、今ある施設の余っているスペースを活用し、今までは一つのサービスしか行っていなかった施設で複数のサービスを提供できるようにする「複合化」・「多機能化」という考え方があります。この「複合化」・「多機能化」の考え方をうまく活用して、施設の総量を減らして施設に関する維持管理費用を減らしていくという考え方についてどうお考えですか。（1つだけ選択）

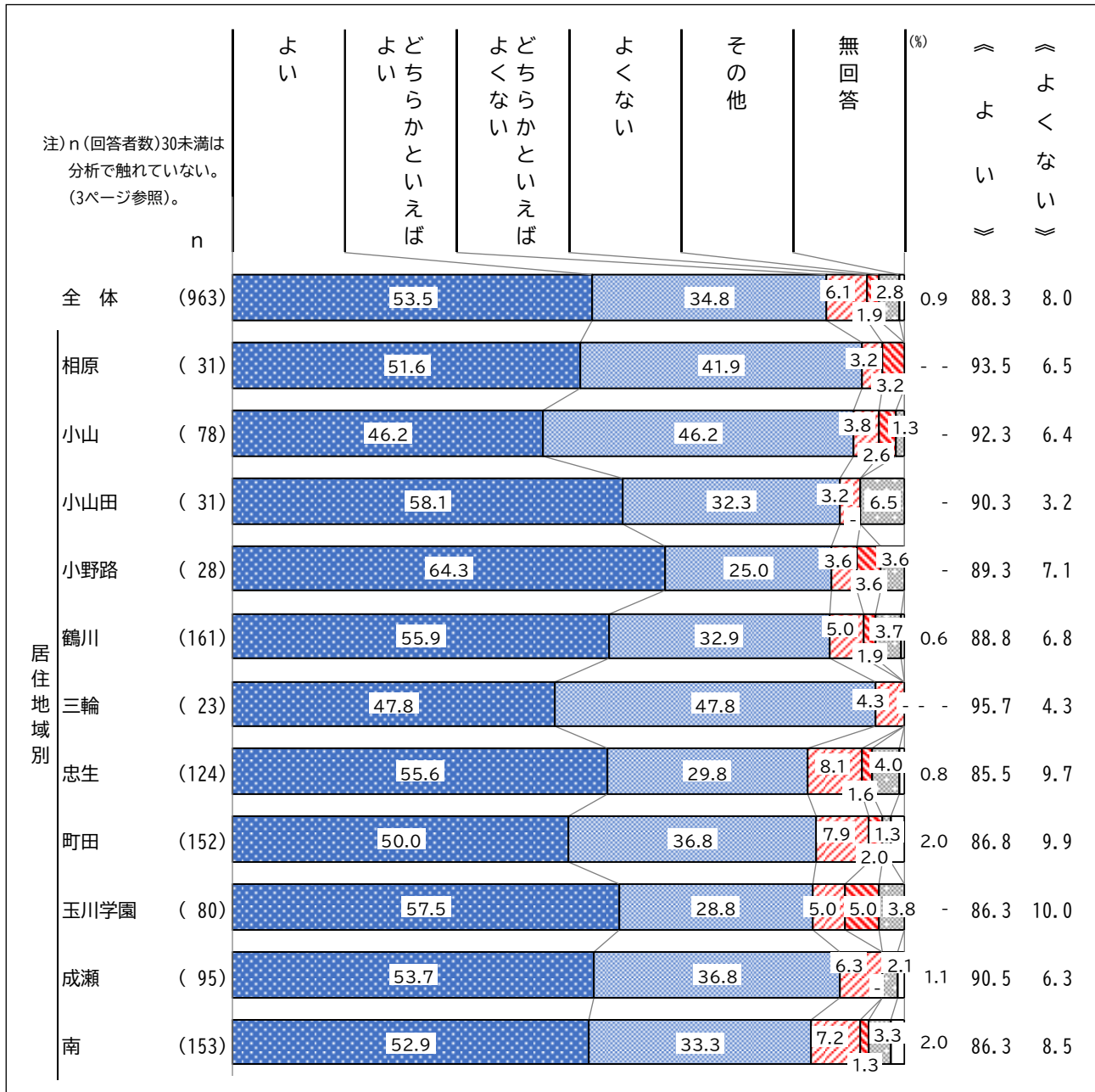


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「よい」は男性が57.8%、女性が51.3%で、男性の方が6.5ポイント高くなっている。ただし、≪よい≫は大差ない。
- ・年代別でみると、≪よい≫は20歳代（94.2%）と30歳代（92.6%）が92%以上となっている。50歳代の≪よくない≫は11.0%で最も高くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、≪よくない≫の回答割合は、過去1年間非利用が5.2%に対し、週に1回以上は11.9%と、利用頻度が高くなるにつれ上昇している。

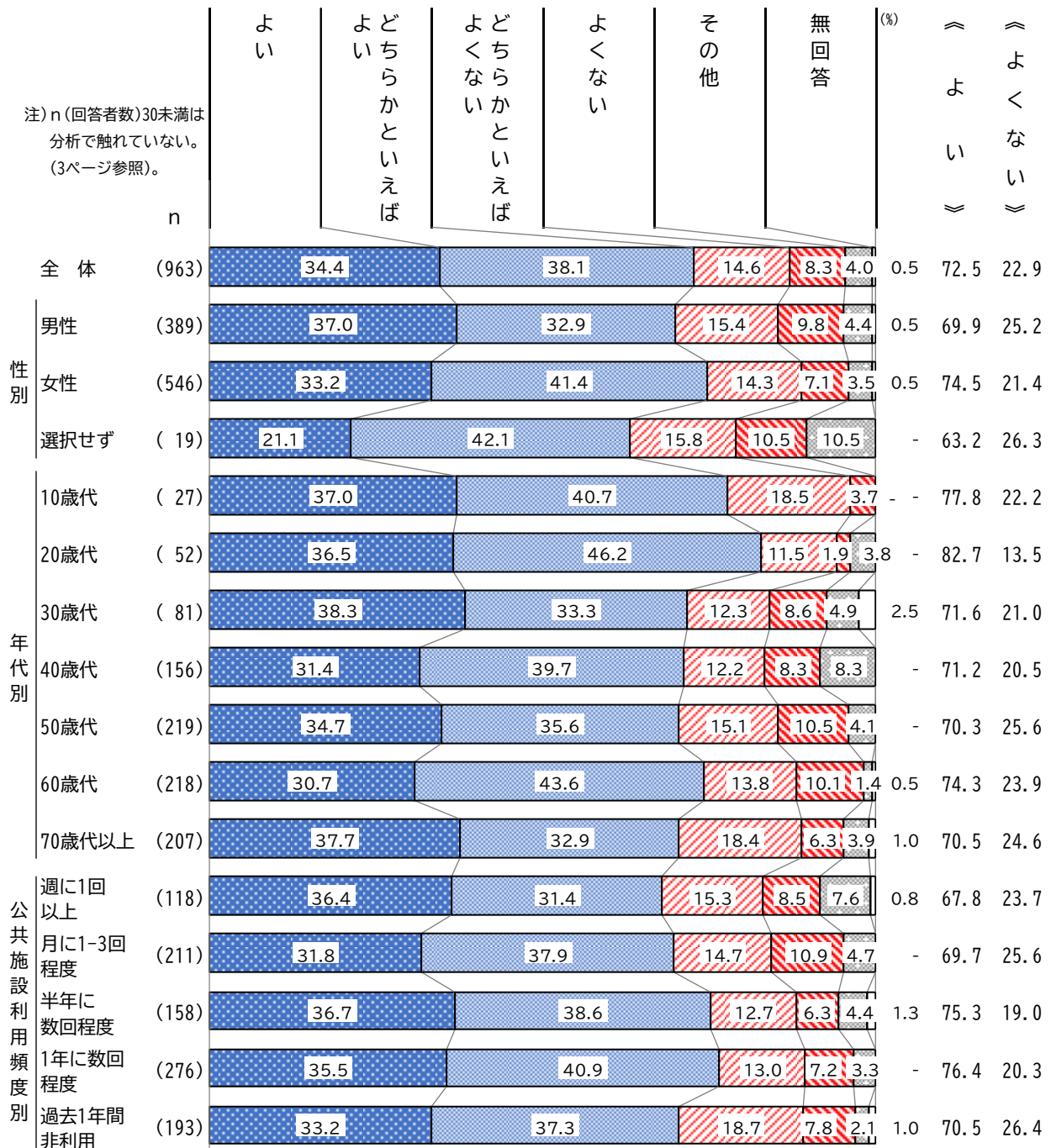
◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「よい」は相原地区が93.5%で最も高く、小山地区（92.3%）、成瀬地区（90.5%）、小山田地区（90.3%）でも90%以上となっている。
- ・「よくない」は玉川学園地区が10.0%で最も高く、最も低い小山田地区（3.2%）より6.8ポイント高い。



(2) 駅や交通利便性の高い地域へのサービス集約

問10 市民が日常的に利用するような身近にあることが望ましいサービスは、地域の拠点として地域に残す一方、地域住民だけでなく、多くの市民が利用するようなサービスは、町田駅周辺をはじめとした駅やバス網が充実している交通利便性の高い地域に集約していくという考え方があります。このような考え方で公共施設再編を進めていくことについてどうお考えですか。
(1つだけ選択)

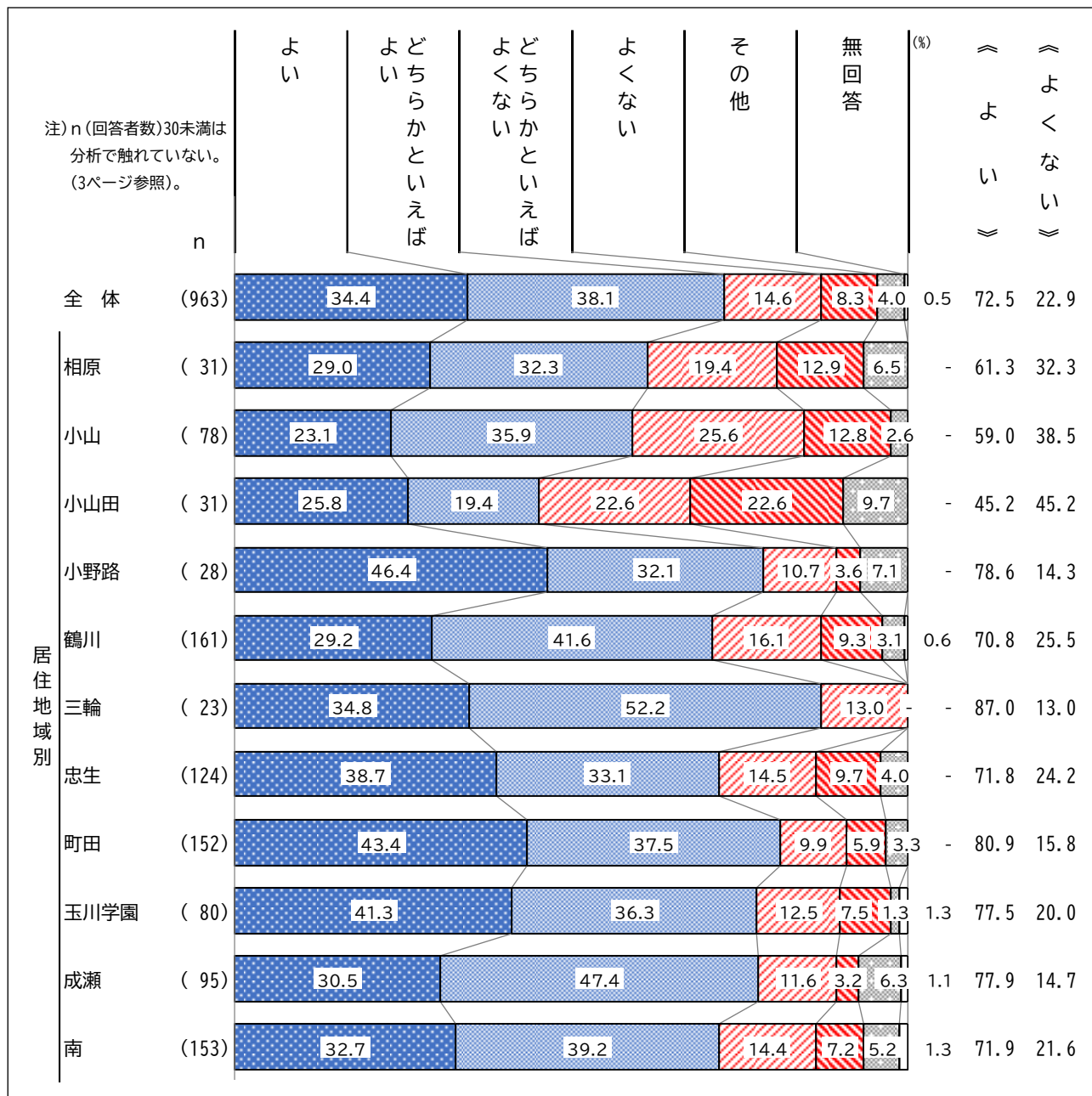


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、《よい》は男性が69.9%、女性が74.5%で女性の方が4.6ポイント高くなっている。
- ・年代別でみると、《よい》は20歳代が82.7%で最も高くなっており、《よくない》も他の年代が20%以上であるのに対し、13.5%で最も低くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、利用頻度が低くなるにつれ《よい》が高くなっている。

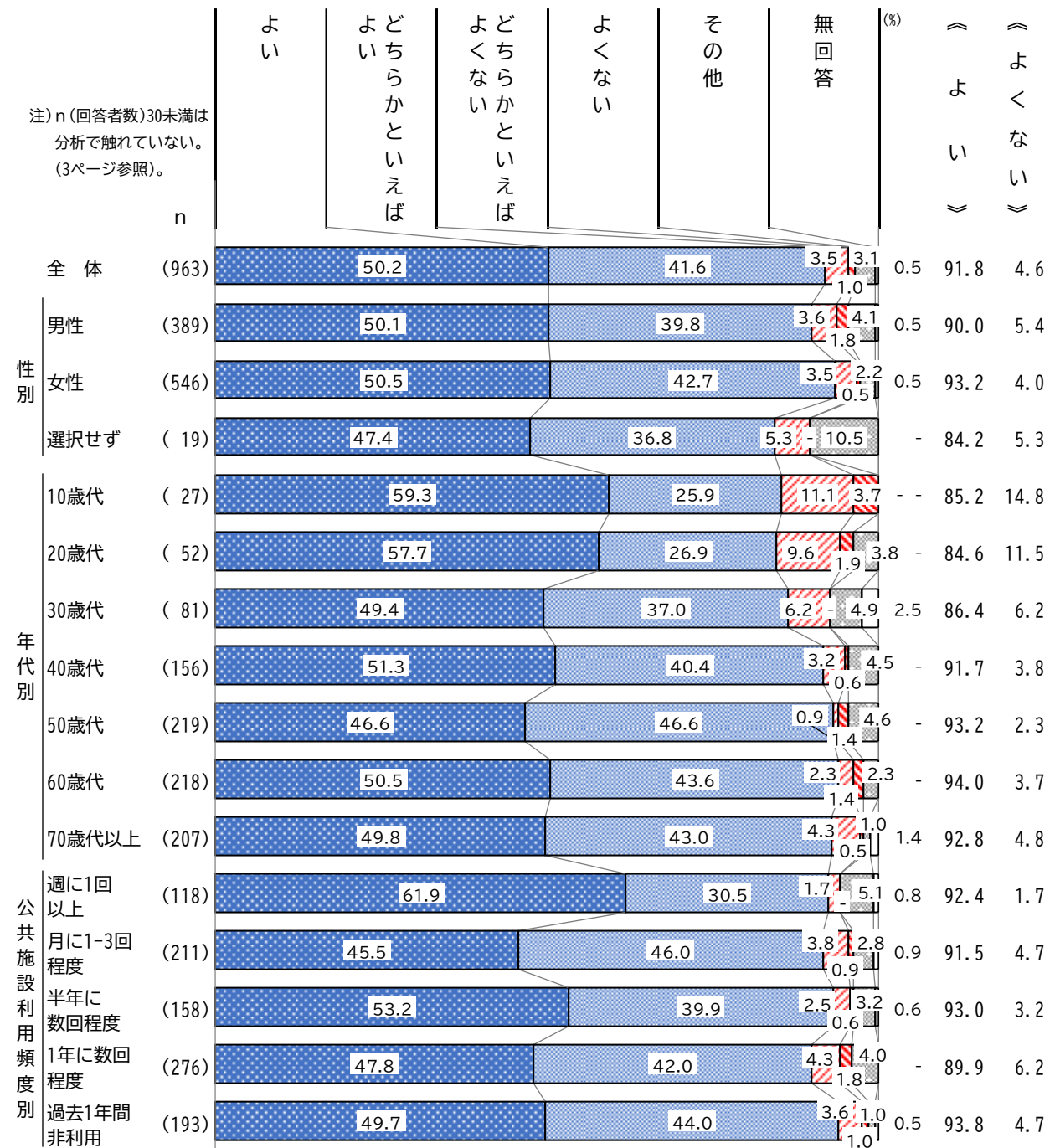
◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、町田地区は「よい」が80.9%と最も高い。一方、最も低い小山田地区は45.2%と、町田地区と比べ35.7ポイント低く、居住地域による認識の差異が大きい。
- ・「よくない」は、小山田地区が45.2%で最も高く、最も低い成瀬地区（14.7%）より30.5ポイント高い。



(3) 「長寿命化」による施設の長期維持

問11 施設の建替えや改修にかかる費用を減らしていく方法として、施設を長持ちさせるために改修等などの投資を事前にしっかりと行っていく「長寿命化」という考え方があります。この「長寿命化」という方法を活用して、今ある施設をできるだけ長く使っていくという考え方についてどうお考えですか。(1つだけ選択)

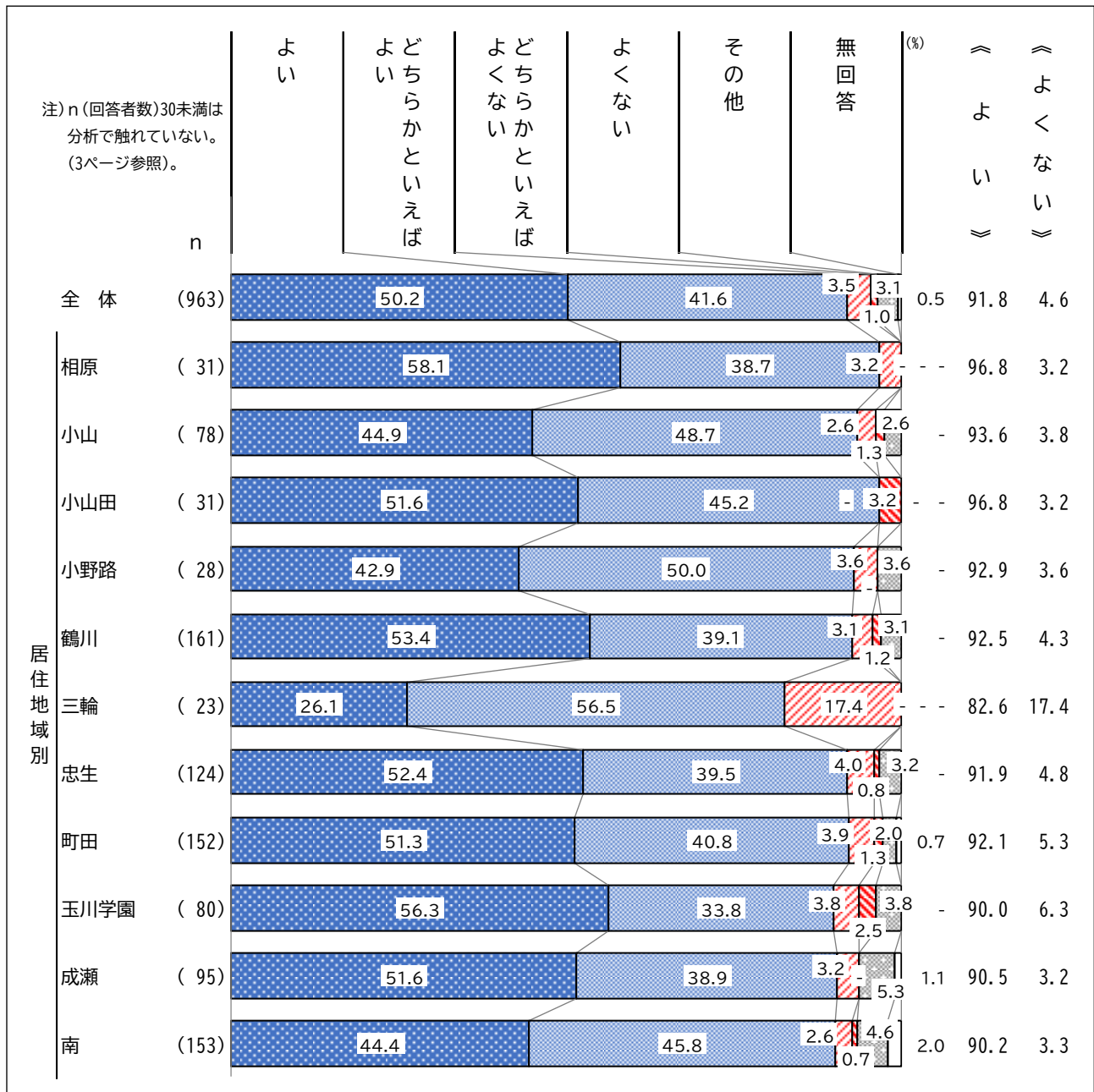


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「《よい》」は男性が90.0%、女性が93.2%となっている。
- ・年代別でみると、「《よい》」は20歳代(84.6%)～60歳代(94.0%)間で、年代が上がるにつれ高くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、「よい」は週に1回以上(61.9%)が最も高くなっている。

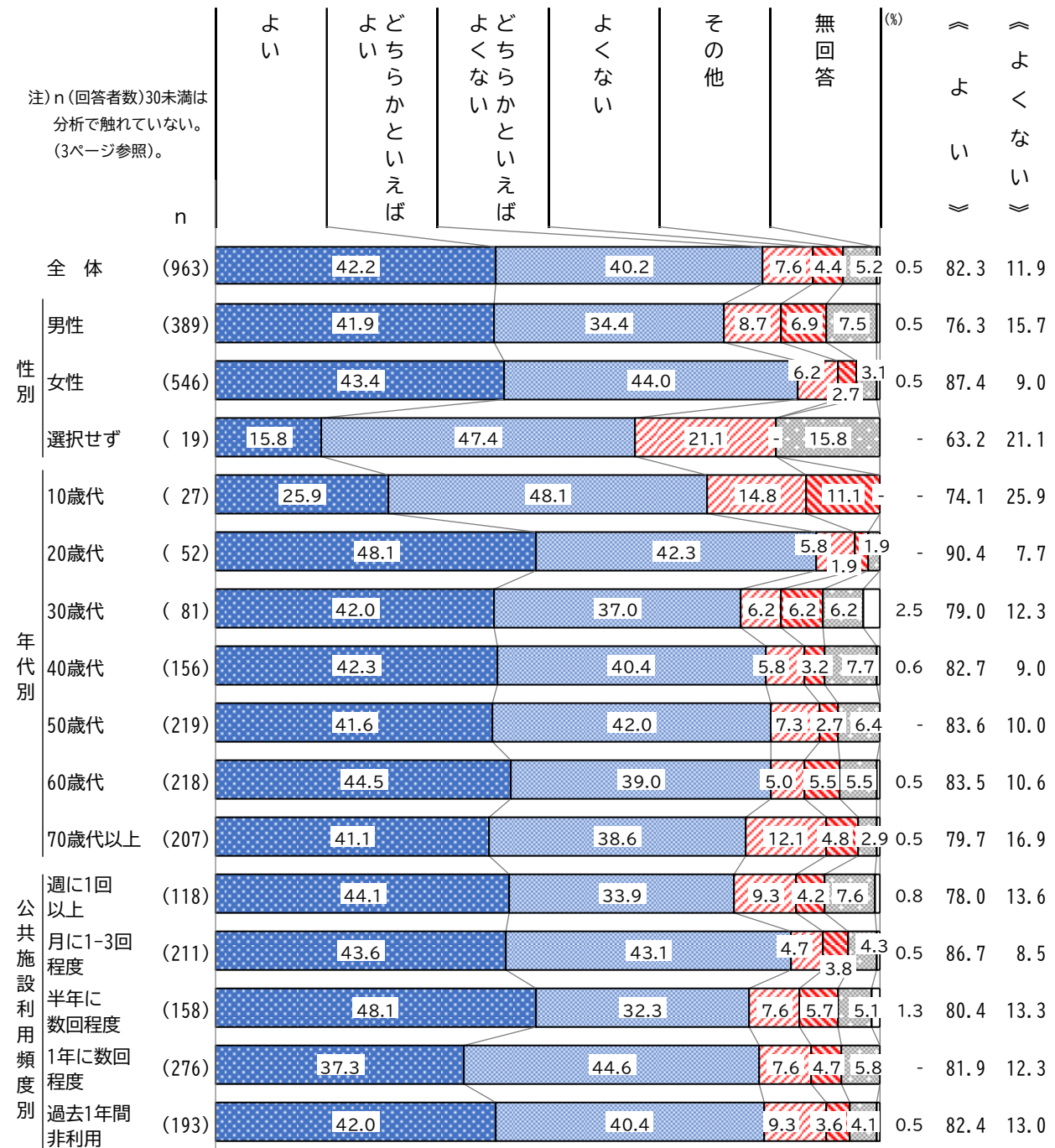
◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「よい」は相原地区が58.1%で最も高い。
- ・《よい》が最も高いのは相原地区と小山田地区で、両地区とも96.8%となっている。
- ・玉川学園地区は《よくない》が6.3%で最も高い。



(4) 「官民連携」によるサービスの効果的・効率的な提供

問12 市が担っていた公共サービスの一部を民間事業者やNPO、地域住民等が担うことで、これまでほど税金を使わずにサービスを提供したり、これまで以上にもっと身近な場所や便利な時間に公共サービスが受けられるようにしていく方法として、「官民連携」という考え方があります。この「官民連携」という方法を活用して、市民にとって必要なサービスをより効果的・効率的に提供するという考え方についてどうお考えですか。(1つだけ選択)

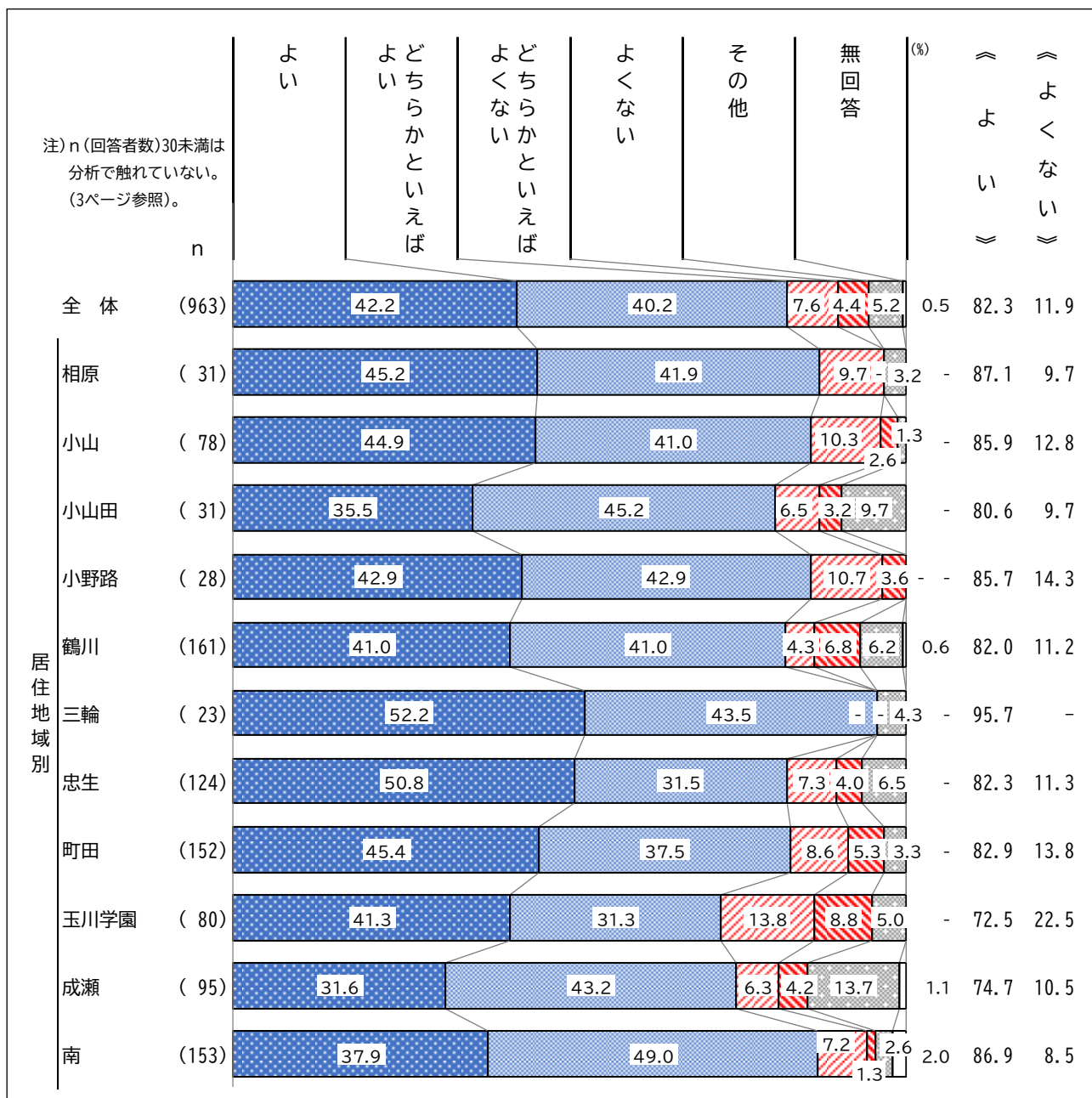


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、≪よい≫は男性が76.3%、女性が87.4%で、女性の方が11.1ポイント高くなっている。
- ・年代別でみると、≪よい≫は20歳代が90.4%で最も高くなっている。最も低いのは30歳代(79.0%)で、20歳代より11.4ポイント低くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、≪よい≫は週に1回以上が78.0%で最も低くなっている。

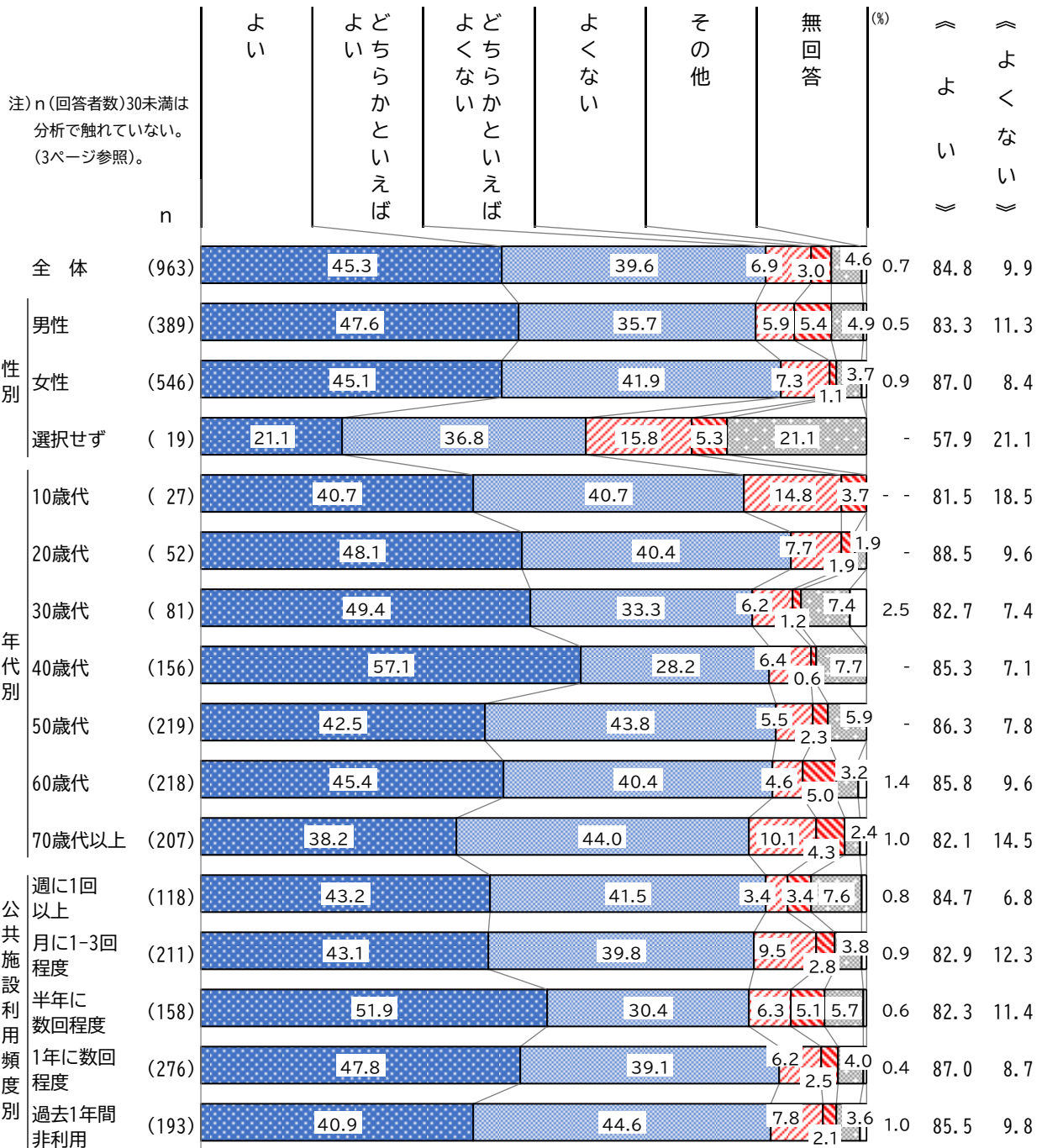
◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「よい」は相原地区が87.1%で最も高い。
- ・玉川学園地区（72.5%）と成瀬地区（74.7%）は「よい」が70%台で、他の地域より低い。玉川学園地区は「よくない」も22.5%で最も高く、最も低い南地区（8.5%）より14.0ポイント低い。



(5) 市所有の土地・建物の効果的な利活用

問13 公共施設の再編によって空いた土地や施設などを、新たなサービスの創出や公共施設の維持管理に充てる資金調達という視点から、貸付・売却を積極的に行うという考え方があります。このような考え方で町田市が所有している土地や建物を効果的に利活用していくことについてどうお考えですか。(1つだけ選択)

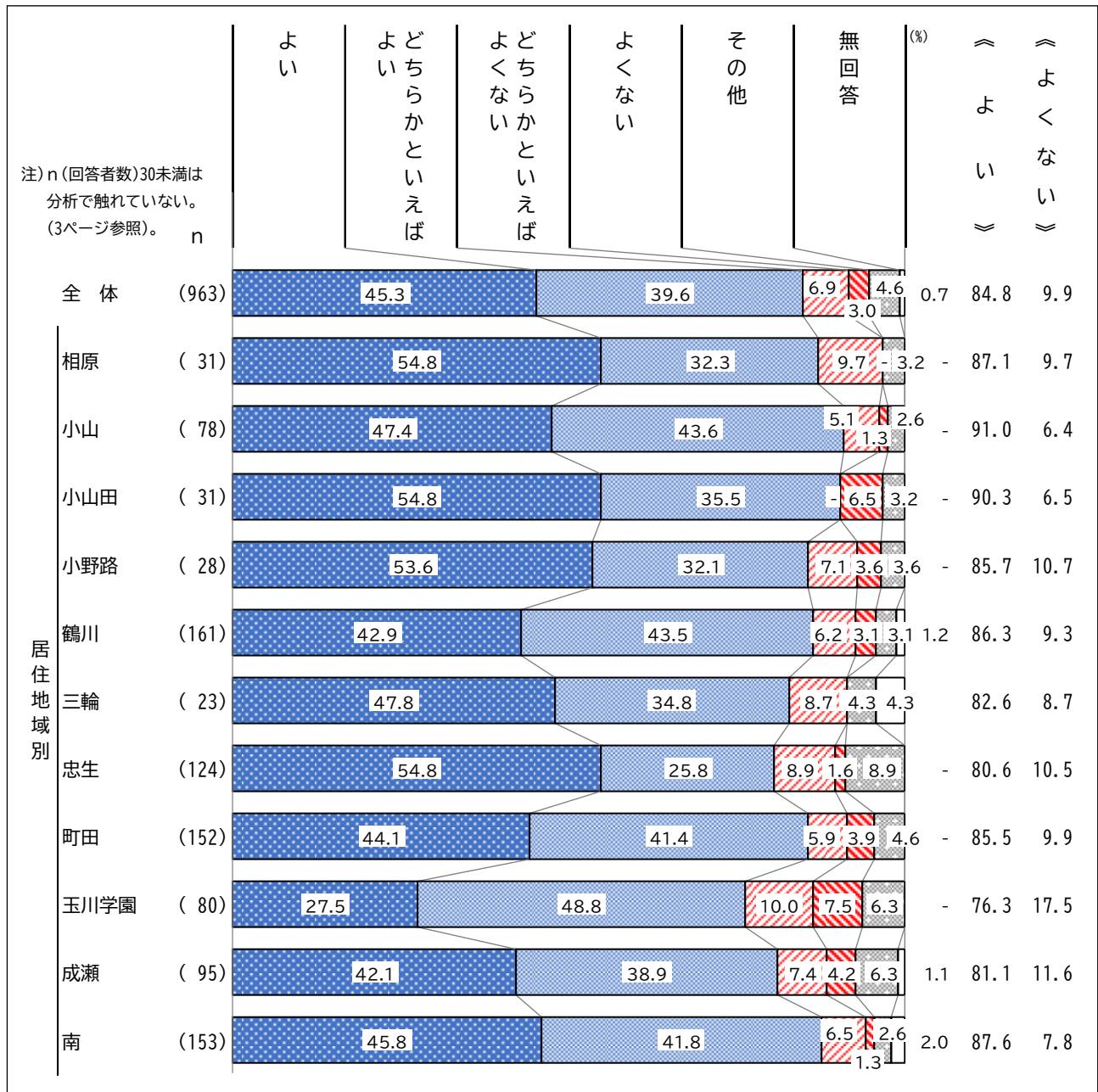


◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、《よい》は男性が83.3%、女性が87.0%となっている。
- ・年代別でみると、《よい》はすべての年代で85%前後となっているが、《よくない》は70歳代以上が14.5%で最も高く、最も低い40歳代（7.1%）より7.4ポイント高くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、《よくない》は月に1～3回程度（12.3%）と半年に数回程度（11.4%）が11%以上となっている。

◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「よい」は相原地区、小山田地区、忠生地区がともに54.8%で最も高い。玉川学園地区は27.5%で最も低く、上記3地区より27.3ポイント低い。
- ・「よい」は小山地区（91.0%）、小山田地区（90.3%）のみ90%以上となっている。玉川学園地区は76.3%で最も低く、小山地区より14.7ポイント低い。
- ・玉川学園地区は「よくない」も17.5%で最も高く、最も低い小山地区（6.4%）より11.1ポイント高い。



4. 公共施設の“みらい”

以下の説明をご覧ください、公共施設の“みらい”についてご回答いただきました。

さまざまな社会情勢などの変化

公共施設の“みらい”を考えるうえでは、時代に応じて変化するニーズを見極めながら、あり方を柔軟に見直していく必要があります。ここでは、公共施設の“みらい”を考えるうえで考慮すべき、主な社会情勢などの変化をご紹介します。

▶ テクノロジーの進化、ライフスタイルの変化

AI、ICT、ロボットなど、
目覚ましい **テクノロジーの進化**

柔軟な働き方の浸透など、コロナ禍を
契機とした **ライフスタイルの変化**

サービスデザインの変革に伴い、公共施設のあり方も変わっていく



お節介ロボ



どこでも手続



クルママヒコーキ

出展：総務省「未来をつかむTECH戦略」2030年代に実現したい未来

▶ 地域コミュニティのあり方の変化

コロナ禍等の社会環境の変化による
地域活動の縮小

町内会・自治会活動などの
地域活動に参加しない人の増加

民生委員や消防団員などの
地域の担い手の減少

地域力の低下
の兆候が懸念
される

災害に強いまちづくりや
豊かな地域社会の実現のため
将来にわたって **持続可能**
な **地域コミュニティ**
の **拠点** となる公共施設の
あり方も変わっていく

▶ 主なまちづくりの動向

町田駅周辺 の開発
から **50年** が経過

多摩都市モノレール
の **延伸** ルートが決定

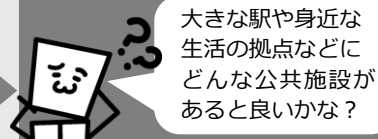
大規模団地 の建設から
50年 近く経過

新たな賑わい と **交流** の
創出を目指し **再開発** を推進

町田方面 **延伸の早期実現**
を目指し、まちづくりを推進

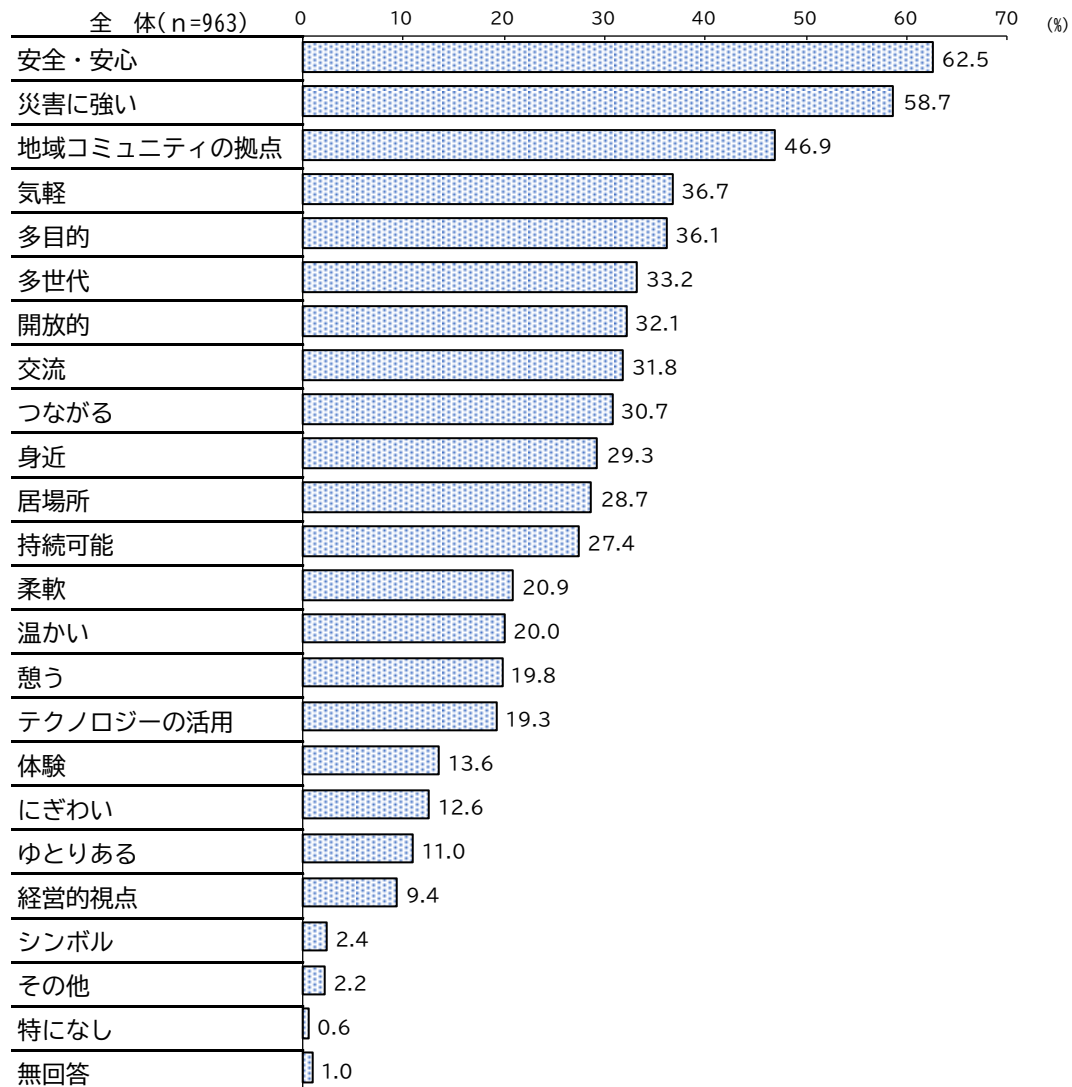
団地の **更新、活性化** など
団地再生 を推進

まちづくりと連動 した
配置 や **更新** など、
まちづくりの動向にあわせて
公共施設のあり方も変わっていく



(1) 公共施設の役割を考えるうえで重要だと思うキーワード

問14 A Iやロボットなどのテクノロジーが進化し、ライフスタイルや地域コミュニティのあり方が変化していく中で、公共施設に求められる役割も変化していきます。
そこで、これからの公共施設の役割を考えるうえで重要だと思うキーワードを、以下の選択肢からお選びください。(いくつでも選択可)



- ・「安全・安心」が62.5%で最も高く、「災害に強い」(58.7%)、「地域コミュニティの拠点」(46.9%)が続いている。この結果から、「誰もが安全・安心に利用できる地域コミュニティの拠点」が求められていると言える。
- ・「その他」(2.2%)には「高齢者への配慮」、「土日祝日も利用できる市役所」、「使いやすさ」などが挙げられている。

◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、全体的に女性の方が男性より高い項目が多いが、特に「居場所」、「多世代」は女性の方が男性より各10ポイント以上高い。
- ・年代別でみると、「安全・安心」は40～70歳代以上で60%台となっている。「災害に強い」は70歳代以上が48.8%で、他の年代より低くなっている。
- ・公共施設利用頻度別でみると、「安全・安心」、「災害に強い」はすべての層で高くなっているが、他項目では過去1年間非利用が相対的に低い項目が多い。

			安全・安心	災害に強い	地域コミュニティの拠点	気軽	多目的	多世代	開放的	交流	つながる	身近	居場所	持続可能
		n												
全 体		963	62.5	58.7	46.9	36.7	36.1	33.2	32.1	31.8	30.7	29.3	28.7	27.4
性別	男性	389	59.4	53.5	49.4	31.9	35.0	27.2	28.0	31.9	31.6	26.0	21.1	26.2
	女性	546	64.8	61.5	46.2	40.7	37.5	37.5	35.5	32.1	30.4	31.7	34.4	28.4
	選択せず	19	57.9	78.9	31.6	31.6	26.3	26.3	15.8	31.6	21.1	36.8	21.1	36.8
年代別	10歳代	27	59.3	59.3	14.8	37.0	7.4	22.2	33.3	29.6	37.0	44.4	22.2	25.9
	20歳代	52	53.8	55.8	46.2	36.5	34.6	34.6	36.5	25.0	36.5	32.7	28.8	30.8
	30歳代	81	54.3	61.7	43.2	43.2	37.0	27.2	35.8	19.8	22.2	24.7	25.9	24.7
	40歳代	156	67.3	59.0	46.8	34.6	41.7	32.7	34.0	31.4	39.1	37.2	31.4	29.5
	50歳代	219	61.2	64.4	46.1	35.6	35.6	33.8	30.1	33.8	31.1	30.1	30.1	32.9
	60歳代	218	66.5	61.5	50.5	35.8	44.5	36.7	38.1	31.7	27.5	26.1	31.2	28.0
	70歳代以上	207	61.8	48.8	50.2	37.2	28.0	32.4	24.2	36.7	28.5	25.1	24.2	20.3
公共施設利用頻度別	週に1回以上	118	60.2	57.6	44.9	39.8	40.7	37.3	43.2	35.6	41.5	29.7	37.3	33.9
	月に1-3回程度	211	63.0	59.7	57.8	40.8	36.0	37.9	34.6	37.0	34.1	31.3	37.9	30.3
	半年に数回程度	158	66.5	68.4	50.6	34.2	39.9	38.0	32.3	37.3	25.9	34.8	25.9	24.7
	1年に数回程度	276	58.0	55.1	43.5	33.7	34.4	29.3	31.2	25.7	31.5	29.0	24.3	28.3
	過去1年間非利用	193	66.8	56.0	38.9	35.8	34.2	26.4	23.8	26.4	22.3	22.3	21.2	21.8

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。

			柔軟	温かい	憩う	テクノロジーの活用	体験	にぎわい	ゆとりある	経営的視点	シンボル	その他	特になし	無回答
		n												
全 体		963	20.9	20.0	19.8	19.3	13.6	12.6	11.0	9.4	2.4	2.2	0.6	1.0
性別	男性	389	19.8	16.7	15.7	21.9	12.1	13.1	10.8	12.6	3.9	3.3	0.8	1.0
	女性	546	21.8	22.7	23.3	17.6	14.8	12.6	11.2	7.3	1.5	1.1	0.4	1.1
	選択せず	19	10.5	10.5	10.5	15.8	10.5	-	10.5	10.5	-	10.5	5.3	-
年齢	10歳代	27	14.8	29.6	18.5	11.1	18.5	33.3	11.1	7.4	3.7	3.7	-	3.7
	20歳代	52	21.2	26.9	25.0	28.8	23.1	15.4	17.3	11.5	5.8	-	1.9	-
	30歳代	81	19.8	18.5	23.5	22.2	21.0	13.6	13.6	12.3	3.7	4.9	1.2	1.2
	40歳代	156	25.6	24.4	19.2	24.4	16.0	14.7	10.3	12.8	5.1	3.2	0.6	-
	50歳代	219	21.9	16.0	19.6	20.5	11.4	11.9	9.6	10.5	2.3	3.2	0.5	0.9
	60歳代	218	21.6	19.7	21.6	18.3	10.1	12.4	12.4	9.2	0.9	0.9	-	0.5
	70歳代以上	207	16.4	18.8	16.4	12.6	12.1	8.2	8.2	4.8	0.5	1.0	1.0	2.4
公共施設利用頻度別	週に1回以上	118	26.3	26.3	26.3	22.0	13.6	16.1	17.8	11.0	2.5	2.5	0.8	1.7
	月に1-3回程度	211	20.9	21.8	23.2	19.9	19.4	17.5	14.7	10.0	4.3	1.9	-	-
	半年に数回程度	158	22.8	20.9	19.6	24.1	19.6	8.9	11.4	13.3	3.8	1.9	-	0.6
	1年に数回程度	276	15.2	14.5	15.2	17.4	8.3	10.1	6.5	6.9	0.7	2.9	0.7	0.7
	過去1年間非利用	193	24.4	20.2	19.2	15.5	9.8	11.9	8.3	8.8	1.6	1.6	1.6	2.1

◆居住地域別

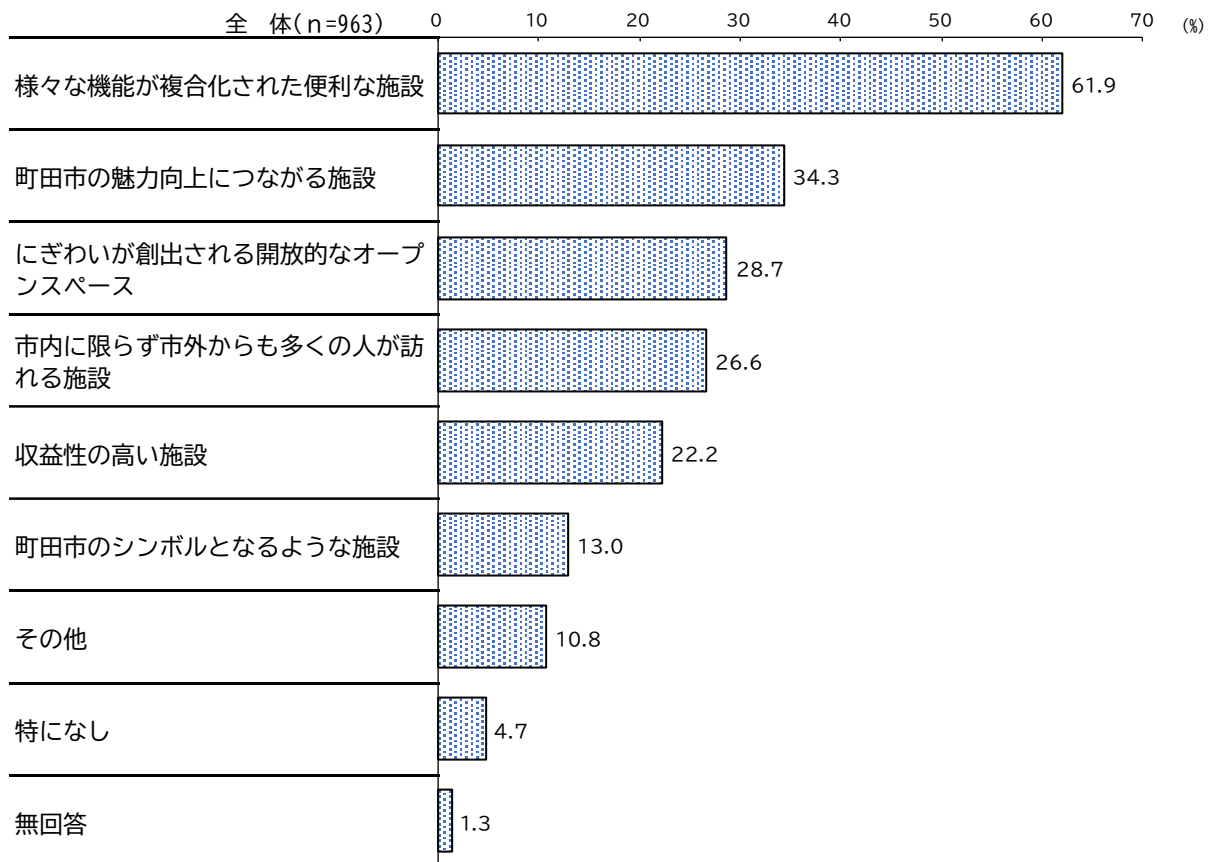
- ・居住地域別でみると、「安全・安心」、「災害に強い」はすべての居住地域で50%以上となっている。
- ・「憩う」は小山田地区が35.5%で最も高く、最も低い相原地区（9.7%）より25.8ポイント高い。

(%)														
注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。	n	安全・安心	災害に強い	地域コミュニティの拠点	気軽	多目的	多世代	開放的	交流	つながる	身近	居場所	持続可能	
全 体	963	62.5	58.7	46.9	36.7	36.1	33.2	32.1	31.8	30.7	29.3	28.7	27.4	
居住地域別	相原	31	54.8	58.1	48.4	29.0	32.3	19.4	19.4	29.0	22.6	25.8	19.4	25.8
	小山	78	61.5	55.1	48.7	35.9	29.5	23.1	29.5	30.8	24.4	34.6	16.7	23.1
	小山田	31	61.3	64.5	51.6	32.3	45.2	38.7	35.5	45.2	41.9	22.6	29.0	35.5
	小野路	28	60.7	53.6	50.0	42.9	50.0	46.4	39.3	28.6	42.9	39.3	50.0	25.0
	鶴川	161	58.4	59.6	52.8	36.6	32.9	37.9	36.6	28.6	29.8	31.7	28.6	25.5
	三輪	23	65.2	52.2	39.1	34.8	17.4	26.1	21.7	26.1	21.7	13.0	21.7	26.1
	忠生	124	65.3	58.1	34.7	37.9	34.7	35.5	27.4	28.2	25.8	23.4	21.0	27.4
	町田	152	65.1	58.6	44.7	38.2	32.9	30.3	30.9	34.2	28.3	28.9	34.2	32.2
	玉川学園	80	58.8	55.0	52.5	37.5	33.8	31.3	38.8	36.3	30.0	32.5	31.3	33.8
	成瀬	95	60.0	66.3	42.1	31.6	43.2	32.6	30.5	30.5	33.7	29.5	31.6	26.3
	南	153	67.3	57.5	49.7	37.9	43.1	34.6	31.4	32.0	37.3	29.4	29.4	22.2

(%)														
注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。	n	柔軟	温かい	憩う	テクノロジーの活用	体験	にぎわい	ゆとりある	経営的視点	シンボル	その他	特になし	無回答	
全 体	963	20.9	20.0	19.8	19.3	13.6	12.6	11.0	9.4	2.4	2.2	0.6	1.0	
居住地域別	相原	31	9.7	16.1	9.7	19.4	12.9	9.7	9.7	6.5	-	6.5	3.2	-
	小山	78	17.9	14.1	14.1	14.1	11.5	10.3	7.7	6.4	2.6	-	1.3	2.6
	小山田	31	16.1	16.1	35.5	29.0	19.4	12.9	9.7	22.6	6.5	-	-	3.2
	小野路	28	32.1	21.4	28.6	14.3	25.0	10.7	7.1	-	-	-	-	3.6
	鶴川	161	21.1	19.9	16.1	21.7	10.6	9.3	11.8	10.6	1.9	-	1.2	1.9
	三輪	23	17.4	17.4	13.0	13.0	4.3	4.3	8.7	4.3	-	-	-	-
	忠生	124	23.4	16.1	18.5	13.7	8.1	14.5	12.1	6.5	4.0	1.6	0.8	0.8
	町田	152	25.0	20.4	22.4	19.7	15.1	15.8	12.5	12.5	3.3	3.3	-	-
	玉川学園	80	18.8	18.8	18.8	25.0	17.5	17.5	11.3	11.3	1.3	2.5	1.3	-
	成瀬	95	16.8	27.4	18.9	17.9	15.8	12.6	10.5	8.4	1.1	7.4	-	1.1
	南	153	20.3	21.6	22.9	20.3	14.4	11.1	9.8	9.2	2.0	2.0	-	0.7

(2) 主要な駅周辺にあると良い公共施設

問15 あなたは、町田駅や鶴川駅、南町田グランベリーパーク駅などの主要な駅周辺に、どのような公共施設があると良いと思いますか。（最大3つまで選択）



- ・「様々な機能が複合化された便利な施設」（61.9%）が最も高くなっている。次いで「町田市の魅力向上につながる施設」（34.3%）、「にぎわいが創出される開放的なオープンスペース」（28.7%）が続いている。
- ・「その他」（10.8%）には「複合商業施設」、「娯楽施設（映画館・コンサート会場など）」、「文化施設（図書館など）」、「スポーツ施設（体育館・サッカースタジアムなど）」、「子どもが遊べる場所（公園など）」、「福祉センター」、「災害時のための施設」などが挙げられている。

◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「町田市のシンボルとなるような施設」は男性（16.2％）の方が女性（10.8％）より5.4ポイント高く、性別の差が最も出た選択肢となっている。
- ・年代別でみると、「様々な機能が複合化された便利な施設」はすべての年代で50％以上となっている。「収益性の高い施設」は20歳代が32.7％で最も高く、最も低い60歳代（16.1％）より16.6ポイント高い。
- ・公共施設利用頻度別でみると、「様々な機能が複合化された便利な施設」はすべての層で60％前後、「町田市の魅力向上につながる施設」は30％以上となっている。「にぎわいが創出される開放的なオープンスペース」は週に1回以上が36.4％で最も高く、最も低い1年に数回程度（23.9％）より12.5ポイント高い。

(%)

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。		n	様々な機能が複合化された便利な施設	町田市の魅力向上につながる施設	にぎわいが創出される開放的なオープンスペース	市内に限らず市外からも多くの人が訪れる施設	収益性の高い施設	町田市のシンボルとなるような施設	その他	特になし	無回答
全 体		963	61.9	34.3	28.7	26.6	22.2	13.0	10.8	4.7	1.3
性別	男性	389	59.9	36.0	26.5	27.0	23.1	16.2	9.5	4.6	1.0
	女性	546	63.6	33.9	31.1	26.4	21.4	10.8	10.8	4.8	1.6
	選択せず	19	63.2	21.1	10.5	21.1	31.6	5.3	26.3	5.3	-
年代別	10歳代	27	55.6	40.7	29.6	25.9	22.2	22.2	7.4	3.7	3.7
	20歳代	52	63.5	38.5	36.5	23.1	32.7	7.7	7.7	1.9	-
	30歳代	81	65.4	32.1	25.9	19.8	24.7	12.3	12.3	3.7	2.5
	40歳代	156	58.3	28.2	31.4	25.0	30.8	10.3	17.9	3.2	0.6
	50歳代	219	60.7	35.2	24.2	27.9	23.7	11.0	12.3	4.1	1.4
	60歳代	218	67.4	35.3	29.8	28.9	16.1	12.8	9.2	6.0	0.9
	70歳代以上	207	58.5	35.3	29.0	27.5	17.4	17.9	6.3	6.3	1.9
公共施設利用頻度別	週に1回以上	118	59.3	33.1	36.4	24.6	18.6	15.3	13.6	3.4	4.2
	月に1-3回程度	211	62.6	37.0	33.2	30.3	17.1	12.8	12.3	1.9	0.5
	半年に数回程度	158	68.4	35.4	26.6	24.1	25.9	11.4	14.6	3.2	0.6
	1年に数回程度	276	61.2	34.4	23.9	26.8	26.1	11.6	9.8	4.7	0.7
	過去1年間非利用	193	57.5	30.6	28.0	23.8	21.8	14.5	6.2	9.8	2.1

◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「様々な機能が複合化された便利な施設」は鶴川地区（72.7%）、成瀬地区（71.6%）が70%台となっている。相原地区は41.9%で最も低く、鶴川地区より30.8ポイント低い。
- ・「町田市の魅力向上につながる施設」は町田地区が46.1%で最も高くなっている。小山地区は25.6%で最も低く、町田地区より20.5ポイント低い。

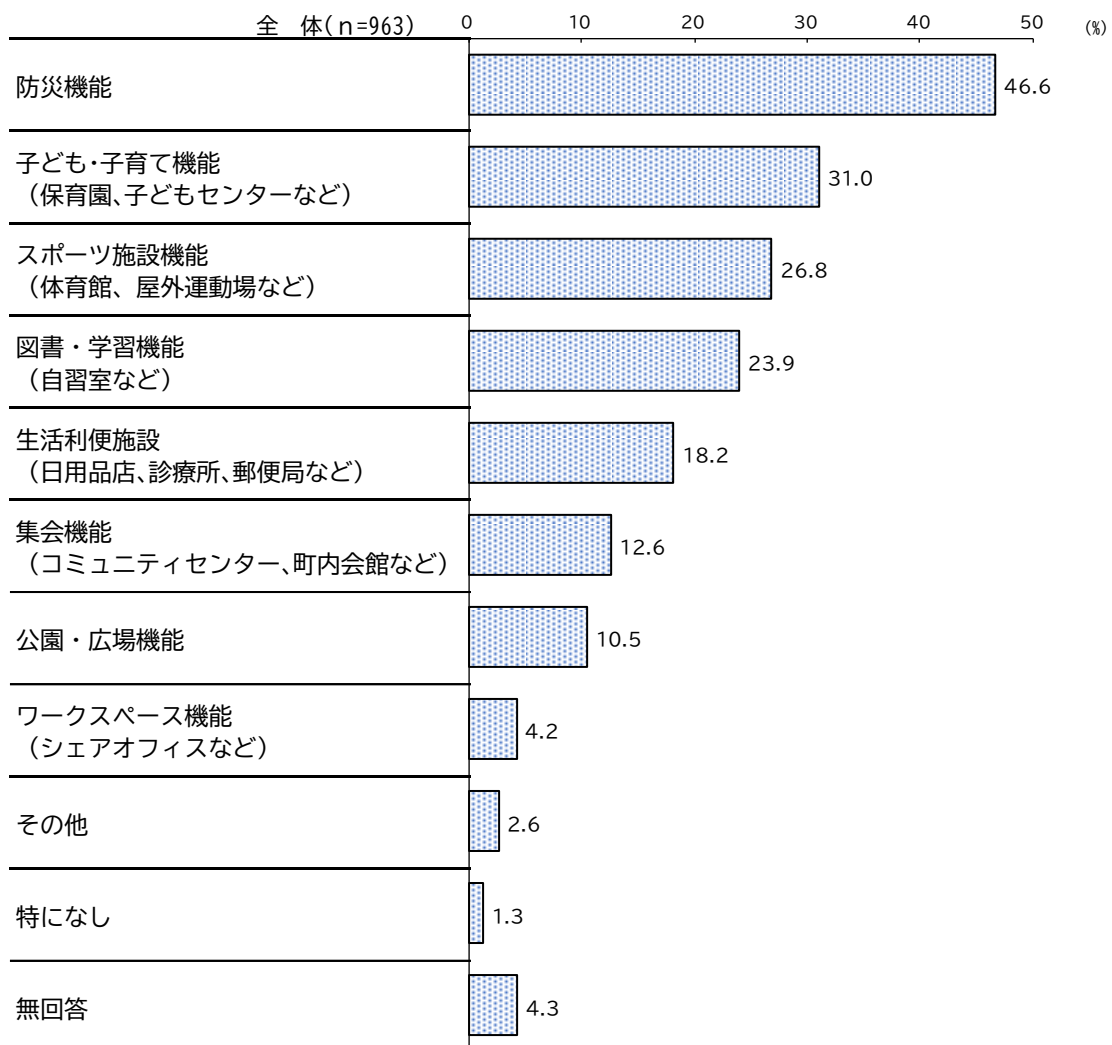
(%)

注) n(回答者数)30未満は 分析で触れていない。 (3ページ参照)。		n	様々な機能が複合化された 便利な施設	町田市の魅力向上に つながる施設	にぎわいが創出される開 放的なオープンスペース	市内に限らず市外からも 多くの人が訪れる施設	収益性の高い施設	町田市のシンボルとなる ような施設	その他	特になし	無回答
全 体		963	61.9	34.3	28.7	26.6	22.2	13.0	10.8	4.7	1.3
居住 地 域 別	相原	31	41.9	29.0	29.0	32.3	29.0	6.5	12.9	6.5	3.2
	小山	78	51.3	25.6	17.9	26.9	25.6	15.4	6.4	12.8	-
	小山田	31	58.1	35.5	22.6	25.8	35.5	22.6	6.5	-	3.2
	小野路	28	60.7	28.6	39.3	32.1	21.4	21.4	10.7	-	-
	鶴川	161	72.7	31.7	34.2	27.3	18.6	9.9	11.2	1.9	2.5
	三輪	23	56.5	21.7	21.7	43.5	21.7	8.7	4.3	4.3	-
	忠生	124	62.1	34.7	24.2	32.3	18.5	15.3	10.5	5.6	0.8
	町田	152	57.9	46.1	27.6	23.0	23.7	18.4	9.9	3.9	1.3
	玉川学園	80	60.0	35.0	28.8	30.0	22.5	15.0	12.5	-	1.3
	成瀬	95	71.6	36.8	30.5	20.0	16.8	6.3	8.4	5.3	1.1
	南	153	60.1	30.7	31.4	22.2	26.1	9.8	16.3	7.2	1.3

(3) 地域拠点にあると良い機能・サービス

問16 町田市では小・中学校などを地域の拠点として位置づけています。

あなたは、このような地域の拠点に、どのような機能・サービスがあると良いと思いますか。
(最大2つまで選択)



- ・「防災機能」(46.6%)が最も高くなっている。次いで「子ども・子育て機能(保育園、子どもセンターなど)」(31.0%)、「スポーツ施設機能(体育館、屋外運動場など)」(26.8%)が続いている。
- ・「その他」(2.6%)には「避難所・備蓄倉庫」、「高齢者福祉施設」、「児童支援」などが挙げられている。

◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「スポーツ施設機能（体育館、屋外運動場など）」は男性（31.4％）の方が女性（24.2％）より7.2ポイント高く、性別の差が最も出た選択肢となっている。
- ・上位3項目を年代別でみると、最も高い年代と最も低い年代で20ポイント以上の差がある。「防災機能」は高年代層の方が相対的に高い。60歳代が52.8％で最も高く、最も低い30歳代（28.4％）より24.4ポイント高い。「子ども・子育て機能（保育園、子どもセンターなど）」は30歳代（49.4％）が最も高く、最も低い50歳代（26.5％）より22.9ポイント高い。「スポーツ施設機能（体育館、屋外運動場など）」は40歳代（41.7％）が最も高く、最も低い60歳代（21.1％）より20.6ポイント高い。
- ・公共施設利用頻度別でみると、上位5項目は最も高い層と最も低い層で10ポイント以上の差がある。最も差があるのは、「子ども・子育て機能（保育園、子どもセンターなど）」で週に1回以上が40.7％で最も高く、最も低い過去1年間非利用（26.4％）より14.3ポイント高い。

(%)

注）n（回答者数）30未満は分析で触れていない。（3ページ参照）。		n	防 災 機 能	子 ども ・ 子 育 て 機 能（保 育 園、子 ども セ ン ター な ど）	ス ポー ツ 施 設 機 能（体 育 館、屋 外 運 動 場 な ど）	図 書 ・ 学 習 機 能（自 習 室 な ど）	生 活 利 便 施 設（日 用 品 店、診 療 所、郵 便 局 な ど）	集 会 機 能（コ ミ ュ ニ ティ セ ン ター、町 内 会 館 な ど）	公 園 ・ 広 場 機 能	ワークス ペー ス 機 能（シ ェ ア オフィス など）	その他	特になし	無回答
全 体		963	46.6	31.0	26.8	23.9	18.2	12.6	10.5	4.2	2.6	1.3	4.3
性 別	男性	389	44.5	31.4	31.4	21.9	16.2	14.1	11.8	4.9	2.6	1.8	3.6
	女性	546	48.0	31.0	24.2	25.3	20.0	11.4	10.1	3.3	2.6	1.1	4.4
	選択せず	19	47.4	26.3	21.1	26.3	10.5	10.5	-	10.5	5.3	-	15.8
年 代 別	10歳代	27	44.4	22.2	33.3	37.0	22.2	11.1	7.4	-	3.7	3.7	3.7
	20歳代	52	44.2	28.8	25.0	30.8	13.5	5.8	21.2	9.6	1.9	3.8	-
	30歳代	81	28.4	49.4	37.0	25.9	7.4	3.7	18.5	6.2	3.7	-	6.2
	40歳代	156	42.9	31.4	41.7	28.8	10.3	4.5	14.1	3.8	3.2	0.6	5.8
	50歳代	219	47.9	26.5	23.3	24.2	21.9	11.9	6.4	6.8	2.7	0.5	4.6
	60歳代	218	52.8	30.3	21.1	20.6	19.3	20.6	5.5	3.7	1.8	1.8	4.6
	70歳代以上	207	49.3	30.9	21.3	19.3	23.7	16.4	12.1	0.5	2.4	1.9	2.9
公 共 施 設 利 用 頻 度 別	週に1回以上	118	39.0	40.7	27.1	21.2	14.4	13.6	9.3	2.5	1.7	0.8	8.5
	月に1-3回程度	211	38.4	29.4	31.8	27.5	16.6	15.6	13.7	6.6	2.8	0.9	3.8
	半年に数回程度	158	50.0	29.1	31.0	29.1	16.5	10.1	7.0	4.4	5.7	-	3.2
	1年に数回程度	276	51.8	32.6	21.7	23.9	17.8	15.2	10.9	4.0	2.2	1.4	2.2
	過去1年間非利用	193	49.7	26.4	25.4	17.6	24.4	7.3	9.8	2.6	1.0	3.1	5.7

◆居住地域別

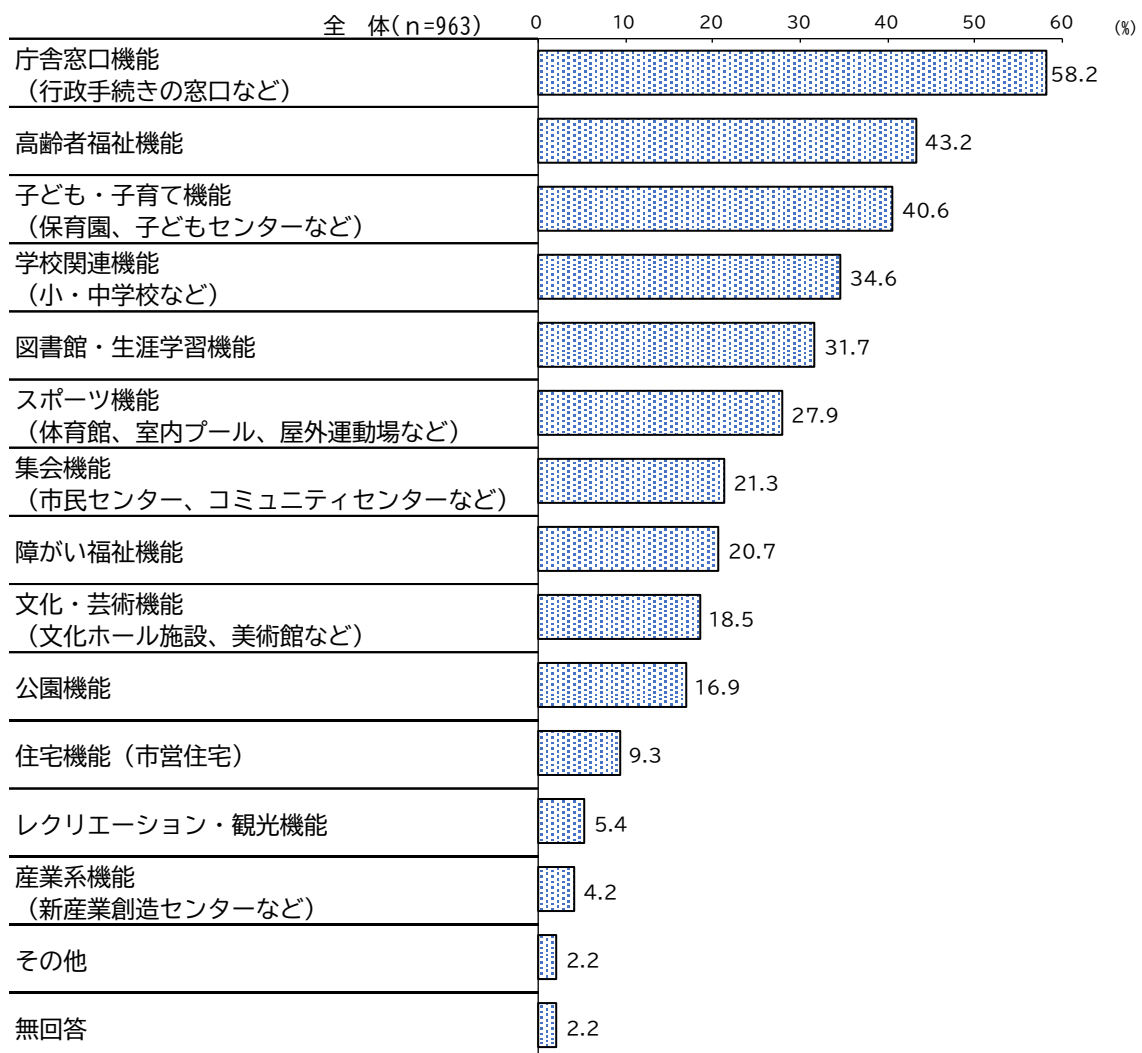
- ・居住地域別でみると、「防災機能」は小山田地区が61.3%で最も高く、最も低い忠生地区(37.9%)より23.4ポイント高い。
- ・「生活利便施設(日用品店、診療所、郵便局など)」は相原地区が29.0%で最も高く、最も低い玉川学園地区(8.8%)より20.2ポイント高い。

(%)

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。(3ページ参照)。		n	防 災 機 能	子ども・子育て機能(保育園、子どもセンターなど)	スポーツ施設機能(体育館、屋外運動場など)	図書・学習機能(自習室など)	生活利便施設(日用品店、診療所、郵便局など)	集会機能(コミュニティセンター、町内会館など)	公園・広場機能	ワークスペース機能(シェアオフィスなど)	その他	特になし	無回答
全 体		963	46.6	31.0	26.8	23.9	18.2	12.6	10.5	4.2	2.6	1.3	4.3
居住地域別	相原	31	48.4	19.4	19.4	19.4	29.0	9.7	12.9	-	3.2	3.2	6.5
	小山	78	51.3	30.8	20.5	28.2	16.7	9.0	7.7	9.0	1.3	2.6	2.6
	小山田	31	61.3	35.5	16.1	16.1	9.7	16.1	12.9	3.2	-	-	6.5
	小野路	28	35.7	21.4	25.0	32.1	17.9	10.7	17.9	7.1	10.7	-	7.1
	鶴川	161	48.4	30.4	28.6	23.6	18.6	11.2	12.4	2.5	1.9	-	5.6
	三輪	23	60.9	26.1	30.4	8.7	30.4	26.1	-	-	-	4.3	-
	忠生	124	37.9	26.6	30.6	24.2	26.6	16.9	8.9	3.2	4.0	2.4	1.6
	町田	152	47.4	34.2	28.3	22.4	17.8	9.2	13.2	3.3	2.0	1.3	3.3
	玉川学園	80	40.0	31.3	30.0	31.3	8.8	11.3	6.3	7.5	2.5	1.3	5.0
	成瀬	95	46.3	33.7	18.9	25.3	18.9	13.7	10.5	4.2	4.2	1.1	5.3
	南	153	47.7	34.0	30.1	22.2	15.0	13.7	10.5	4.6	2.0	1.3	5.2

(4) 優先的に維持していく必要がある公共施設の機能・サービス

問17 今後、人口減少や厳しい財政状況の中で、今ある全ての公共施設をそのまま維持することはできません。そのような中で、どのような公共施設の機能・サービスを優先的に維持していく必要があると思いますか。（最大4つまで選択）



- ・「庁舎窓口機能（行政手続きの窓口など）」（58.2%）が最も高くなっている。次いで「高齢者福祉機能」（43.2%）、「子ども・子育て機能（保育園、子どもセンターなど）」（40.6%）が続いている。
- ・「その他」（2.2%）には「商業施設」、「複合施設」、「道路交通系機能」などが挙げられている。

◆性別、年代別、公共施設利用頻度別

- ・性別でみると、「図書館・生涯学習機能」は女性（34.4％）の方が男性（28.0％）より6.4ポイント高く、性別の差が最も出た選択肢となっている。
- ・年代別でみると、「学校関連機能（小・中学校など）」、「子ども・子育て機能（保育園、子どもセンターなど）」、「高齢者福祉機能」は、年代間差が最大30ポイント以上ある。
- ・公共施設利用頻度別でみると、「スポーツ機能（体育館、室内プール、屋外運動場など）」と「集会機能（市民センター、コミュニティセンターなど）」は、利用頻度が高くなるにつれ上昇している。

											(%)
注）n（回答者数）30未満は分析で触れていない。（3ページ参照）。		n	庁舎窓口機能（行政手続きの窓口など）	高齢者福祉機能	子ども・子育て機能（保育園、子どもセンターなど）	学校関連機能（小・中学校など）	図書館・生涯学習機能	スポーツ機能（体育館、室内プール、屋外運動場など）	集会機能（市民センター、コミュニティセンターなど）	障がい福祉機能	
全 体		963	58.2	43.2	40.6	34.6	31.7	27.9	21.3	20.7	
性別	男性	389	56.0	39.3	38.0	34.2	28.0	29.0	22.4	18.8	
	女性	546	60.1	45.2	41.9	34.8	34.4	27.7	20.9	21.1	
	選択せず	19	36.8	57.9	52.6	36.8	26.3	15.8	21.1	47.4	
年代別	10歳代	27	48.1	25.9	40.7	44.4	29.6	59.3	11.1	33.3	
	20歳代	52	53.8	25.0	53.8	57.7	30.8	26.9	9.6	25.0	
	30歳代	81	46.9	22.2	67.9	51.9	37.0	30.9	14.8	13.6	
	40歳代	156	50.0	35.9	46.8	48.1	37.2	41.7	16.7	16.7	
	50歳代	219	59.8	49.3	33.8	34.2	27.9	26.0	15.5	26.5	
	60歳代	218	64.7	47.7	39.0	27.5	29.4	21.6	29.4	19.7	
	70歳代以上	207	61.8	52.7	30.9	18.8	32.4	21.3	29.5	18.8	
公共施設利用頻度別	週に1回以上	118	45.8	34.7	44.1	28.8	37.3	42.4	25.4	15.3	
	月に1-3回程度	211	55.0	35.5	40.8	33.6	40.3	32.7	24.2	18.0	
	半年に数回程度	158	57.6	44.9	46.2	47.5	30.4	30.4	20.9	21.5	
	1年に数回程度	276	62.0	46.7	39.9	36.6	27.9	23.9	19.6	22.5	
	過去1年間非利用	193	64.2	50.8	35.2	26.4	25.4	18.1	18.7	23.3	
注）n（回答者数）30未満は分析で触れていない。（3ページ参照）。		n	文化・芸術機能（文化ホール施設、美術館など）	公園機能	住宅機能（市営住宅）	レクリエーション・観光機能	産業系機能（新産業創造センターなど）	その他	無回答		
全 体		963	18.5	16.9	9.3	5.4	4.2	2.2	2.2		
性別	男性	389	19.8	19.0	6.9	5.9	5.4	3.1	2.8		
	女性	546	18.3	16.1	11.2	4.8	2.7	1.6	1.6		
	選択せず	19	-	5.3	5.3	5.3	10.5	-	5.3		
年齢	10歳代	27	7.4	22.2	14.8	7.4	3.7	-	3.7		
	20歳代	52	11.5	28.8	5.8	1.9	1.9	-	1.9		
	30歳代	81	18.5	25.9	8.6	4.9	4.9	-	1.2		
	40歳代	156	10.9	21.2	9.0	8.3	3.2	1.3	2.6		
	50歳代	219	15.1	12.3	9.1	6.4	5.9	3.2	0.9		
	60歳代	218	23.9	16.5	11.5	6.4	3.2	2.3	2.3		
	70歳代以上	207	24.6	12.1	8.2	1.9	3.9	3.4	3.4		
公共施設利用頻度別	週に1回以上	118	24.6	22.9	5.1	5.9	5.1	2.5	3.4		
	月に1-3回程度	211	23.7	19.0	9.5	3.8	3.3	2.4	2.4		
	半年に数回程度	158	16.5	13.3	5.1	5.1	3.2	2.5	1.3		
	1年に数回程度	276	15.6	17.0	11.2	5.4	4.7	1.4	1.8		
	過去1年間非利用	193	14.5	14.0	13.0	7.3	4.1	2.6	2.1		

◆居住地域別

- ・居住地域別でみると、「庁舎窓口機能（行政手続きの窓口など）」は相原地区が71.0%で最も高く、次いで鶴川地区が64.6%が続いている。
- ・「高齢者福祉機能」は小山田地区（58.1%）、小山地区（56.4%）が56%以上となっている。相原地区が32.3%で最も低く、小山田地区より25.8ポイント低い。

(%)

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。 (3ページ参照)。	n	庁舎窓口機能 (行政手続きの窓口 など)	高齢者福祉 機能	子ども・子 育て機能 (保育園、 子どもセン ターなど)	学校関連機 能(小・中学 校など)	図書館・生 涯学習機能	スポーツ機 能(体育 館、室内 プール、屋 外運動場な ど)	集会機能 (市民セン ター、コ ミュニティ センターな ど)	障がい福祉 機能
全 体	963	58.2	43.2	40.6	34.6	31.7	27.9	21.3	20.7
居住 地 域 別	相原	71.0	32.3	38.7	35.5	29.0	19.4	25.8	16.1
	小山	56.4	56.4	44.9	38.5	24.4	21.8	28.2	32.1
	小山田	54.8	58.1	25.8	32.3	32.3	29.0	19.4	25.8
	小野路	50.0	35.7	42.9	35.7	21.4	39.3	21.4	35.7
	鶴川	64.6	41.0	35.4	36.0	36.0	24.2	21.1	12.4
	三輪	39.1	39.1	39.1	34.8	34.8	43.5	21.7	13.0
	忠生	58.1	47.6	40.3	29.0	25.0	23.4	26.6	21.0
	町田	59.2	39.5	45.4	33.6	36.2	25.7	17.1	18.4
	玉川学園	58.8	37.5	41.3	35.0	37.5	37.5	15.0	20.0
	成瀬	55.8	38.9	37.9	32.6	29.5	31.6	17.9	26.3
	南	54.2	45.1	43.1	37.9	32.0	30.1	22.2	20.9

注) n(回答者数)30未満は分析で触れていない。 (3ページ参照)。	n	文化・芸術 機能(文化 ホール施 設、美術 館など)	公園機能	住宅機能 (市営住宅)	レクリエー ション・観 光機能	産業系機能 (新産業創 造センター など)	その他	無回答
全 体	963	18.5	16.9	9.3	5.4	4.2	2.2	2.2
居住 地 域 別	相原	19.4	16.1	25.8	6.5	12.9	3.2	-
	小山	17.9	14.1	6.4	7.7	1.3	-	-
	小山田	16.1	29.0	9.7	6.5	-	6.5	6.5
	小野路	25.0	10.7	17.9	-	-	-	3.6
	鶴川	19.3	13.7	8.1	5.0	2.5	2.5	4.3
	三輪	17.4	8.7	4.3	-	4.3	-	-
	忠生	19.4	14.5	12.1	10.5	6.5	3.2	0.8
	町田	17.8	21.1	8.6	3.3	7.2	2.0	2.0
	玉川学園	23.8	18.8	10.0	5.0	3.8	1.3	3.8
	成瀬	16.8	17.9	6.3	4.2	3.2	5.3	-
	南	15.7	19.0	8.5	5.2	2.6	-	2.6

(5) 町田市の公共施設についてのご意見（自由記述）

問18 そのほか、町田市の公共施設について、これまでお答えいただいたこと以外に何かご意見があれば、ご記入ください。（自由記述）

注) 自由記述の回答数は302件あったが、複数分野について言及されている方もいたため、意見数の合計は全体の回答数とは一致しない。

そのほか、町田市の公共施設について	回答数 (n=302)
公共施設	132
ペット対応公園/利用ルール/新規公園/森林・自然の確保	17
官民連携の考え方/透明性を担保した仕組みづくり	14
公共施設の分散/地域差是正	12
災害用設備の充実/災害拠点としての役割	9
団地・空き施設・空地の活用	8
公共施設のあり方に対する意見・考え方	8
新規施設反対	8
高齢者のための運営/施設新設	8
廃校反対/慎重に進めるべき	7
公共施設の利用ルールについて	7
市外からの集客ができる運営	5
施設再編・統廃合の考え方	5
施設統廃合賛成	5
公共施設の維持・運営	4
予算に応じた部分修繕/無駄な修繕計画の見直し	3
アクセスが悪い施設がある/駅近の施設が必要	3
売却・貸与賛成	3
売却・貸与反対	2
古い公共施設は建て直すべき	2
公共施設関連の情報開示が必要	2
市の運営に対する意見/考え方	120
都市計画・ビジョンの策定	19
アンケート調査について	12
市の運営に対する意見・考え方	10
子育て世帯が住みやすいように	10
AI/ロボット/テクノロジー導入推進	10
広報の改善/推進/案内配布	9
治安維持/外国人のマナー/繁華街について	9
市役所等の受付対応/土日対応/時間延長等	6
イベント・催し物の開催	6
サッカー関連の支出を見直すべき	5
職員の質向上・改善	4
エコ/クリーンエネルギー/リサイクルについて	4
清掃/美化	4
ボランティアを活用すべき	3
近隣自治体との連携	3
物価高対策/補助金	2
ゴミ回収/ゴミ袋について	2
地場特産品の活用	2
新規施設について	84
子ども用施設・保育園・教育環境の確保	25
新規施設推進	21
図書館の新設/運営について	10
多世代対応施設/見守り/交流の場	8
駅に隣接したサッカースタジアムの新設	6
病院の新設/運営について	4
モノレール延伸賛成	4
モノレール延伸反対	3
映画館の新設	3
交通網の整備	40
道路整備/歩道等の整備	14
コミュニティバス・スクールバス運行/交通網の整備	13
駐輪場・駐車場の整備	13

資料編

これからの公共施設 のあり方に関する 市民アンケート



市民の皆さまには、平素から市政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

町田市では、「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」及び「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」の2つの計画改定に向けて、検討を行っています。

「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」は、公共施設の総合的かつ計画的な管理に関する方向性等を示している計画です。また、「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」は、「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」に掲げる方向性を具体化する実行計画です。

これらの計画の改定にあたり、これからの公共施設のあり方等に関するニーズを把握するため、本アンケート調査を実施することといたしました。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

2025年6月 町田市長 石坂 丈一

回答は「郵送」または「インターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）」のいずれかの方法で行うことができます。詳細は2ページ目をご覧ください。

回答期限 : 2025年6月30日(月)まで(回答・投函)

問い合わせ先 町田市 政策経営部 企画政策課 電話：042-722-3111(代表)

※ 本調査は町田市にお住まいの15歳以上の方を対象に、無作為に3,000人の方を抽出し送付しております。

※ 本調査は**無記名**です。お名前を記載する必要はありません。お答えいただいた内容は統計的に処理するため、**回答者が特定されることはありません。**

郵送での回答方法

この調査票に回答をご記入いただき、同封いたしましたアンケート返送用封筒に入れて期限までにお近くのポストへ投函してください（切手を貼る必要はございません）。

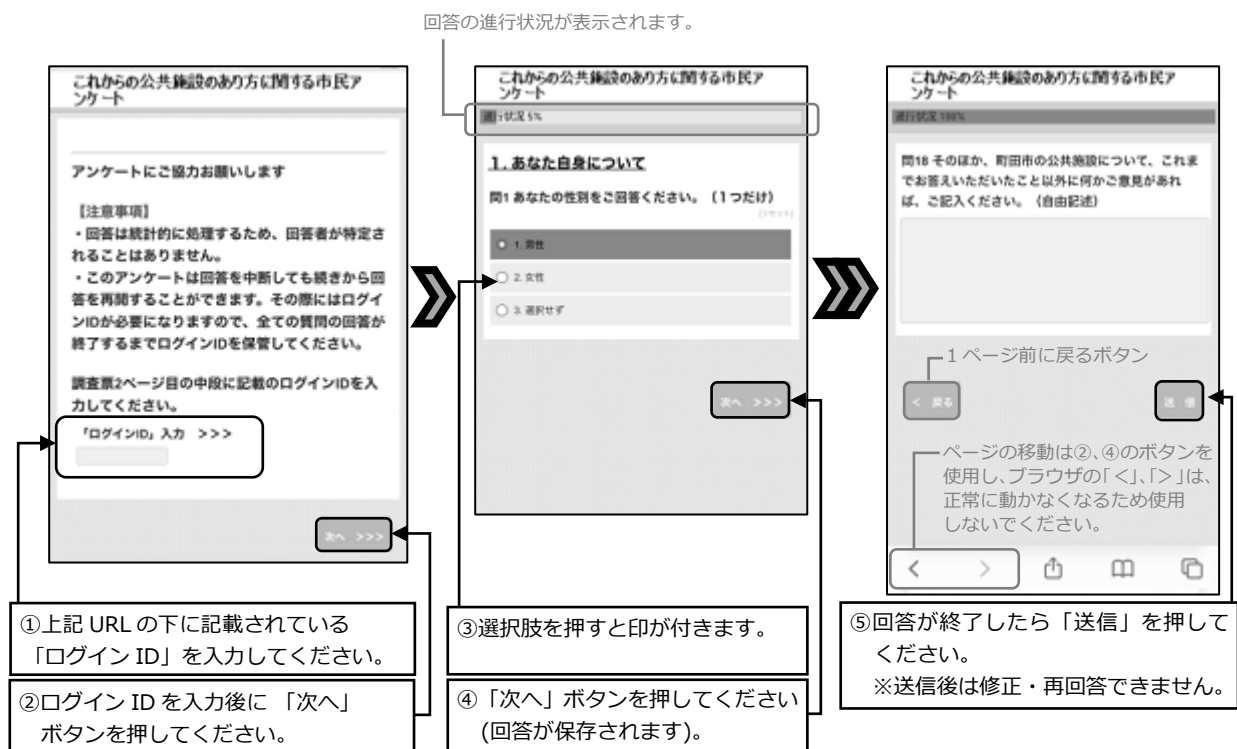
インターネットでの回答方法

パソコン、スマートフォン、タブレットで、下の二次元コードを読み取るか、下記URLを入力して回答フォームへアクセスし、ログインID（URLの下に記載）を入力の上、期限までに回答を入力・送信してください。

U R L : <https://www.xxx.co.jp/xxx/xxxxx>
ログイン ID :

見本

インターネット回答の画面（スマートフォンの場合）



<回答に際してのお願い>

- ▶ アンケートをお送りした**お名前のご本人**がお答えください。
※ ご本人が長期不在等で回答できない場合は、ご回答は不要です。お手数ですが、この調査票は破棄してください。
- ▶ 回答は質問ごとに、当てはまる選択肢を選んでいただく形式です（一部、自由記述があります）。
- ▶ 選択肢について、選んでいただく数は「1つだけ」、「いくつでも」、「最大3つまで」等と指定されています。
指定数よりも多く選択された場合、集計上無効となってしまいますので、ご注意ください。
- ▶ 選択肢「その他」を選んだ場合は、（ ）内に具体的な内容をご回答ください。
- ▶ 回答に迷う場合は、あなたの考えにできるだけ近いものをご回答ください。
- ▶ 回答方法は、郵送回答では選択肢の番号に○をつけ、インターネット回答では選択肢をクリックして（押し）てください。
- ▶ 回答を修正する場合は、郵送回答では回答内容を二重線で消して再度、回答を記入し、インターネット回答では再度、選択肢を選び直してください。
- ▶ インターネット回答では、「次へ」ボタンを押すことで回答が一時保存されます。
- ▶ 調査についてのお問い合わせは、表紙の問い合わせ先までお願いいたします。

1. あなた自身について



問 1 あなたの性別をご回答ください。(1つだけ)

1 男性

2 女性

3 選択せず

問 2 あなたの年齢の年代をご回答ください。(1つだけ)

1 10 歳代

2 20 歳代

3 30 歳代

4 40 歳代

5 50 歳代

6 60 歳代

7 70 歳代以上

問 3 あなたの職業をご回答ください。(1つだけ)

1 会社員・公務員

2 自営業

3 自由業

4 家事専業

5 経営者・役員

6 パート・アルバイト

7 学生

8 無職

9 その他(具体的に: _____)

問 4 あなたのお住まい(町名)をご回答ください。(50音順)(1つだけ)

1 相原町

2 旭町

3 大蔵町

4 小川

5 小野路町

6 小山ヶ丘

7 小山田桜台

8 小山町

9 金井

10 金井ヶ丘

11 金井町

12 金森

13 金森東

14 上小山田町

15 木曽西

16 木曽東

17 木曽町

18 高ヶ坂

19 下小山田町

20 真光寺

21 真光寺町

22 函師町

23 忠生

24 玉川学園

25 つくし野

26 鶴川

27 鶴間

28 常盤町

29 中町

30 成瀬

31 成瀬が丘

32 成瀬台

33 西成瀬

34 根岸

35 根岸町

36 能ヶ谷

37 野津田町

38 原町田

39 東玉川学園

40 広袴

41 広袴町

42 藤の台

43 本町田

44 南大谷

45 南つくし野

46 南成瀬

47 南町田

48 三輪町

49 三輪緑山

50 森野

51 薬師台

52 矢部町

53 山崎

54 山崎町

問 5 あなたの同居家族の構成は、次のどれにあたりますか。(1つだけ)

1 単身世帯(一人世帯)

2 夫婦のみ世帯(事実婚を含む)

3 二世帯世帯(親と子)

4 三世帯世帯(親と子と孫)

5 その他(具体的に: _____)

問 6 あなたのご自宅の最寄り駅をご回答ください。最寄り駅と電車に乗る際によく利用する駅が異なる場合は、最もよく利用する駅をご回答ください。(1つだけ)

1 町田駅(小田急線)

2 町田駅(横浜線)

3 玉川学園前駅

4 鶴川駅

5 柿生駅

6 多摩センター駅

7 唐木田駅

8 多摩境駅

9 橋本駅

10 相原駅

11 相模原駅

12 矢部駅

13 淵野辺駅

14 古淵駅

15 成瀬駅

16 こどもの国駅

17 つくし野駅

18 すずかけ台駅

19 南町田グランベリーパーク駅

20 その他

21 鉄道は使わない

問 7 あなたは町田市の公共施設をどの程度利用していますか。概ね最近 1 年間程度の状況でご回答ください。(1つだけ)

1 週に 1 回以上利用する

2 月に 1 ～ 3 回程度利用する

3 半年に数回程度利用する

4 1 年に数回程度利用する

5 過去 1 年間で利用したことはない

2. 公共施設の「より良いかたち」の実現に向けて

市は、公共施設・公共空間の「より良いかたち」の実現に向けて、公共施設の再編などに取り組んでいます。そこで、以下の説明をご覧ください、公共施設・公共空間の「より良いかたち」の実現に向けた取り組みの方向性等に関するご質問へご回答ください。

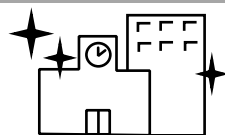
公共施設の「より良いかたち」の実現に向けて

▶ 進む 公共施設の老朽化

1970
年代
前後

高度経済成長期の中、
急激な 人口増加 ↗

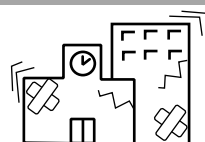
学校をはじめとした
多くの公共施設を整備



これ
から

厳しい財政状況の中、
人口減少 局面へ ↘

多くの公共施設の 老朽化
が進み 更新時期 が到来



▶ 維持管理・更新に掛かる 費用不足

公共施設の
維持管理・更新費用
が 増大



今ある 全ての公共施設
をそのまま 維持 して
いくことは できない



▶ 技術進歩 や多様な 官民連携 の進展

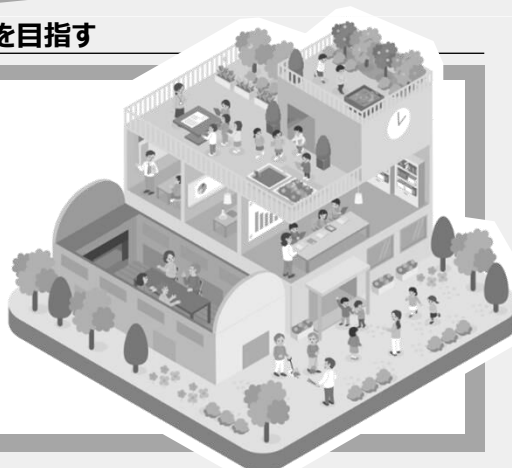
A I、I C T、ロボットなど
目覚ましい テクノロジーの進化
民間事業者、N P O、地域団体など、
多様な主体との連携 が進展

手続きのデジタル化、民間ノウハウの活用などにより
より 便利 で 質の高い サービス、
より 効率的 なサービスの
提供が実現可能に



▶ 「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現を目指す

町田市では、公共施設の更新時期にあわせた再編を
新たな価値創出 の チャンス と捉え、
単に施設を減らし コストダウン を図るだけではなく、
これまでの 価値 や 資源、想い を継承しながらも、
時代に適応 した将来につながるかたちへ
変えていきます。



問 8 「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現に向けた以下の課題認識や方向性について、どう思いますか。問 8-1 から問 8-5 について、あなたの考えに最も近い選択肢をそれぞれお選びください。（それぞれ 1 つずつ）

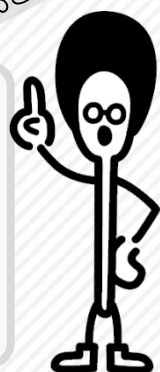
	1 理解できる	2 概ね理解できる	3 あまり理解できない	4 理解できない
問 8-1 誰もが安心して公共施設を利用できるよう、重大事故の未然防止など、安全性の確保を最優先として、公共施設を管理する必要がある。	1	2	3	4
問 8-2 公共施設を多く整備した高度経済成長期の頃とは大きく異なり、かつてのように莫大な更新費用を捻出することが困難な中でも、安全性を確保し、公共施設を健全に管理するため、再編を進める必要がある。	1	2	3	4
問 8-3 公共施設の再編にあたっては、A I、ロボットなどのテクノロジーの進化や、コロナ禍を契機としたライフスタイル等の変化などを踏まえ、公共施設のあり方を柔軟に見直していく必要がある。	1	2	3	4
問 8-4 災害に強いまちづくりや、豊かな地域社会の実現のため、小・中学校といった身近な公共施設における地域拠点としての役割は、維持していく必要がある。	1	2	3	4
問 8-5 単に施設を減らしコストダウンを図るだけではなく、これまでの価値や資源、想いを継承しながらも、時代に適応した将来につながるかたちへ変えていく。	1	2	3	4

公共施設見直しキャラクター紹介

みんなと一緒にって公共施設のより良いかたちを考えていくよ！

まちおさん

まじめで物知りなまちぼう。まちだの「まち」→「まっち」→「まっちぼう」だじゃれだね。



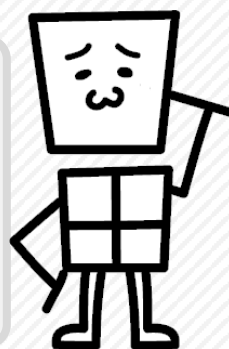
まちにゃん

無邪気でいつも元気なねこ。耳のかたちが英語の Machida（まちだ）の M になっているよ。



まちロボ

ちょっぴりおっちょこちょいなロボット。よく見ると、からだの漢字の町田（まちだ）になっているよ。



3. 公共施設再編の取り組みについて



市の公共施設再編の取り組みについて、お聞きします。以下の説明をご覧ください、ご回答ください。

公共施設再編の取り組みについて

▶ 公共施設の再編に関する 4 つの基本方針

以下の 4 つの基本方針に基づき、公共施設の再編など、公共施設の計画的な管理を進めています。

① 施設総量の圧縮

【具体的な取り組み】

- ・施設集約
- ・施設の複合化・多機能化

- 施設のあり方の見直しや効果的な施設の再配置を行うことで、安全・安心に施設を維持管理できる施設量（総延床面積）に減らします。
- 今後は原則、廃止を伴わない施設の新設は行わず、施設の建替えを行う場合は、施設の複合化・多機能化を進めていきます。

② ライフサイクル

コストの縮減

【具体的な取り組み】

- ・維持管理費用の削減
- ・施設の長寿命化

- 施設に関する一元化された情報や新公会計制度による財務情報を使うことにより、維持管理運営の見直しや必要なメンテナンス及び改修を着実に実行し、ライフサイクルコストと呼ばれる、施設の建設から施設の管理や運営、そして建替えまでのトータルの費用を減らします。

③ 官民連携による

サービス向上

【具体的な取り組み】

- ・市民・地域連携
- ・PPP/PFI の導入
- ・他自治体との連携

- 市民や民間事業者、他自治体などの多様な主体との連携により、ニーズの変化などに対応した柔軟で付加価値の高いサービス提供を行います。これまで以上の効率化や民間のノウハウや資金の活用などにより、行政だけでは提供できない、利用者目線に立ったより市民満足度の高いサービスの提供を目指します。

④ 既存資源の有効活用

【具体的な取り組み】

- ・市有財産の戦略的活用
- ・人の交流や公益的なサービスを創出する場づくりへの支援

- 施設の余っているスペースや未利用地といった土地を市民が交流するための場所やコミュニティの活力を発揮・創出する場所として有効活用します。
- 市民や民間事業者などによる民有施設や民有地を活用した人の交流や公益的サービスが創出される空間づくりを支援していきます。

問 9 公共施設にかかる維持管理費用を減らす方法として、今ある施設の余っているスペースを活用し、今までは一つのサービスしか行っていなかった施設で複数のサービスを提供できるようにする「複合化」・「多機能化」という考え方があります。

この「複合化」・「多機能化」の考え方をうまく活用して、施設の総量を減らして施設に関する維持管理費用を減らしていくという考え方についてどうお考えですか。(1つだけ)

- 1 よい 2 どちらかといえばよい 3 どちらかといえばよくない 4 よくない
5 その他（具体的に： _____）

問 10 市民が日常的に利用するような身近にあることが望ましいサービスは、地域の拠点として地域に残す一方、地域住民だけでなく、多くの市民が利用するようなサービスは、町田駅周辺をはじめとした駅やバス網が充実している交通利便性の高い地域に集約していくという考え方があります。

このような考え方で公共施設再編を進めていくことについてどうお考えですか。(1つだけ)

- 1 よい 2 どちらかといえばよい 3 どちらかといえばよくない 4 よくない
5 その他（具体的に： _____）

問 11 施設の建替えや改修にかかる費用を減らしていく方法として、施設を長持ちさせるために改修等などの投資を事前にしっかりと行っていく「長寿命化」という考え方があります。

この「長寿命化」という方法を活用して、今ある施設をできるだけ長く使っていくという考え方についてどうお考えですか。(1つだけ)

- 1 よい 2 どちらかといえばよい 3 どちらかといえばよくない 4 よくない
5 その他（具体的に： _____）

問 12 市が担っていた公共サービスの一部を民間事業者や NPO、地域住民等が担うことで、これまでほど税金を使わずにサービスを提供したり、これまで以上にもっと身近な場所や便利な時間に公共サービスが受けられるようにしていく方法として、「官民連携」という考え方があります。この「官民連携」という方法を活用して、市民にとって必要なサービスをより効果的・効率的に提供するという考え方についてどうお考えですか。(1つだけ)

- 1 よい 2 どちらかといえばよい 3 どちらかといえばよくない 4 よくない
5 その他（具体的に： _____）

問 13 公共施設の再編によって空いた土地や施設などを、新たなサービスの創出や公共施設の維持管理に充てる資金調達という視点から、貸付・売却を積極的に行うという考え方があります。このような考え方で町田市が所有している土地や建物を効果的に利活用していくことについてどうお考えですか。(1つだけ)

- 1 よい 2 どちらかといえばよい 3 どちらかといえばよくない 4 よくない
5 その他（具体的に： _____）

4. 公共施設の“みらい”について



公共施設の“みらい”について、お聞きします。以下の説明をご覧ください、ご回答ください。

さまざまな社会情勢などの変化

公共施設の“みらい”を考えるうえでは、時代に応じて変化するニーズを見極めながら、あり方を柔軟に見直していく必要があります。ここでは、公共施設の“みらい”を考えるうえで考慮すべき、主な社会情勢などの変化をご紹介します。

▶ テクノロジーの進化、ライフスタイルの変化

AI、ICT、ロボットなど、
目覚ましい **テクノロジーの進化**

柔軟な働き方の浸透など、コロナ禍を
契機とした **ライフスタイルの変化**

サービスデザインの変革に伴い、公共施設のあり方も変わっていく



出展：総務省「未来をつかむTECH戦略」2030年代に実現したい未来

▶ 地域コミュニティのあり方の変化

コロナ禍等の社会環境の変化による
地域活動の縮小

町内会・自治会活動などの
地域活動に参加しない人の増加

民生委員や消防団員などの
地域の担い手の減少

地域力の低下
の兆候が懸念
される

災害に強いまちづくりや
豊かな地域社会の実現のため
将来にわたって **持続可能**
な **地域コミュニティ**
の **拠点** となる公共施設の
あり方も変わっていく

▶ 主なまちづくりの動向

町田駅周辺 の **開発**
から **50年** が経過

新たな賑わい と **交流** の
創出を目指し **再開発** を推進

多摩都市モノレール
の **延伸** ルートが決定

町田方面 **延伸の早期実現**
を目指し、まちづくりを推進

大規模団地 の建設から
50年 近く経過

団地の **更新、活性化** など
団地再生 を推進

まちづくりと連動 した
配置 や **更新** など、
まちづくりの動向にあわせて
公共施設のあり方も変わっていく



大きな駅や身近な
生活の拠点などに
どんな公共施設が
あると良いかな？

問 14 A I やロボットなどのテクノロジーが進化し、ライフスタイルや地域コミュニティのあり方が変化していく中で、公共施設に求められる役割も変化していきます。
そこで、これからの公共施設の役割を考えるうえで重要だと思うキーワードを、以下の選択肢からお選びください。(いくつでも)

- | | | | | |
|---------|--------------------|---------------|----------|----------|
| 1 つながる | 2 温かい | 3 地域コミュニティの拠点 | 4 安全・安心 | 5 多世代 |
| 6 居場所 | 7 にぎわい | 8 体験 | 9 交流 | 10 シンボル |
| 11 多目的 | 12 持続可能 | 13 テクノロジーの活用 | 14 経営的視点 | 15 災害に強い |
| 16 柔軟 | 17 ゆとりある | 18 憩う | 19 開放的 | 20 身近 |
| 21 気軽 | 22 その他（具体的に：_____） | | | |
| 23 特になし | | | | |

問 15 あなたは、町田駅や鶴川駅、南町田グランベリーパーク駅などの主要な駅周辺に、どのような公共施設があると良いと思いますか。(最大3つまで)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 町田市の魅力向上につながる施設 | 2 様々な機能が複合化された便利な施設 |
| 3 町田市のシンボルとなるような施設 | 4 市内に限らず市外からも多くの人々が訪れる施設 |
| 5 収益性の高い施設 | 6 にぎわいが創出される開放的なオープンスペース |
| 7 その他（具体的に：_____） | |
| 8 特になし | |

問 16 町田市では小・中学校などを地域の拠点として位置づけています。

あなたは、このような地域の拠点に、どのような機能・サービスがあると良いと思いますか。(最大2つまで)

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 子ども・子育て機能(保育園、子どもセンターなど) | 2 図書・学習機能(自習室など) |
| 3 スポーツ施設機能(体育館、屋外運動場など) | 4 防災機能 |
| 5 集会機能(コミュニティセンター、町内会館など) | 6 公園・広場機能 |
| 7 生活利便施設(日用品店、診療所、郵便局など) | 8 ワークスペース機能(シェアオフィスなど) |
| 9 その他（具体的に：_____） | |
| 10 特になし | |

問 17 今後、人口減少や厳しい財政状況の中で、今ある全ての公共施設をそのまま維持することはできません。そのような中で、どのような公共施設の機能・サービスを優先的に維持していく必要があると思いますか。(最大4つまで)

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 庁舎窓口機能(行政手続きの窓口など) | 2 図書館・生涯学習機能 |
| 3 集会機能(市民センター、コミュニティセンターなど) | 4 学校関連機能(小・中学校など) |
| 5 子ども・子育て機能(保育園、子どもセンターなど) | 6 高齢者福祉機能 |
| 7 文化・芸術機能(文化ホール施設、美術館など) | 8 障がい福祉機能 |
| 9 スポーツ機能(体育館、室内プール、屋外運動場など) | 10 公園機能 |
| 11 レクリエーション・観光機能 | 12 住宅機能(市営住宅) |
| 13 産業系機能(新産業創造センターなど) | |
| 14 その他（具体的に：_____） | |

※ ライフライン機能(ゴミ処理・下水道等)、保健・医療機能、防災機能は、市民の生命にかかわることから、最優先に維持すべき機能として、対象から除いています。

問 18

そのほか、町田市の公共施設について、これまでお答えいただいたこと以外に何かご意見があれば、ご記入ください。（自由記述）

[illegible]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて

2025年 6月30日（月）までにご投函ください。



町田市

公共施設の"みらい"を
考えるワークショップ
を開催するよ！
詳しくは次のページを
見てね！





地域に必要な公共施設ってなんだろう？

公共施設

の みらい

を考える ワークショップ

参加者
募集！

事前申込
(先着順)

申込みは
6月25日(水)
まで！

参加者には
プレゼントが
あるよ！



これからの地域に必要な公共施設の役割や、
みんなが集まる地域の拠点（公共施設）など、
“公共施設のみらい”について、一緒に考えてみませんか？

対 象 町田市在住・在学・在勤の方、町田市の公共施設利用者、町田市内団体（各回15名）

会 場 鶴川市民センター 南市民センター 小山市民センター 忠生市民センター 町田市庁舎

日 時 7月5日(土) 9:30～11:30 7月5日(土) 14:00～16:00 7月12日(土) 9:30～11:30 7月12日(土) 14:00～16:00 7月13日(日) 9:30～11:30

どの回も同じテーマでグループワークを行います。ご都合の良い会場、日程をお選びください。

コロナ禍を契機としたライフスタイルの変化や、デジタル化の進展、昨今の急激な物価高騰など、さまざまな変化の中で、これからの公共施設に求められる役割も変化しています。このワークショップでは、将来につながる“公共施設のよりよいかたち”の実現に向けて、これからの公共施設の役割などをみなさまと一緒に考えていきます。

申し込み方法
は裏面へ！



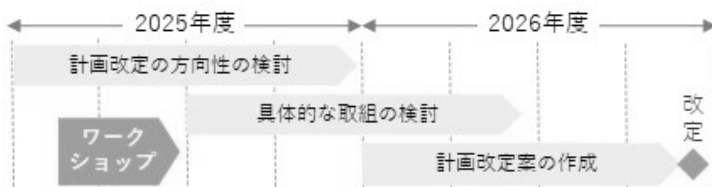
なぜワークショップをやるの？



現在、町田市では、公共施設などの総合的な管理に関する方針などを示す「町田市公共施設等総合管理計画」と、その実行計画「町田市公共施設再編計画」の改定に向けた検討を進めています。

これらの計画の改定に向けて、このワークショップのほか、市民アンケート調査等を通して、市民の皆さまのご意見を伺いながら、検討を進めていきます。

現計画の内容や改定に向けた検討状況などの情報は、右の二次元コードをご覧ください。



公共施設見直しキャラクター

まちおさん まちにゃん まちロボ



申し込み方法

以下のいずれかの方法でお申し込みください。



▶ 右記二次元コードを読み取って、お申し込みください

以下のリンク先に直接アクセスしていただくことも可能です。
https://www.city.machida.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=koukyou2025



▶ 下記の電話番号までお電話ください

042-724-2103 受付時間 8:30~17:00 (土・日・祝日を除く)



▶ 以下の申込書を記入のうえ下記FAX番号へお送りください

050-3085-3082



↑ ウェブフォームでの申し込みはこちら

申込期間
~6/25(水)
(先着順)

申込書

※FAXでお申し込み希望の方は、以下の欄にご記入下さい※

お名前	年代	<input type="checkbox"/> 20代未満 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上
ご住所 〒	電話番号	() -

【ワークショップ開催日時・会場】 参加をご希望の回にチェック☑してください

鶴川市民センター	南市民センター	小山市民センター	忠生市民センター	町田市庁舎
7月5日(土) 9:30~11:30	7月5日(土) 14:00~16:00	7月12日(土) 9:30~11:30	7月12日(土) 14:00~16:00	7月13日(日) 9:30~11:30
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



お問合せ先

町田市 政策経営部 企画政策課 公共施設再編担当

〒194-8520 町田市森野2-2-22 電話：042-724-2103 FAX：050-3085-3082